

MAC-Transer V11.5

MED-Transer V11.5

ユーザーズガイド

株式会社クロスランゲージ

Cross Language Inc.

CROSS
LANGUAGE

開封前に必ずお読みください。

本ソフトウェアは、お客様が下記のソフトウェア使用許諾条項に、同意いただいた場合に限り使用することができます。下記の契約条項を十分にお読み下さい。

ソフトウェア使用許諾条項

1. 本契約は、お客様が本ソフトウェア・パッケージに含まれる「シリアルナンバー」を入力した時点で発効します。
2. 製品の著作権などすべての権利は、明示的に付与したものを除き株式会社クロスランゲージ（以下クロスランゲージ）に帰属します。クロスランゲージはお客様に対して、本条項に従って非独占的に使用できる譲渡不能の制限付き使用権を許諾します。
3. 本ソフトウェアは、お客様ご自身（法人の場合は特定の従業員1名）に限り、本ソフトウェアを使用することを許諾します。また、同時に使用しないという条件で、お客様（該当従業員）のみが使用する他のコンピュータでご利用いただくことができます。
4. 本ソフトウェアを利用した翻訳成果物を何がしかの編集をせず公表・販売・頒布することはできないものとします。また、著作物を翻訳した場合、何がしかの編集を行ったとしても、著作権者から著作権侵害の訴えを起こされる場合があります。
5. クロスランゲージはお客様が本ソフトウェアを使用することによる不利益が発生した場合においても、いかなる保証をおこないません。
6. お客様は、本契約で許諾される場合を除き、以下の行為を行わないものとします。
 - ・ 本ソフトウェアに複製および使用説明書等関連資料の複製すること。
 - ・ プログラムの改変・解析(リバースエンジニアリング)をすること。
 - ・ 本ソフトウェアを有償・無償にかかわらず第三者に譲渡・貸与・配布すること。
7. お客様が本条項に違反した場合は、クロスランゲージとの使用許諾契約は失効し、お客様は本ソフトウェアを利用することができなくなります。

■著作権

本製品の仕様は、改良のために予告なく変更することがあります。

本製品を日本国外に携行するには、輸出貿易管理令等の関係法令にご留意ください。

本製品の著作権者：株式会社クロスランゲージ

Macintoshは米国アップル社の米国及びその他の国における登録商標または商標です。

本マニュアルおよび製品で使用している社名および製品名は各社の商標または登録商標です。

Copyright© 2018 Cross Language Inc. All rights reserved.

ステッドマン医学大辞典 改訂第6版 ©メジカルビュー社

Copyright© 2008 MEDICAL VIEW Co., LTD. All rights reserved.

Based on STEDMAN'S Electronic Medical Dictionary, Version 7.0 (by Lippincott Williams & Wilkins / Wolters Kluwer Health Inc.)

総監修 高久史麿 編集 ステッドマン医学大辞典 改訂第6版編集委員会

ステッドマン医学略語辞典 第1版 ©メジカルビュー社

Copyright© 2001 MEDICAL VIEW Co., LTD. All rights reserved.

Based on STEDMAN'S Abbreviations, Acronyms & Symbols, 2nd Edition on CD-ROM (by Lippincott Williams & Wilkins / Wolters Kluwer Health Inc.)

総監修 高久史麿 編集 ステッドマン医学略語辞典編集委員会

※ステッドマン医学大辞典では薬品についての正確な適応症（効能）・副作用・投薬スケジュールが記載されていますが、これらは変更される可能性があります。ステッドマン医学大辞典で言及されている医薬品の製造販売業者の添付文書を必ずご参照ください。ステッドマン医学大辞典の著者・编者・出版者・販売者は、ステッドマン医学大辞典の誤字・脱字や、ステッドマン医学大辞典の情報の利用により生じた一切の結果に関して一切の責任を負わず、ステッドマン医学大辞典の内容について一切の明示または黙示の保証をいたしません。また、ステッドマン医学大辞典の著者・编者・出版者・販売者は、ステッドマン医学大辞典から生じる人及び／又は財産に対する傷害及び／又は損害についての責任を負いかねます。

本製品に搭載している翻訳用辞書（ステッドマン大辞典、ステッドマン略語辞典は除く）は、クロスランゲージ、JSD、EDR、井上道廣氏、日中韓辞典研究所、他多数の著作権者の対訳語データを収集し、クロスランゲージで独自に編纂、翻訳ソフト用に辞書化したものです。

医学英和大辞典 第12版 佐藤登志郎 監修・西元寺克禮 編集 ©2005 株式会社南山堂

医学英和辞典 第2版 ©2008-2009 株式会社研究社 Kenkyusha's English-Japanese Dictionary of Medical Science, 2nd Edition. 編集代表 石田名香雄

リーダーズ英和辞典（第2版）1999, 2002 ©株式会社研究社 Kenkyusha's English-Japanese Dictionary for The General Reader, Second Edition. 編集代表 松田徳一郎

研究社 新英和中辞典 第7版 2003- 2006 ©株式会社研究社

研究社 新和英中辞典 第5版 2002- 2006 ©株式会社研究社

■ はじめに

このたびは、本製品をお買い上げ頂きまして、まことにありがとうございます。本書では、製品の使い方や使用上の注意事項について記載しています。ご使用前に本書をご一読の上、正しくお使いください。

■ 本書の構成

本書は、以下の製品の機能と操作方法について説明しています。

- MAC-Transer プロフェッショナル
- MED-Transer プロフェッショナル

Transerをはじめてお使いになる方は、「基本操作編」をご一読ください。「応用編」では、英→日、日→英の機能と操作方法を、より詳しく説明しています。本書の最後には索引があります。

また、共通する部分の説明では、MAC-Transerの画面を貼付しています。製品ごとに説明が必要な箇所では、そのつど説明を追加しています。

■ 製品名称の表記

本書では、製品名称を以下のとおりに記載しています。

本書における製品名	説明
Transer	すべての製品ラインナップに共通する説明の場合に、本名称を使用します。
MAC-Transer	MAC-Transer プロフェッショナルに関する説明の場合に、本名称を使用します。
MED-Transer	MED-Transer プロフェッショナルに関する説明の場合に、本名称を使用します。

各製品に特化した機能や操作を説明する場合は、製品名を省略せずに記載しています。

■ 翻訳結果について

基本語辞書や文法ルールは逐次改良が加えられているため、画面に表示される結果は、本書の画面や説明文中にある翻訳結果とは必ずしも一致しません。

翻訳結果は、[翻訳]－[現在の文書の設定]の翻訳に関する設定や学習機能によって訳語を変更している場合にも異なります。

■ 本書で使用している記号やマークについて

本書で使用している記号やマークは次の通りです。

• 記号について

[ファイル]	メニュー名を示します。
[ファイル]－[開く]	[ファイル]メニューの[開く]を選択することを示します。
<登録>	ダイアログボックスにあるボタン名を示します。
『 』	参照ページのタイトルを示します。 (例) 『1.2 基本操作』を参照してください。

• マークについて



注意事項です。



備考事項や補足説明です。

ヒント

目 次

基本操作編	1
Transer について	3
Transer の機能	4
Transer の起動	5
アイコンをダブルクリックして起動	5
翻訳パレットの機能	7
Transer の終了	8
Transer 入門	9
Transer を使った翻訳の流れ	10
テキストファイルの翻訳	11
ファイルの読み込みと翻訳	11
単語の対応と訳語の変更	12
訳語の学習	14
ユーザー辞書に単語を登録する	16
単語の登録	16
ユーザー辞書を使用して翻訳	17
翻訳結果を印刷する	17
翻訳結果の保存	18
翻訳メモリを使った翻訳	19
翻訳メモリの設定	19
翻訳メモリへ対訳文を登録する	20
ホームページの翻訳	25
応用編	27
第 1 章 基本操作と翻訳機能	29
1.1 基本操作	30
1.1.1 マウスの操作	30
1.1.2 キャレットの移動と文字列の選択	31
1.1.3 各種機能の実行	31
1.2 翻訳	34
1.2.1 一文翻訳	34
1.2.2 キーボードから入力して翻訳する	34
1.2.3 文書翻訳	36
1.3 訳語の対応と訳語変更	37
1.3.1 訳語対応	37
1.3.2 訳語変更	38
1.3.3 学習機能	41

1.4	品詞変更 英→日のみ	43
1.5	別解釈 英→日のみ	45
1.6	連続ファイル翻訳	47
1.7	フレーズ翻訳	50
1.7.1	フレーズ指定と解除	50
1.7.2	一括フレーズ指定	52
1.7.3	英→日 フレーズ翻訳	53
1.7.4	日→英 フレーズ翻訳例	53
1.8	英→日 オプション翻訳	55
1.8.1	タイトル翻訳	55
1.8.2	箇条書き翻訳	56
1.8.3	通常翻訳	56
1.9	日→英 オプション翻訳	57
1.9.1	主語を補う	57
1.9.2	受け身にする	58
1.9.3	主語を省略する	58
1.9.4	通常翻訳	58
1.10	Web 検索と翻訳	59
1.11	サービス機能を使った翻訳	61
第 2 章	翻訳メモリ	63
2.1	翻訳メモリとは	64
2.1.1	翻訳メモリとは？	64
2.1.2	翻訳メモリの検索機能	65
2.1.3	ファイルの入出力	65
2.2	翻訳メモリの基本操作	66
2.2.1	翻訳メモリの起動と終了	66
2.2.2	翻訳時に翻訳メモリを使用する	67
2.2.3	対訳文の登録	69
2.2.4	対訳文の検索	75
2.2.5	ユーザー翻訳メモリの対訳文を一覧表示	79
2.2.6	検索結果を翻訳エディタへ反映	79
2.2.7	翻訳メモリ画面の操作	80
2.3	ユーザー翻訳メモリの作成と選択	81
2.4	ユーザー翻訳メモリに対訳文を登録する	86
2.4.1	対訳文の登録方法	86
2.4.2	対訳文の削除	88
2.4.3	完全一致文の登録	89
2.4.4	文型とタグ	89
2.4.5	英→日 名詞をタグにした文の登録	94
2.4.6	英→日 動詞をタグにした文の登録	95
2.4.7	英→日 形容詞をタグにした文の登録	96
2.4.8	英→日 副詞をタグにした文の登録	97
2.4.9	英→日 節や文をタグにした文の登録	98

2.4.10 日→英 生成情報を含む文型の登録.....	99
2.5 翻訳メモリの環境設定.....	100
2.5.1 訳文生成方法.....	100
2.5.2 検索モード.....	102
2.5.3 登録情報.....	105
2.6 インポート.....	107
2.6.1 インポートできるファイルの種類.....	107
2.6.2 翻訳メモリに一括登録する（インポートの手順）.....	108
2.6.3 翻訳メモリのマージ.....	110
2.6.4 翻訳エディタにある文章を一括で登録する.....	111
2.6.5 ntm形式ファイル.....	113
2.7 エクスポート.....	114
2.7.1 エクスポートできるファイル形式.....	114
2.7.2 翻訳メモリの内容を書き出す（エクスポートの手順）.....	115
第 3 章 辞書の活用.....	117
3.1 辞書の構成.....	118
3.2 翻訳辞書の参照.....	122
3.3 外部辞書.....	125
3.4 未知語検索機能.....	126
3.4.1 ステップ検索.....	126
3.4.2 一括検出.....	127
3.5 ユーザー辞書の作成と選択.....	129
3.6 専門語辞書の設定.....	134
3.6.1 辞書設定ダイアログから指定する.....	135
3.6.2 英→日 専門語辞書の優先順位.....	136
3.7 英→日用ユーザー辞書に単語を登録する.....	136
3.7.1 辞書登録ダイアログ.....	136
3.7.2 詳細登録モード.....	140
3.7.3 名詞の登録.....	141
3.7.4 動詞の登録.....	142
3.7.5 形容詞の登録.....	143
3.7.6 副詞の登録.....	145
3.7.7 従属接続詞の登録.....	145
3.7.8 前置詞の登録.....	147
3.7.9 単位の登録.....	148
3.7.10 登録内容に対する自動処理.....	148
3.8 日→英用ユーザー辞書に単語を登録する.....	149
3.8.1 辞書登録ダイアログ.....	149
3.8.2 詳細登録モード.....	154
3.8.3 名詞の登録.....	155
3.8.4 動詞の登録.....	156
3.8.5 形容詞および形容動詞の登録.....	158
3.8.6 副詞の登録.....	159

3.8.7	格助詞の登録	160
3.8.8	連体助詞の登録	161
3.9	辞書ツール	161
3.9.1	ユーザー辞書の参照	162
3.9.2	辞書ソースファイルの形式	163
3.9.2.1	文字コード	163
3.9.2.2	CSV, TSVフォーマット	164
3.9.2.3	辞書ソースの記述形式	164
3.9.3	一括登録	165
3.9.4	ソース出力	167
3.9.5	ソース変換	169
3.9.6	ユーザー辞書の更新	172
第 4 章	文書の入出力	173
4.1	文書の入力	174
4.1.1	ファイルを開く	174
4.1.2	ファイルを開く際の注意事項	177
4.1.3	新規文書の作成	178
4.1.4	英→日 文の基準	178
4.1.5	日→英 文の基準	179
4.2	保存	180
4.2.1	ファイルの保存	180
4.2.2	テキスト出力	181
4.2.3	オフィス文書出力	182
4.2.4	閉じる	182
4.2.5	Transerを終了	182
4.2.6	英→日が作成するファイル	184
4.2.7	日→英が作成するファイル	186
4.3	印刷	188
4.3.1	プリンタの設定	188
4.3.2	プリント	189
第 5 章	環境の設定	191
5.1	翻訳に関する設定	192
5.1.1	現在の文書設定ダイアログ	194
5.1.2	EJ翻訳	195
5.1.2.1	訳出方法	195
5.1.2.2	訳の指定	197
5.1.2.3	略語	200
5.1.3	JE翻訳	201
5.1.4	スタイルの作成と更新	204
5.2	環境設定 表示	206
5.3	環境設定 詳細	207
5.4	ツールバーカスタマイズ	210
5.5	表示メニューのコマンド	212

第 6 章 その他の機能	213
6.1 翻訳パレット.....	214
6.1.1 翻訳パレットの起動と終了.....	214
6.1.2 ブラウザ翻訳.....	216
6.1.3 エディタEJ/JE.....	219
6.1.4 ワンポイント翻訳.....	220
6.1.5 翻訳検索 英→日のみ.....	221
6.1.6 辞書検索.....	223
6.1.7 設定.....	225
6.1.7.1 一般.....	225
6.1.7.2 ブラウザ翻訳.....	226
6.1.7.3 EJ翻訳.....	227
6.1.7.4 JE翻訳.....	227
6.1.7.5 EJ辞書.....	227
6.1.7.6 JE辞書.....	227
6.2 訳振り.....	228
6.3 読み上げ.....	230
6.4 Mail へ転送.....	230
6.5 スペルチェック.....	231
6.6 ロックとロック解除.....	232
6.7 Spotlight で検索.....	233
6.8 アップデートを確認.....	233
6.9 編集メニューのコマンド.....	234
6.9.1 取り消し.....	234
6.9.2 カット・コピー・ペースト・削除.....	235
6.9.3 文書を選択.....	235
6.9.4 検索と置換.....	235
6.9.5 マルチファイル検索.....	237
6.9.6 ジャンプ.....	239
6.9.7 ブックマーク.....	239
第 7 章 翻訳文の作りかた	241
7.1 原文編集と制御コード.....	242
7.1.1 ファイルを読み込むときに使われる制御コード.....	242
7.1.2 翻訳エディタで利用できる制御コード.....	243
7.2 文の解析と括弧の処理について.....	244
7.2.1 一般規則.....	244
7.2.2 括弧書きの処理.....	244

基本操作編

基本操作編では、TranSerの特徴、機能、基本的な操作方法について説明しています。操作手順については例文を用いて説明していますので、実際にTranSerを操作しながら本編をご一読ください。

Transer について

この章の内容

この章では、Transerの機能、起動と終了方法について説明します。

Transterの機能

Transterは、英日・日英双方向に対応した翻訳ソフトです。最新の翻訳エンジンと基本語辞書、さまざまな分野を網羅した専門語辞書を搭載しています。訳語変更、フレーズ単位の翻訳、ユーザー辞書の構築など翻訳結果を修正する機能も提供しています。

Transterの特徴は以下のとおりです。

機能	内容	参照先
翻訳エディタ	翻訳エディタでは、テキストファイルの翻訳、翻訳結果を適切な訳語に変更する訳語変更、変更した訳語を学習して次回の翻訳に活用する学習機能、辞書に登録のない単語や訳語に登録するユーザー辞書登録などを実行できます。	Transter入門
翻訳メモリ	翻訳資産を活用する「翻訳メモリ」機能が搭載されています。 翻訳メモリとは、よく使われる表現を対訳文で登録し、人による翻訳資産と機械翻訳を融合させる技術です。Transter独自の文型一致文も登録されており、タグ部分に異なる語句が含まれると機械翻訳で補います。	第2章 翻訳メモリ
ファイル翻訳	「連続ファイル翻訳」機能を使うと、複数ファイルを連続して翻訳できます。テキストファイルのほかにHTMLファイルとPDFファイルも翻訳できます。	1.6 連続ファイル翻訳
ホームページの翻訳	ブラウザで表示したWebページを、レイアウトはそのまま、本文のみを翻訳して、翻訳結果のWebページを作成します。	6.1.2 ブラウザ翻訳
サービス機能を使用した翻訳	OS Xの「サービス」メニューから、翻訳を実行できます。翻訳エディタを開いて、選択した文章を貼り付けて翻訳したり、翻訳結果をクリップボードに貼り付けることができます。	1.11 サービス機能を使った翻訳

機能	内容	参照先
辞書参照	見出し語ごとに辞書引きを行う場合は「辞書参照」で、ユーザー辞書の内容を一覧表示する場合は「辞書ツール」で辞書引きすることができます。	3.2 翻訳辞書の参照 3.9.1 ユーザー辞書の参照
訳振り	語句に訳語ルビを表示するので、文を斜め読みして大まかな内容を把握するのに便利です。	6.2 訳振り
英文の読み上げ	翻訳エディタで英文を読み上げます。英→日では原文エリアにある文章、日→英では訳文エリアにある翻訳結果の文章を読み上げます。	6.3 読み上げ

Transerの起動

ここでは、Transerに搭載されているアプリケーションの起動方法を説明します。

アイコンをダブルクリックして起動

Transerのインストールフォルダにあるアイコンをダブルクリックすると、対応するアプリケーションが起動します。

• MAC-Transer

インストールフォルダ

アプリケーション:MAC-Transer V11

MAC-Transer EJ

翻訳エディタ EJ  英→日の起動

MAC-Transer JE

翻訳エディタ JE  日→英の起動

翻訳メニュー

翻訳メニュー  翻訳パレットの起動

• MED-Transter

インストールフォルダ

アプリケーション: MED-Transter V11

MED-Transter EJ

翻訳エディタ EJ  英→日の起動

MED-Transter JE

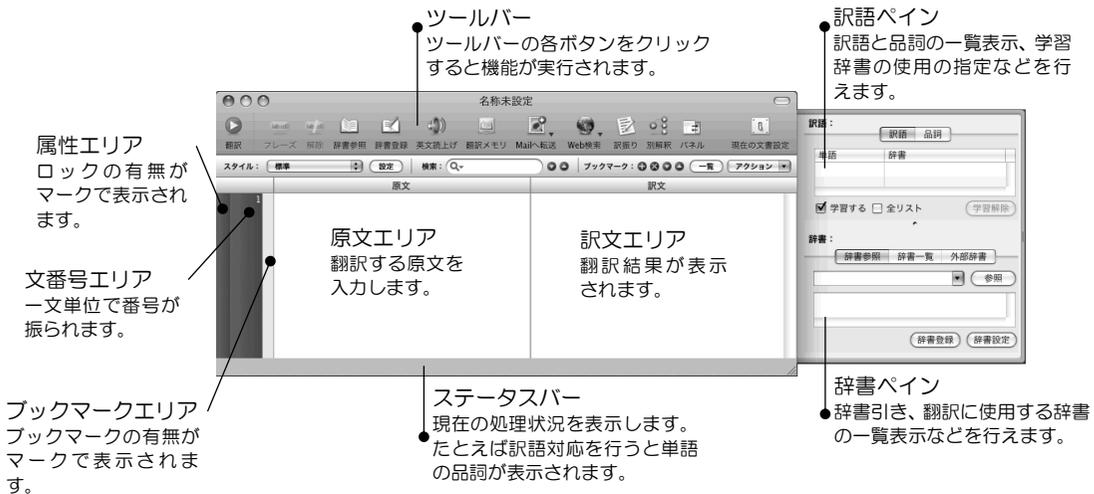
翻訳エディタ JE  日→英の起動

MED-Transter 翻訳メニュー

翻訳メニュー  翻訳パレットの起動

● 翻訳エディタ

英→日が起動すると次の翻訳エディタが表示されます。



翻訳エディタでは、左に原文、右に訳文が表示されます。

ここでは、英→日を例にしていますが、日→英の翻訳エディタも名称は同様です。

翻訳パレットの機能

翻訳パレットが起動すると、次のツールバーが表示されます。



- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤
- ⑥
- ⑦

① ブラウザ翻訳

日本語のWebページを英語に、または英文Webページを日本語に翻訳し、翻訳結果をブラウザに表示します。ボタンを長押しして、言語の切り替えを行います。

② エディタEJ

英日翻訳エディタを起動します。

翻訳エディタでは、訳語の変更、ユーザー辞書の構築などを行えます。文章の内容をより詳しく理解したい場合や、正確な翻訳を行いたい場合に使用します。

③ エディタJE

日英翻訳エディタを起動します。

翻訳エディタでは、訳語の変更、ユーザー辞書の構築などを行えます。文章の内容をより詳しく理解したい場合や、正確な翻訳を行いたい場合に使用します。

④ ワンポイント翻訳

Transerを起動しないで、英→日または日→英翻訳を実行できます。

⑤ 翻訳検索 英→日のみ

指定したキーワードをWebページで検索し、検索結果を翻訳してブラウザに表示します。

⑥ 辞書検索

超辞典 for Transerを起動します。

メモ このボタンは、超辞典 for Transerがインストールされている場合にのみ表示されます。

⑦ 環境設定

ブラウザ翻訳で連携するブラウザの指定、翻訳パレットに表示するボタンの選択、翻訳で使用する辞書の指定など、翻訳パレットの環境設定を行います。

- **翻訳メニュー起動時の動作**

翻訳メニューを起動すると、Transerをログイン項目に設定するかを確認するメッセージが表示される場合があります。ログイン項目に設定すると、ご使用のコンピュータにログインした時に自動的に翻訳メニューが起動します。

Transerの終了

- **英→日、日→英の終了**

[翻訳エディタ EJ (JE)]-[翻訳エディタ EJ (JE) を終了]を選択すると、開いているすべてのウィンドウを閉じて終了します。

特定の文書ウィンドウだけを閉じたい場合は、ウィンドウの左上にあるクローズボタンをクリックしてください。ウィンドウは閉じますが、Transerは終了しません。

- **翻訳パレットと翻訳メニューの終了**

翻訳パレットは翻訳パレットの左上にあるクローズボタンをクリックすると、閉じます。メニューバーの右端にあるアイコンをクリックして、「翻訳パレット」を選択してチェックマークを付けると表示されます。再度このコマンドを選択してチェックマークを外すと非表示に切り替わります。

翻訳メニューは、メニューバーの右端にあるアイコンをクリックして、「翻訳メニューを終了」を選択すると終了します。

翻訳メニューを終了すると、翻訳パレットも閉じて終了します。

Transer 入門

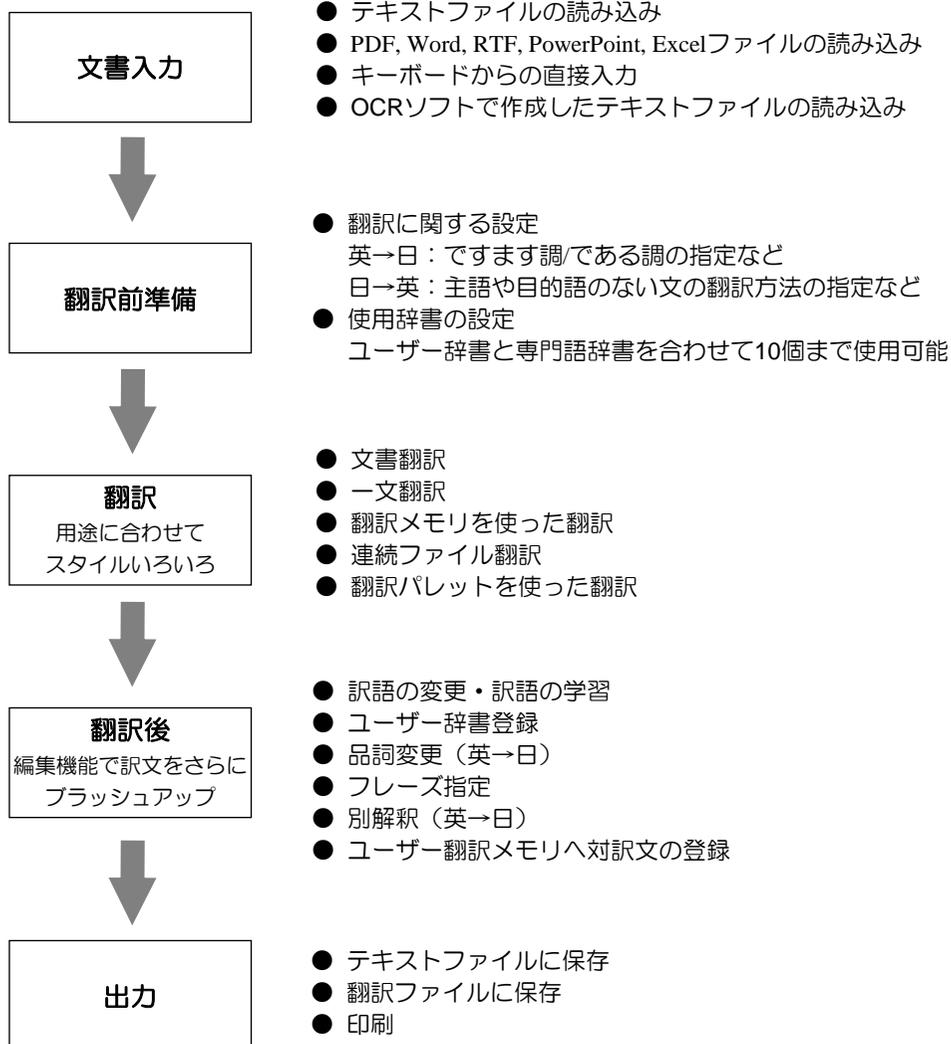
この章の内容

この章では、Transerの基本的な機能であるテキストファイルの翻訳、ホームページの翻訳、「翻訳メモリ」を使用した翻訳方法を例をあげて説明します。

英→日を例にして説明していますが、日→英の場合も操作は同じです。

Transterを使った翻訳の流れ

Transterを使った翻訳の流れは以下のとおりです。



テキストファイルの翻訳

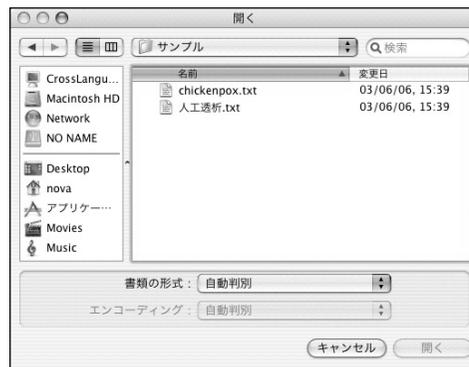
Transterに添付されている練習用ファイルchickenpox.txtを使って、文書ファイルを読み込み、一括で翻訳する手順を説明します。

ファイルの読み込みと翻訳

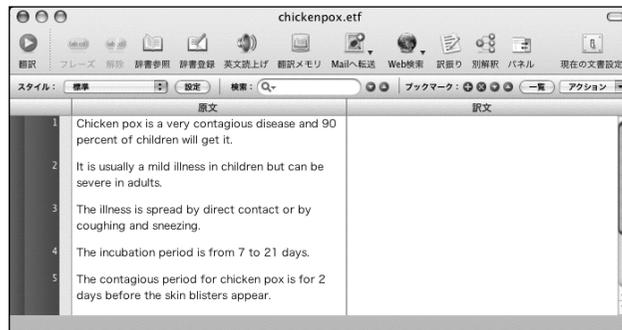
練習用ファイル「chickenpox.txt」は、次の場所に保存されています。
アプリケーション:MAC-Transter V11(MED-Transter V11):サンプル フォルダ
このファイルを読み込んで翻訳します。



1. **【ファイル】-【開く】**を選択します。
開くダイアログが表示されます。
2. 「**ファイルの場所**」を「**サンプル**」フォルダに変更します。
ファイル名リストの中に**chickenpox.txt**が表示されます。

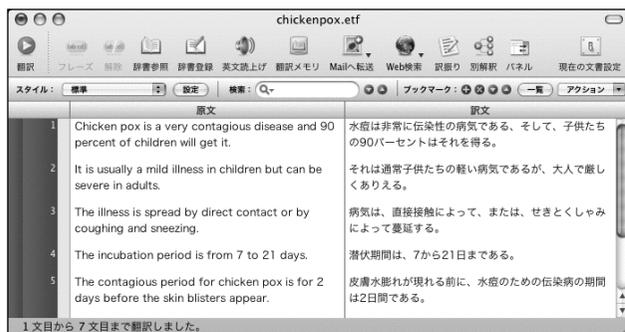


3. **chickenpox.txt**をダブルクリックします。
chickenpox.txtが左側の原文エリアに読み込まれます。



この文書を翻訳します。

4. キャレットが文書の先頭にあることを確認して、ツールバーの  をクリックします。
翻訳が開始され、翻訳結果が訳文エリアに表示されます。



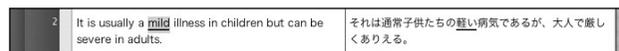
単語の対応と訳語の変更

TranSerには、原文の単語がどの訳語に翻訳されたのかを確認する「訳語対応」機能と、複数の意味を持つ単語の別訳語リストを表示し、適切な訳語に入れ替える「訳語変更」機能があります。
手順は以下のとおりです。

手順

1. 任意の単語をダブルクリックする（マウスのボタンを2回続けて押す）と「訳語対応」が実行されます。たとえば、文番号2の"mild"をダブルクリックします。

"mild"に下線が引かれるのと同時に対応する訳語の「軽い」にも下線が引かれます。

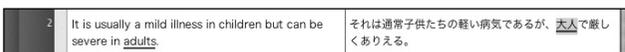


メモ ここで"mild"が反転表示するのは、OS Xの機能で、TranSerの機能ではありません。したがって、下線が引かれる部分と反転表示する部分は必ずしも一致しません。

また、任意の訳語をダブルクリックすると、原文エリアの対応する語句に下線が引かれます。

2. 次に任意の訳語をダブルクリックします。たとえば、同じ文の「大人」をダブルクリックします。

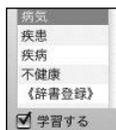
「大人」に下線が引かれるのと同時に対応する英単語の"adults"にも下線が引かれます。



次に「訳語変更」機能を実行します。

3. 任意の単語をトリプルクリックする（マウスのボタンを3回続けて押す）と「訳語変更」が実行されます。たとえば、同じ文の"illness"をトリプルクリックします。

対応する訳文エリアの「病気」に下線が引かれ、訳語変更ダイアログに訳語の一覧が表示されます。



次に「訳語変更」機能を実行します。

4. たとえば訳語変更ダイアログにある「疾患」をクリックします。訳文エリアの「病気」が「疾患」に変わり、訳語の文字色は茶色で表示されます。illnessをダブルクリックして変更した訳語を確認してください。



ヒント

初期状態で、学習した訳語の文字色は茶色で表示されます。学習した訳語の文字色は、【翻訳】－【現在の文書設定】－【EJ辞書】の「学習辞書の色」で変更できます。

MED-Transterの場合

初期状態でMED-Transterには専門語辞書が設定されているので、次の訳語変更ダイアログが表示されます。



訳語変更ダイアログでは、表示されている訳語の出典辞書名が表示されます。訳語変更ダイアログについては、『1.3.2 訳語変更』の『ダイアログに表示される訳語』を参照してください。

● パネルの表示

Transerには、訳語の一覧を表示したり辞書引きを行うためのパネルがあります。パネルは、[表示]—[パネルを開く]を選択すると翻訳エディタの横に表示されます。パネルには、訳語や品詞の一覧を表示する「訳語ペイン」と、辞書引きと使用している辞書一覧を表示する「辞書ペイン」があります。



ヒント

訳語対応を実行すると、辞書ペインには訳語対応した語句の辞書引き結果が表示されます。また、訳語ペインには、訳語対応した語句の別訳語が表示されます。

訳語の学習

訳語変更ダイアログの「学習する」チェックボックスをオンにして訳語変更を行うと、訳語が学習されます。次回の翻訳でその単語が同じ使われ方をした場合は、学習された訳が表示されます。

「訳語変更」で変更したillnessが「疾患」という訳語に学習されているかを確認します。

手順

1. 文番号2の"illness"をトリプルクリックします。

訳語変更ダイアログが表示されます。



「疾患」の右に「←[学習]」と表示されています。これは、この訳語が学習されていることを意味します。

文番号3にも"illness"が使用されています。

2. 文番号の「3」をクリックします。
その文のみの翻訳が実行されます。
3. "illness"をダブルクリックします。
対応する訳が前章で学習させた「疾患」になっていることを確認できます。



【翻訳】－【現在の文書設定】－【EJ(JE)辞書】で、「訳語を学習する」チェックボックスをオフにして訳語変更を行うと、訳の学習は行われません。同様に、訳語変更ダイアログで「学習する」チェックボックスをオフにしてから訳語変更を行うと、訳の学習は行われません。



ヒント

学習なしで訳語変更を実行すると、文番号の前にロック（🔒）が付きま
す。誤って翻訳をした場合、変更した訳語が元に戻ってしまうのを防ぐ
ためです。



ヒント

学習する／しないの設定は、訳語ペインの「学習する」チェックボックス
のオン／オフでも実行できます。

ユーザー辞書に単語を登録する

「基本語辞書」にない単語や訳語を「ユーザー辞書」に登録して、翻訳結果に反映することができます。

単語の登録

ここでは例として、ユーザー辞書に"severe"を「深刻な」と登録します。

手順

1. 文番号2の"severe"をダブルクリックします。
severeに下線が引かれ、ステータスバーにはsevereの品詞が「形容詞」と表示されます。
2. ツールバーの〈辞書登録〉をクリックします。
辞書登録ダイアログが表示され、「見出し語」に"severe"、「品詞」に「形容詞」が自動的に入力されます。
3. 「訳語」に「深刻な」と入力します。



4. 正しく入力したら、〈登録〉をクリックし、続けて〈閉じる〉をクリックします。
これで、ユーザー辞書に登録されました。

ユーザー辞書を使用して翻訳

登録したユーザー辞書を使って翻訳を実行します。文番号の「2」をクリックし、一文翻訳を実行すると次の結果が表示されます。

2	It is usually a mild illness in children but can be severe in adults.	それは通常子供たちの軽い疾患であるが、大人で深刻でありえる。
---	--	--------------------------------

メモ 翻訳結果の単語の場所を明確にするために上記の例では、単語の対応を表示しています。



初期状態で、ユーザー辞書の訳語の文字色は緑色で表示されます。ユーザー辞書の訳語の文字色は、[翻訳]－[現在の文書設定]－[EJ(JE)辞書]で変更できます。

翻訳する文書によく使われている固有名詞や言い回しを登録し専用のユーザー辞書を作成することにより、翻訳精度を向上させることができます。

翻訳結果を印刷する

翻訳結果を印刷します。



1. [ファイル]－[プリント]－[対訳]を選択します。

次のダイアログが表示されます。

2. 〈プリント〉をクリックします。

印刷が開始されます。印刷の進捗状況を示すダイアログが表示され、プリンタから結果が出力されます。

中止する場合は、〈キャンセル〉をクリックしてください。

翻訳結果の保存

翻訳情報を保持した「翻訳ファイル」を作成したり、翻訳結果の訳文をテキストファイルに保存することができます。

● 翻訳ファイルの保存

翻訳ファイルを作成する手順は以下のとおりです。

手順 ▶ 1. [ファイル]—[別名で保存]を選択します。

「名前」に"chickenpox"と表示されます。



2. 〈保存〉をクリックします。

これで、「翻訳ファイル」として保存されました。翻訳ファイルには原文と訳文だけでなく単語の対応、訳語の変更など翻訳に使用された情報も保存されています。TranSerでこのファイルを開くと、翻訳作業を継続できます。

● 訳文の保存

翻訳結果の訳文をテキストファイルに保存する手順は以下のとおりです。

手順 ▶ 1. [ファイル]—[テキスト出力]—[訳文テキスト]を選択します。

次のダイアログが表示されます。



「名前」に"chickenpox(訳文)"と表示されます。

2. 〈保存〉をクリックします。

これで、「訳文ファイル」として保存されました。訳文ファイルはテキストファイルなので、ワープロやエディタに読み込むことができます。

翻訳メモリを使った翻訳

翻訳メモリとは、原文と訳文の対訳文を登録したもので、翻訳する原文に対して、登録されている文と完全に一致する文か、類似している文なのか、文型が同じかなどの条件を設定して、翻訳に役立てることができます。翻訳メモリには、必要に応じてユーザーが対訳文を登録することもできます。

また、定型文には、変化する部分を明示した、「文型」として登録しておきます。文型に合致すれば、元の文から変化した部分だけを機械翻訳して、その結果を訳文の対応する位置に埋め込むので、文全体を機械翻訳するよりも、より人間の翻訳に近い結果を得ることができます。

ここでは、翻訳メモリの登録方法とこれを使った翻訳の説明をします。翻訳メモリの詳細に関しては、『第2章 翻訳メモリ』を参照してください。

翻訳メモリの設定

翻訳の際に翻訳メモリを使うためには、現在の文書設定ダイアログの「翻訳メモリ」タブで使用する翻訳メモリを指定して、次に「訳文生成方法」タブで翻訳メモリをどのような検索方法で翻訳に使用するかを指定します。使用する翻訳メモリの変更方法については、『2.3 ユーザー翻訳メモリの作成と選択』を参照してください。

● 翻訳メモリの指定

初期状態で使用する翻訳メモリには、基本翻訳メモリ、ビジネス翻訳メモリ、科学技術翻訳メモリ、ネットショップ翻訳メモリ、ユーザーの登録用翻訳メモリが指定されています。

MED-Transer プロフェッショナルの場合

初期状態でMED-Transer プロフェッショナルでは、医学翻訳メモリとユーザーの登録用翻訳メモリが指定されています。

● 翻訳メモリの検索方法の指定

翻訳メモリの検索方法の指定は、現在の文書設定ダイアログにある「訳文生成方法」タブで指定します。訳文生成方法ダイアログにある、「訳文生成方法（優先順）」のチェックボックスをオンにすると、翻訳で翻訳メモリが使用されます。初期状態では、「完全一致文検索」と「機械翻訳」がオンになっています。

MED-Transer プロフェッショナルの場合

初期状態でMED-Transer プロフェッショナルでは、「完全一致文検索」、「文型一致文検索」、「機械翻訳」チェックボックスがオンになっています。

翻訳エディタで翻訳を実行すると、まず「完全一致文検索」が実行され、最初に見つかった検索結果が訳文として採用されます。完全に一致する文が見つから

なかった場合、「機械翻訳」が実行されます。
ここでは、「文型一致文検索」チェックボックスもオンにして〈OK〉をクリックしてからダイアログを閉じます。



これで、「完全一致文検索」、「文型一致文検索」、「機械翻訳」の順に検索が実行されます。

翻訳メモリへ対訳文を登録する

対訳文を翻訳メモリに登録する方法を説明します。

● タグを含む文

翻訳メモリでは、変更可能な部分を「タグ」と呼ばれる記号「<\$タグ名= >」でくくって登録できます。

たとえば以下の文を機械翻訳するとその下の訳になります。

原文：I ordered 2 copies of your catalogue by fax on October 1.

訳文：私は、10月1日にファックスであなたのカタログの2部を注文した。

この文を以下のように登録します。

I ordered <\$1=2> copies of your catalogue by <\$通信手段=fax> on <\$日付=October 1>.

タグで囲まれた部分に変更された場合に、文型一致文検索を実行すると、変更された部分を翻訳してから検索結果を表示したり、翻訳結果として翻訳エディタに貼り付けることができます。

● **名詞をタグにする（もっとも基本的な形）**

翻訳メモリのもっとも単純な使い方は、名詞をタグにするものです。

次の文を翻訳メモリを使わずに訳すとその下のように訳されます。

原文：It is another object of this paper to provide the new method.

翻訳結果：新しい方法を提供することは、本論文のもう一つの対象である。

この場合、次のように翻訳メモリに登録します。

登録する原文

It is <\$1=another object> of this paper to provide <\$2= the new method>.

登録する訳文

本紙の<\$1=他の目的>は、<\$2=新しい方法>を提供することである。

次に文型一致文検索をオンにして翻訳を実行します。

原文1

It is another object of this paper to provide the new method.

翻訳メモリを使った翻訳結果1

本紙の他の目的は、新しい方法を提供することである。

また次の例はその下のように翻訳されます。

原文2

It is another advantage of this paper to provide the connection means.

翻訳メモリを使った翻訳結果2

本紙のもう一つの利点は、接続手段を提供することである。

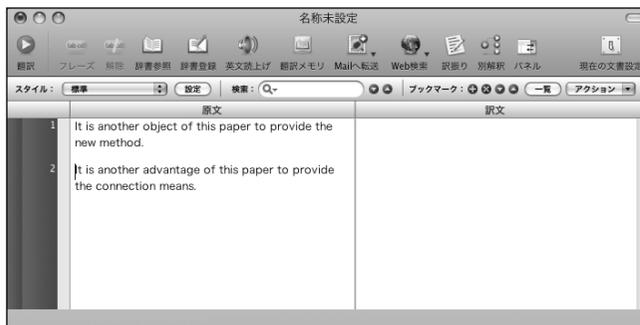
登録手順は以下のとおりです。

手順

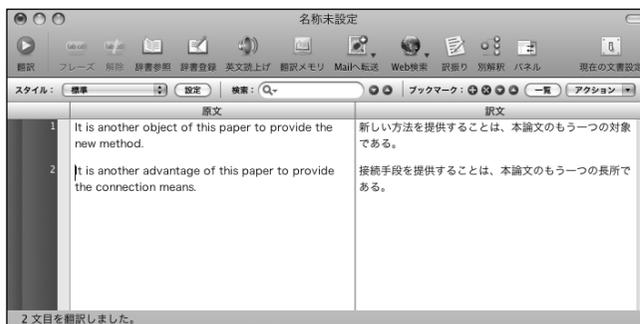
1. 翻訳エディタで翻訳メモリに登録する文章を入力します。

この例では、"It is another object of this paper to provide the new method."

と入力して**return**を押して、新しい文番号に"It is another advantage of this paper to provide the connection means."と入力します。



2. 各文番号をクリックして一文翻訳を実行します。



直訳なので、前述のようにタグを含んで翻訳メモリに登録します。

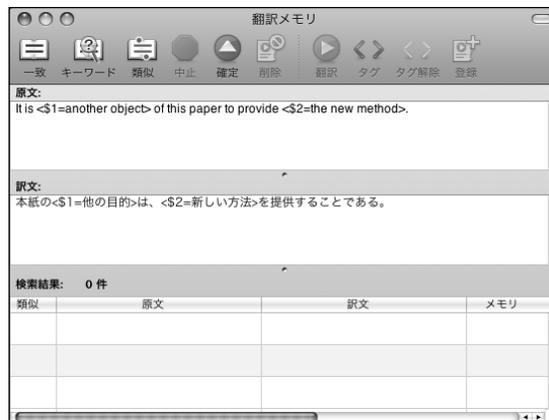
3. はじめの例文（ここでは、文番号1）の任意の位置をクリックしてキャレットを置きます。続いて〈翻訳メモリ〉をクリックします。翻訳メモリ画面が表示されて、翻訳エディタのキャレット位置の対訳文が読み込まれます。





翻訳メモリ画面で〈翻訳〉をクリックすると、「原文」にある文を翻訳します。

4. 原文にタグを指定します。タグ指定する語句を選択して〈タグ〉をクリックすると、タグで囲まれます。
まず、another objectを選択して〈タグ〉をクリックします。次に、the new methodを選択して〈タグ〉をクリックします。
5. 訳文を入力します。この例では、「本紙の他の目的は、新しい方法を提供することである。」と入力します。次に「他の目的」を選択して〈タグ〉をクリック、「新しい方法」を選択して〈タグ〉をクリックします。



メモ 原文と訳文においてタグの数とタグ名は1対1で対応しなければなりません。

6. 原文と訳文を正しく入力したら、〈登録〉をクリックします。
次の画面が表示されます。



7. 〈OK〉をクリックします。

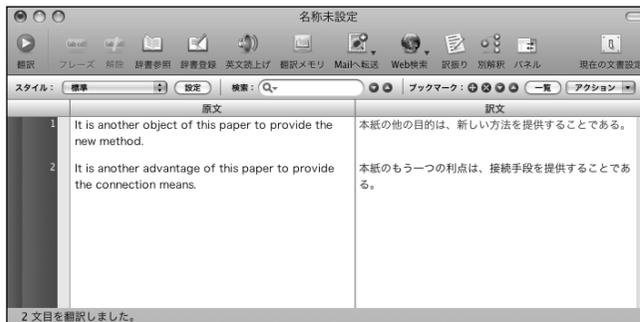
対訳文が登録されます。

メモ タグを含む文を登録した場合、タグを含む対訳文の登録と、タグを取り除いた対訳文の登録を同時に行います。自動的に2つの対訳文が登録されます。

次に翻訳を実行します。

8. 翻訳エディタにある各文の文番号をクリックします。

次の翻訳結果が表示されます。



訳文の文字色が変わります。はじめの文は、翻訳メモリに登録されたタグを省いた文に完全に一致しているため、「完全一致」文の色になります。2番目の文は文型一致しているため、登録文中のタグ以外の文字列の色は「文型一致」で指定した色、タグに対応して翻訳された文字列は「機械翻訳」で指定した色になります。

メモ 訳文の色の指定は、[翻訳エディタ EJ(JE)]-[環境設定]-[表示]で行います。

文型一致文において、タグの部分は機械翻訳されています。この部分に関しては、単語の対応や訳語の変更が可能です。

9. たとえば文番号2のadvantageをトリプルクリックします。

次の訳語変更ダイアログが表示されます。



訳語変更ダイアログにある単語をクリックすると、翻訳エディタの訳語が変更されます。



ヒント

この対訳文は、そのまま日→英においても利用できます。翻訳メモリとして同じファイルを指定してください。

ホームページの翻訳

「ホームページ翻訳」機能は、ブラウザに表示した文章を、画像、表などのレイアウトを変えないで翻訳します。

手順

1. 翻訳パレットを起動します。
2. ブラウザで、翻訳するページを表示します。



3. 翻訳パレットの〈ブラウザEJ〉をクリックします。
翻訳が開始され、翻訳状況のダイアログが表示されます。翻訳を中止するには、〈キャンセル〉をクリックします。
ブラウザに翻訳結果が表示されます。



ヒント

ブラウザ翻訳の詳細については、『6.1.2 ブラウザ翻訳』を参照してください。

● 訳文のみを表示

翻訳結果の訳文のみのページを表示することができます。
まずホームページ翻訳に関する設定を変更して、翻訳を実行します。
手順は以下のとおりです。

手順

1. 翻訳パレットの〈環境設定〉をクリックします。
環境設定ダイアログが表示されます。
2. 「ブラウザ翻訳」タブをクリックします。
3. 「訳文を原文と同じページに表示」チェックボックスをオフにして、〈OK〉をクリックします。
これで、訳文のみのページを表示するように設定されました。
4. ブラウザで翻訳するページを表示して、〈ブラウザEJ〉をクリックします。

訳文のみのページが表示されます。



応用編

応用編では、Transerの操作方法を、より詳しく説明しています。Transerをはじめてご使用の場合は、本編の前に基本操作編をご一読ください。

第 1 章 基本操作と翻訳機能

この章の内容

この章では、Transerでのマウスとキーボードの操作方法と翻訳機能について説明します。

Transerには、文書の一括翻訳、一文翻訳のほかに、翻訳結果を修正するための便利な機能が備わっています。

1.1 基本操作

1.1.1 マウスの操作

● クリック

マウスのボタンを1度押して離すことを、「クリックする」といいます。また、マウスとともに移動する矢印を、「マウスポインタ」、または単に「ポインタ」と呼びます。

ポインタをメニューの項目の上に移動し、マウスボタンをクリックすると、そのメニューが選択され、メニューに結び付けられた動作が行われます。

● ダブルクリック

マウスのボタンを2度続けてクリックすることを、「ダブルクリック」と呼びます。Transerでは、原文か訳文の単語をダブルクリックすると、対応する単語に下線が引かれます。

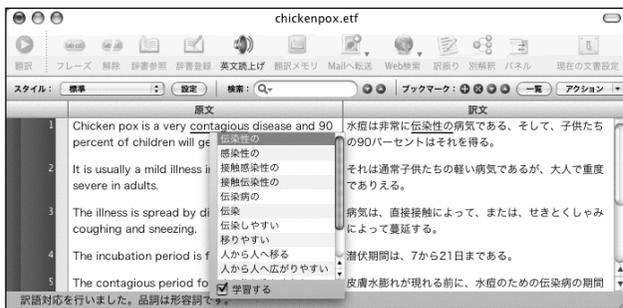


同時に、辞書ペインの「辞書参照」タブには訳語対応した語句の辞書引き結果が表示され、訳語ペインの「訳語」タブには、訳語対応した語句の別訳語が表示されます。

メモ ペインは[表示]—[パネルを開く]を選択すると、表示されます。

● トリプルクリック

マウスのボタンを3度続けてクリックすることを、「トリプルクリック」と呼びます。Transerでは、任意の単語をトリプルクリックすると、その単語の訳語の一覧が表示されます。



● ドラッグ

マウスボタンを押したままマウスを移動することを「ドラッグ」といいます。ドラッグは、通常、範囲を指定する際に用いられます。Transerやワープロソフト

トなどでは、文字列の先頭へマウスポインタを置いて、そこでマウスのボタンを押したままマウスを移動し、文字列の最後でボタンを離すと、その文字列が選択されて反転表示されます。この反転表示された文字列に対して、「コピー」、「カット」などの操作を行うことができます。

1.1.2 キャレットの移動と文字列の選択

caretとは、文字の挿入位置を示すI型のポインタをいいます。これによって、文字を入力する位置を指定します。

● キャレットの移動

翻訳エディタの原文エリアや訳文エリアでcaretを移動するには、マウスポインタを移動し目的の位置でクリックするか、矢印キー（↑→↓←）を使うのが一般的です。

このほか、以下のような方法でcaretを移動することもできます。

操作	caretの移動
Tab	原文、訳文エリア間の移動
[編集]ー[ジャンプ]	指定した番号の文の先頭へ移動

● 選択状態

TranSerでは、連続する複数の原文や訳文について、両方同時に、あるいは一方だけを選択状態にすることができます。

複数文を選択するには、指定を始める文の任意の位置から、指定を終える文の任意の位置までドラッグします。

原文と訳文をまとめて選択する場合は、指定を始める原文の任意の位置から、指定を終える訳文の任意の位置までドラッグします。

ドラッグしているポインタが原文と訳文の間にある中央ラインを越えて反対側のエリアへ移動すると、原文と訳文を同時に選択状態にすることができます。

選択をキャンセルするには、任意の位置でクリックします。

1.1.3 各種機能の実行

翻訳、文字列のコピーなどといったTranSerの機能を実行するには、次の4つの方法があります。

メニューから選択する

ツールバーのボタンをクリックする

キーボードのショートカットを使う

コンテキストメニューから選択する

以下でそれぞれの方法について説明します。

● メニューから選択

メニュー項目を選択することでアプリケーションの機能を実行することができます。

手順

1. マウスポインタをメニューに移動してボタンをクリックします。

たとえば、Transerのメニューの[ファイル]をクリックすると、次のメニュー項目が表示されます。



2. マウスポインタを移動し、選択したい項目が反転表示されたらボタンをクリックします。

これで機能が選択されます。

選択したい機能がなかった場合などは、メニューの外をクリックするか、最上段をクリックします。



ポインタをメニュー項目に移動しても選択できない場合があります。これは、その機能が使用できない状態にあることを示しています。

● ツールバーのボタンをクリックする

Transerの「ツールバー」はアプリケーションウィンドウの上部、タイトルバーのすぐ下に表示されます。ツールバーには、メニュー項目と同じ機能を簡単に実行できるように、各機能に対応するボタンが並んでいます。

Transerでは、「翻訳」、「辞書参照」、「辞書登録」など、よく使われる機能を実行するボタンが並んでおり、これをマウスのボタンでクリックすると、対応する機能が実行されます。



ヒント

ツールバーに表示するボタンは[表示]—[ツールバーカスタマイズ]で変更できます。

● キーボードのショートカットを使う

頻繁に使われる機能は、キーボードを使って実行できるようになっています。コマンドキー（⌘）を押しながら他のキーを押すと実行されます。たとえばほとんどのアプリケーションでは、「ファイル」メニューの「開く」と同じ機能は、コマンドキー（⌘）を押しながら"O"を押しても実行できます。ただし、すべての機能をキーボードから選択できるわけではありません。キーが割り当てられている機能には、メニューの右端にキーが表示されています。たとえばTranserでは、「新規」、「開く」、「別名で保存」などにキーが割り当てられています。

● コンテキストメニューから選択

翻訳エディタや翻訳メモリ画面上などで、controlキーを押したままマウスボタンをクリックすると、コンテキストメニューが表示されます。コンテキストメニューには、その状況でよく使われる機能が登録されています。たとえば、翻訳エディタでは次のコンテキストメニューが表示されます。



コンテキストメニューの項目をクリックすると機能が選択されます。機能を選択せずにメニューを消す場合は、メニューの外をクリックするか、Escキーを押してください。

表示されるメニュー項目はOSのバージョンや設定しているMac OSのサービスにより異なります。

1.2 翻訳

翻訳には、一文翻訳、文書翻訳、指定した範囲の翻訳があります。翻訳処理は、[翻訳]－[現在の文書設定]の翻訳に関する設定に従って実行されるので、必要であれば、翻訳の前に設定を行ってください。

1.2.1 一文翻訳

「一文翻訳」は、指定された文番号の文の翻訳だけを行います。原文を翻訳しやすい形に変更したり、ユーザー辞書に新しく単語を登録した後で再翻訳するなど、対話形式の処理に適しています。

● マウス操作で実行する

翻訳エディタで翻訳する文の文番号をクリックしてください。
翻訳結果が訳文エリアに表示されます。

● メニューから実行する

「一文翻訳」は、以下の手順で実行します。

手順

1. 翻訳エディタで翻訳する文にカーレットを置きます。
2. [翻訳]－[一文翻訳]を選択します。

訳文エリアに翻訳結果が表示されます。

必要な場合は、原文の修正／挿入を行いながら翻訳処理を行ってください。

1.2.2 キーボードから入力して翻訳する

キーボードから文章を入力して翻訳してみます。Transerでは市販のワープロやエディタと同じような手順で文を編集することができます。

翻訳エディタに半角カタカナを入力することはできません。半角カタカナを入力すると、かな漢字変換後、翻訳エディタに文字が入力されるときに全角カタカナに置き換わります。また、英語を全角で入力しても翻訳されません。

文章を入力する方法は、以下のとおりです。

手順

1. 原文エリアに"Jack and John agreed to explore in the house and that was how the adventures started."と入力します。
2. returnキーを押します。
文番号2が表示され、カーレットが文番号2へ移動します。
3. "The house had a lot of unexpected places."と入力します。



このようにして、1つの文番号に1つの文を入力していきます。翻訳ソフトは文単位で翻訳を実行します。その際、1つの文番号には1つの文だけ入力されているものとして扱うので、複数文を入力する場合は、必ずreturnキーを押して文を1つずつ分割してください。

4. 一文翻訳を実行します。文番号の「1」をクリック、続いて文番号の「2」をクリックします。

一文翻訳が実行され、翻訳結果が訳文エリアに表示されます。



● 文の編集

ここでは、文を分割したり、結合する方法について説明します。

・ 文の分割

1つの文が長くなると加速度的に翻訳に時間がかかり、結果も読みにくいものになります。可能な場合は、長い文（30語程度より長いもの）は前もって複数の文に分割することをお勧めします。

例として、文番号1の文を分割します。

Jack and John agreed to explore in the house and that was how the adventures started.

手順

1. "house"の後ろでクリックします。

caretが"e"の直後に移動します。

2. ピリオド（.）を入力します。

3. ここまでを1つの文にするため、and の a の直前をクリックし、returnキーを押します。

文が2つに分かれ、"and"以下が新しく文番号2の文になりました。それ以降の文番号もふり直されています。

Jack and John agreed to explore in the house.
and that was how the adventures started.

• 文の結合

文を結合するには、結合する文の先頭にキャレットを置き、deleteキーを押します。先ほどの文を元に戻します。

手順

1. **2番の文の先頭にキャレットを置き、deleteキーを押します。**
これで2つの文が、ひとつにつながります。
2. **ピリオドを消去します。**

1.2.3 文書翻訳

ここでは、Transerが提供するさまざまな翻訳機能について説明します。

● 全文翻訳

翻訳エディタに表示されている全文を翻訳します。

手順

1. **[翻訳] – [全文翻訳] を選択します。**
キャレット位置にかかわらず、文書の先頭から翻訳が開始されます。

● キャレット位置以降を翻訳

キャレット位置以降の文章を翻訳する手順は以下のとおりです。

手順

1. **翻訳エディタで、翻訳を始めた文にキャレットを置きます。**
キャレットの移動は、スクロールバー、↑ ← → ↓ キー、または[編集] – [ジャンプ] コマンドで文番号を指定して行います。
2. **ツールバーの〈翻訳〉  をクリックします。**
キャレット位置から文書の最後までを翻訳します。

● 連続する文章を翻訳する

翻訳エディタで、翻訳したい範囲の先頭から最後までをドラッグして選択すると、文番号が反転表示されます。マウスのボタンを離すと、文番号が反転している文章が翻訳されます。

● 翻訳の中止

翻訳を中止する場合は、ツールバーの〈中止〉  をクリックするか、コマンドキー (⌘) + ". " (ピリオド) を押します。

● 確認翻訳 日→英のみ

日→英には、翻訳した英文を再度日本語に翻訳して表示する「確認翻訳」機能があります。英訳文を再翻訳した結果を参照することで、正しく翻訳されているかどうかを確認できます。

[表示]－[編集モード]－[確認翻訳]を選択します。

確認翻訳モードに切り替えることを確認するメッセージが表示されるので、〈はい〉をクリックすると、確認翻訳モードに切り替わります。

翻訳を実行すると確認翻訳エリアには、訳文エリアの英文を日本語に再翻訳した和文が表示されます。

1.3 訳語の対応と訳語変更

1.3.1 訳語対応

Transerには、原文の単語がどのように翻訳されたのか、または、訳語がどの単語に対応しているのかがわかる、訳語の対応機能があります。

● マウス操作で実行する

任意の単語をダブルクリックすると、その単語と対応する単語に下線が引かれます。同時に、ステータスバーにその単語の品詞が表示されます。

● メニューから実行する

手順▶

1. 対応を表示したい単語にキャレットを置きます。
2. [単語]－[訳語対応]を選択します。

対応する単語に下線が引かれます。

メモ 訳語対応の実行で、単語が反転表示するのは、OS Xの機能で、Transerの機能ではありません。したがって、下線が引かれる部分と反転表示する部分は必ずしも一致しません。



翻訳の際、原文と訳文の構造上の違いにより落とされた単語は、ダブルクリックしても対応が表示されません。たとえば、受身を表すbe動詞がこれにあたります。なお、対応を解除する場合は、反転表示されていない任意の位置でクリックします。



原文や訳文を少しでも編集してしまうと、単語の対応は表示されなくなります。「一文翻訳」を行えば単語の対応は表示されますが、編集した訳文が翻訳結果と置き換わるので、注意してください。

1.3.2 訳語変更

Transerには、複数の意味を持つ単語の別訳語リストを表示し、適切な訳語に入れ替える「訳語変更」機能があります。

● マウス操作で実行する

任意の単語をトリプルクリックすると、対応する単語が反転表示し、訳語変更ダイアログが表示されます。訳語の中から適切なものをクリックすると訳語を変更できます。

● メニューから実行する

手順

1. 訳語変更を行う単語にキャレットを置きます。
2. [単語]－[訳語変更]を選択します。
設定している辞書に登録されている訳語の一覧が表示されます。
3. 表示された訳語の中からもっとも適切な訳語をクリックします。
訳が選択した訳語に置き換わります。

● 訳語ペインから別訳語を選択する

「訳語変更」は、訳語ペインで実行することもできます。



ヒント

ペインは、[表示]－[パネルを開く]を選択すると表示されます。

手順

1. 翻訳エディタで、訳語変更を行う単語をダブルクリックします。
設定している辞書に登録されているすべての訳語が訳語ペインの「訳語」タブに表示されます。

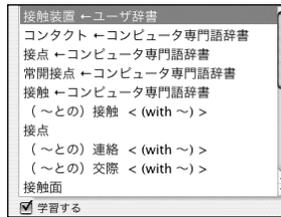


2. 表示された訳語の中からもっとも適切なものをダブルクリックします。
訳が選択した訳語に変わります。

● ダイアログに表示される訳語

訳語リストに表示される訳語は、同じ品詞のもの（動詞の場合は同じ文型の同じもの）で、周囲の文脈で前置詞などが同じ使われ方をしているもの（たとえば、間接目的語を持つとシステムが解釈している場合は、間接目的語を持ちうる訳語）に限られます。表示されていない訳を指定したい場合は、ユーザー辞書に登録する必要があります。または、後述する「全リスト」内であれば選択することもできます。

また、ここで表示される訳語は、[翻訳]－[現在の文書設定]－[EJ(JE)辞書]で設定した辞書に含まれる訳語です。たとえば、使用する辞書に「ユーザー辞書」、「コンピュータ専門語辞書」、「基本語辞書」を設定した場合、訳語変更ダイアログは次のように変更されます。



このようにダイアログ内には出典辞書名が表示されます。

● 学習機能について

学習機能とは、1つの見出し語に対して複数の訳語が登録されている場合、一度選択した訳語がその後の翻訳で優先的に使われる機能です。訳語変更ダイアログまたは訳語ペインで訳語を選択すると、以降の翻訳ではその訳語が使われます。また、変更した訳語が一番上に表示されます。



訳語を学習すると訳語変更ダイアログでは、訳語の右に「←[学習]」と表示されます。訳語ペインでは、「辞書」に「学習辞書」と表示されます。

学習された訳語は、学習辞書へ自動的に登録されます。1つの見出し語に対して、学習機能が有効な訳語は常に1つです。

学習機能の設定は、「翻訳」－「現在の文書設定」－「EJ(JE)辞書」で行います。この設定で「訳語を学習する」チェックボックスをオフにした場合、訳語変更ダイアログ下部にある「学習する」チェックボックスはオフになり設定の変更はできなくなります。



英→日で前置詞、接続詞の訳は学習できません。



日→英の場合、助動詞や接続助詞など、システムが内部的に訳語を持っている付属語については、学習できません。

● パネルと訳語変更ダイアログ

パネルと訳語変更ダイアログから、以下の機能を実行できます。

全リスト 英→日のみ

初期状態で訳語ペインには、翻訳の際に構文解析を行い構文に合った訳語のみ表示されます。実際には、他の訳語も登録されていることがあります。「全

リスト」チェックボックスをオンにすると、辞書設定で選択された辞書に登録されているすべての訳語を表示します。「全リスト」からの訳語変更は、学習されません。また、構文解析による訳語のリストと「全リスト」の内容が同じ場合には、「全リスト」チェックボックスをオンにできません。

辞書登録

辞書ペインの〈辞書登録〉をクリックすると、辞書登録ダイアログが表示され、訳語を登録できます。ユーザー辞書登録の詳細は、英→日の場合は『3.6 英→日用ユーザー辞書に単語を登録する』、日→英の場合は『3.7 日→英用ユーザー辞書に単語を登録する』を参照してください。

品詞変更 英→日のみ

訳語変更ダイアログの《品詞変更》をクリックするか、訳語ペインの「品詞」タブをクリックすると、品詞の一覧が表示され、品詞を変更できます。品詞変更の詳細については、『1.4 品詞変更』を参照してください。

学習

訳語変更ダイアログまたは訳語ペインにある「学習する」チェックボックスがオンの場合、変更した訳語は学習され、次回の翻訳から変更した訳語が第一訳語になります。

たとえば、この文に対してだけは学習させたくないという場合には、「学習する」チェックボックスをオフにしてから訳語を選択します。

学習解除

訳語変更ダイアログの「学習する」チェックボックスをオンにして、以前に、指定した単語の訳語変更を行っていた場合は、ダイアログ下部に《学習解除》が表示されます。学習情報を消去するには、《学習解除》をクリックします。訳語ペインの〈学習解除〉をクリックしても、学習情報を消去できません。文を再翻訳すると、設定している辞書の中でもっとも優先順位の高い辞書から訳語を引いて翻訳します。



ヒント

「学習する」チェックボックスをオフにして訳語を変更すると、文番号の前にロック (🔒) がつきます。誤って翻訳をした場合、変更した訳語が元に戻ってしまうのを防ぐためです。



学習は、[翻訳]—[現在の文書設定]—[EJ(JE)辞書]で「訳語を学習する」チェックボックスをオンにしたときのみ有効になります。

訳語変更ダイアログを閉じる

訳語を変更せずに訳語変更ダイアログを閉じる場合は、Escキーを押す、または、ダイアログの外でマウスをクリックします。

1.3.3 学習機能

学習機能とは、1つの見出し語に対して複数の訳語が登録されている場合、一度選択した訳語がその後の翻訳で優先的に使われる機能です。訳語変更ダイアログまたは訳語ペインで訳語を選択すると、以降の翻訳ではその訳語が使われます。また、学習した訳語が訳語変更ダイアログの一番上に表示されます。

- **英→日 学習辞書の保存場所**

初期状態で学習辞書は、以下の場所に保存されます。

ホームフォルダ:Library:Application Support:Cross Language
:MAC-TranserV11(MED-TranserV11):EJフォルダ

学習辞書は上記フォルダ中にある「学習辞書.dir」、「学習辞書.key」、「学習辞書.ldc」の3つのファイルから構成されています。

- **日→英 学習辞書の保存場所**

初期状態で学習辞書は、以下の場所に保存されます。

ホームフォルダ:Library:Application Support:Cross Language
:MAC-TranserV11(MED-TranserV11):JEフォルダ

学習辞書は上記フォルダ中にある「学習辞書.jld」ファイルです。

● 英→日 訳語を学習しない品詞

前置詞と接続詞の訳は学習されません。前置詞と接続詞は、名詞や動詞などとの係りを詳細登録しているため、学習させると登録された係りが無効になり、翻訳精度が下がることが多いためです。たとえば、次の例文の"by"は訳し分けられません。

例1：He came here by train. 翻訳結果：彼は、電車でここに来た。
 例2：He is by nature an easy-going man. 翻訳結果：彼は、本来、落ち着いた人である。

上記では、"by nature"は慣用句で「本来」と登録されています。例1で"by"を学習させると、例2では"by"と"nature"が別々に訳されてしまいます。このため、前置詞と接続詞は学習されないようになっています。

● 日→英 訳語を学習しない品詞

助動詞や接続助詞など、システムが内部的に訳語を持っている付属語については、学習できません。

● 学習辞書の表示色

学習辞書から出典した訳語の表示色は、初期状態では茶色ですが、色を変更できます。表示色の変更方法は、以下のとおりです。

手順

1. [翻訳]－[現在の文書設定]を選択するか、ツールバーの〈現在の文書設定〉

 をクリックして、「EJ(JE)辞書」タブをクリックします。

次のダイアログが表示されます。



2. 「学習辞書の色」の前にある矩形をクリックします。

カラーパネルが表示されるので、色を指定します。このダイアログは使用しているシステムにより、内容が異なります。設定内容の詳細は、Mac OS X のMacヘルプの該当する項を参照してください。

● 学習辞書を使わない

[翻訳]－[現在の文書設定]－[EJ(JE)辞書]で「訳語を学習する」チェックボックスをオフにすると、すべての翻訳作業で訳語の学習情報は使われません。この場合、訳語変更ダイアログや訳語ペインで「学習する」をオンに設定することもできません。

1.4 品詞変更 英→日のみ

「品詞変更」は訳語の変更と同様、その単語の品詞を変更する機能です。構文的に解釈が難しい文章に対し、翻訳システムでは、最適と思われる品詞を決定して翻訳を行います。品詞変更を行うことにより、システムが誤った解釈をした場合でも、正しい品詞で解釈させることができます。

● マウス操作で実行する

任意の単語をトリプルクリックして訳語変更ダイアログを表示します。品詞変更が可能な単語にはダイアログの下部に《品詞変更》が付加されます。これをクリックすると、品詞変更ダイアログが表示されます。品詞リストの中から適切なものをクリックすると、変更した品詞に従って、文が自動的に再翻訳されます。

● メニューから実行する

「品詞変更」は、以下の手順でも行えます。

手順

1. 品詞変更を行う単語にキャレットを置きます。
2. [単語]－[品詞変更]を選択します。

変更する単語（反転表示されている単語）の辞書に登録されている品詞がすべて表示されます。



3. 表示された品詞の中から、変更したいものをクリックします。

変更した品詞に従って文が自動的に再翻訳され、ロックがかかります。品詞変更を行わずに品詞リストを閉じる場合は、ESCキーを押します。



変更した品詞が適切でない場合、翻訳システムは構文解釈に失敗することがあります。

ここで表示される品詞は、変更する単語に対して基本語辞書と辞書設定で選択

された辞書に登録されている品詞です。

品詞には名詞、形容詞、副詞、接続詞、前置詞、動詞、単位、数詞、感嘆詞などがあります。限定詞とは、所有代名詞（my, hisなど）および、no, fewなどのような数字を含まない数量詞を言います。動詞には、動詞、動詞（原形）、過去分詞、現在分詞、動名詞などがあります。

● 訳語ペインから別訳語を選択する

「品詞変更」は、訳語ペインで実行することもできます。



ヒント ペインは、[表示]—[パネルを開く]を選択すると表示されます。

手順

1. 翻訳エディタで、訳語変更を行う単語をダブルクリックします。

設定している辞書に登録されているすべての訳語が訳語ペインの「品詞」タブに表示されます。



2. 表示された品詞の中からもっとも適切なものをダブルクリックします。

変更した品詞に従って文が自動的に再翻訳され、ロックがかかります。

● パネルと品詞変更ダイアログ

パネルと品詞変更ダイアログから、以下の機能を実行できます。

訳語変更

品詞変更ダイアログの《訳語変更》をクリックするか、訳語ペインの「訳語」タブをクリックすると、訳語の一覧が表示されます。

学習

初期状態では、品詞変更は学習されません。

学習させたい場合は、訳語変更ダイアログまたは訳語ペインの「学習する」チェックボックスをオンにしてから品詞を選択します。変更した品詞は学習され、次の翻訳からは変更した品詞を優先して構文解析を行います。学習機能の詳細は、『1.3.3 学習機能』を参照してください。

学習解除

訳語変更ダイアログの「学習する」チェックボックスをオンにして、以前に、指定した単語の品詞変更を行っていた場合、ダイアログ下部に《学習解除》が表示されます。学習情報を消去するには、《学習解除》をクリックします。訳語ペインの〈学習解除〉をクリックしても、学習情報を消去できます。

文を再翻訳すると、設定している辞書の中でもっとも優先順位の高い辞書から品詞を引いて翻訳します。

品詞ダイアログを閉じる

品詞を変更せずに品詞ダイアログを閉じる場合は、Escキーを押す、または、ダイアログの外でマウスをクリックします。

● 学習辞書を使わない

[翻訳]－[現在の文書設定]－[EJ(JE)辞書]で「訳語を学習する」チェックボックスをオフにすると、すべての翻訳作業で品詞の学習情報は使われません。

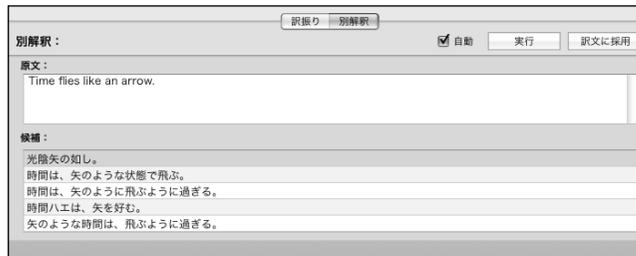
1.5 別解釈 英→日のみ

構文的に正しい解析結果の中から、意味的にも正しい解釈を選択することは、訳語の選択と同様、翻訳システムには難しい問題です。「別解釈」は、キャレット位置の文の複数訳を表示し、その中から最も適当な構文を選択する機能です。手順は、以下のとおりです。

手順

1. 別解釈を実行する文にキャレットを置きます。
2. [翻訳]－[別解釈]を選択します。

別翻訳ペインの「原文」にキャレット位置の文が表示され、「候補」に別解釈の候補が表示されます。



● 訳文に採用

「候補」内で最適な解釈を選択し、〈訳文に採用〉をクリックすると、翻訳エディタのキャレット位置の訳文と置き換わり、ロックがかかります。
既に翻訳結果がある場合、上書きするか確認するメッセージが表示されます。
上書きを指定した場合、ロックがかかっている文も上書きされます。
確認メッセージの表示・非表示は、確認メッセージの「次回からこのメッセージを表示しない」チェックボックスのオン・オフで切り替えます。また、環境設定ダイアログの「詳細」タブでも行えます。



「別解釈」では、「一文翻訳」と同様に、実際に翻訳が行われます。30語を超えるような長い文の翻訳には、かなりの時間がかかる場合があります。できるだけ、長い文は短い文に分けてから「全文翻訳」や「別解釈」を実行することをお勧めします。



ヒント

「別解釈」で選択した文にはロックがかかります。別解釈は学習されないため、文を再翻訳すると元の翻訳結果に戻ってしまいます。不注意に再翻訳しないよう、ロックがかかります。

● 別解釈の自動実行

別解釈は、さまざまな構文解析を実行し翻訳可能な解釈を表示します。
別解釈ペインの「自動」チェックボックスがオンの場合、翻訳エディタでキャレットを移動すると、キャレット位置の文を別解釈ペインに表示して、別解釈を実行します。

キャレットの移動に合わせて別解釈を行わない場合は、「自動」チェックボックスをオフにして、別解釈を実行する文にキャレットを置いて別解釈ペインの〈実行〉をクリックします。

1.6 連続ファイル翻訳

複数のファイルを連続で翻訳します。翻訳は「現在の文書設定」に従って実行し、翻訳作業の過程は表示されません。同じ条件で複数のファイルを翻訳したい場合に便利なコマンドです。



ヒント 連続ファイル翻訳の実行中は、翻訳エディタでの翻訳は実行できません。

はじめに、翻訳の条件を設定します。現在の設定のままでよければ、この作業は必要ありません。

● 翻訳の条件、辞書を設定する

- 手順**
1. [翻訳]—[現在の文書設定]を選択するか、ツールバーの〈現在の文書設定〉をクリックします。
 2. 「EJ(JE)翻訳」タブで翻訳の条件を設定します。
 3. 「EJ(JE)辞書」タブで使用する辞書を設定します。

● 連続ファイル翻訳を実行する

[ツール]—[連続ファイル翻訳を開く]を選択すると次のダイアログが表示されます。



● 〈追加〉

〈追加〉をクリックするか、[ツール]—[ファイルを追加]を選択するとダイアログが表示されます。

翻訳するファイルを指定すると、原文ファイルリストへ追加されます。shiftキー+クリック、コマンドキー(⌘)+クリックで、複数のファイルを選択してから〈開く〉をクリックすると、一度に複数のファイルを指定できます。

• ドラッグ&ドロップで追加

原文ファイルを連続ファイル翻訳ダイアログへドラッグ&ドロップすると、原文ファイルリストへ追加されます。一度に複数のファイルを選択してドラッグ&ドロップすると、複数のファイルを追加できます。

• 〈削除〉

指定したファイルを取り消したい場合は、ファイル名を選択して、〈削除〉をクリックしてください。shiftキー+クリック、コマンドキー (⌘) +クリックで、複数のファイルを選択してから〈削除〉をクリックすると、一度に複数のファイルを削除できます。

• 生成ファイル

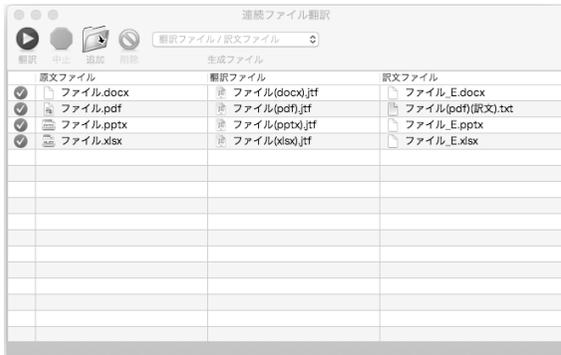
翻訳結果として保存するファイルを指定します。「翻訳ファイル」と「訳文ファイル」または、両方を作成するよう「翻訳ファイル/訳文ファイル」から指定します。ツールバーの〈生成ファイル〉をクリックして、プルダウンメニューから指定します。または、[ツール]ー[生成するファイル]のサブメニューから指定します。

「訳文ファイル」はファイル名に「(訳文)」を付加します。訳文ファイルはテキストファイルなので、ワープロやエディタに読み込むことができます。「翻訳ファイル」を作成すればTranserに読み込んで訳語の対応表示、訳語変更などの翻訳処理を行えます。拡張子は、英→日の場合".etf"が、日→英の場合".jtf"が付加されます。

翻訳結果は、元ファイルの保存されている場所に保存されます。



翻訳ファイル名に元ファイルの拡張子が付加されます。詳しくは『4.1.1 ファイルを開く』を参照してください。また、元ファイルがオフィス文書の場合は、「訳文ファイル」には、翻訳されたオフィス文書が出力されます。オフィス文書以外のファイルは訳文ファイルが作成されます。



- **翻訳の開始**

- 選択したファイルのみ翻訳**

- 原文ファイルリストにあるファイルを選択して、[ツール]－[選択したファイルを翻訳]を選択します。

- すべてのファイルの翻訳**

- 連続ファイル翻訳ダイアログにあるツールバーの〈翻訳〉をクリックするか、[ツール]－[すべて翻訳]を選択します。

- **中止**

- ツールバーの〈中止〉をクリックするか、[ツール]－[中止]を選択すると翻訳が中止されます。

- **翻訳結果の表示**

- 連続ファイル翻訳ダイアログで、生成された翻訳ファイル名をダブルクリックすると、翻訳ファイルを開くことができます。

- **ステータス**

- 連続ファイル翻訳ダイアログでは、ファイル名の前のステータスエリアに連続ファイル翻訳が成功したのか、失敗したのかがアイコンで表示されます。

- 連続ファイル翻訳に成功した場合**

- ステータスエリアにはが表示されます。

- ファイルの翻訳に成功し、生成ファイルが作成されたことを示します。

- 連続ファイル翻訳に失敗した場合**

- ステータスエリアにはが表示されます。

- ファイルの翻訳時にエラーが発生したなどの理由により、生成ファイルが作成されなかったことを示します。

- 連続ファイル翻訳中**

- ステータスエリアにはが表示されます。

1.7 フレーズ翻訳

Transterの翻訳では、原文が曖昧な場合、語句の係り方や修飾先を誤ることがあります。曖昧な文とは、語句がどこにかかるか、どの語句を修飾しているかなど、多義に解析できる文のことです。

このような場合、部分的な句や節をあらかじめ指定して、係りや修飾先の可能性を限定すると翻訳の精度が向上します。

「フレーズ翻訳」は、係り受けの曖昧な部分をあらかじめ1つの「句」と指定してから翻訳する機能です。

1.7.1 フレーズ指定と解除

● フレーズの指定方法

原文エリアでひとつのフレーズにする文字列を選択して、以下のいずれかの方法で指定します。

[フレーズ]－[フレーズ指定]を選択する

ツールバーの〈フレーズ〉をクリックする

● フレーズ指定のルール

1つの文で4段階（レベル1～4）までで、最大31個までフレーズ指定することができます。

フレーズ指定した範囲を含んでさらに広い範囲の文字列、またはフレーズ指定した文字列の一部をさらにフレーズとして指定することもできます。フレーズの背景色は、[翻訳エディタ EJ(JE)]－[環境設定]－[表示]の「フレーズレベル」で指定できます。

AAA and BBB of CCC and DDD and EEE and FFF	<input type="checkbox"/>	レベル1
AAA and BBB of CCC and DDD and EEE and FFF	<input checked="" type="checkbox"/>	レベル2

フレーズにまたがって指定することはできません。また、フレーズ指定されている文字列の一部と、フレーズ指定されていない文字列を組み合わせると新しいフレーズを指定することもできません。

AAA and BBB of CCC and DDD

「翻訳しない」種別のフレーズが指定されている文字列に、さらにフレーズを指定することはできません。

- フレーズ種別

フレーズ指定した文中でそのフレーズが名詞句なのか、形容詞句なのかなど、品詞句の分類を指定します。「フレーズ指定」を実行した文字列は「自動判別」で翻訳されますが、これとは異なり明確に品詞句を指定したい場合に、「フレーズ種別」のサブメニューから適切な品詞句を選択します。

- 翻訳しない

文の中には、部品名や製品名、適切な訳語のない単語など翻訳を必要としない語句も含まれています。「翻訳しない指定」は、特定の単語を翻訳せず原語のままで出力します。指定方法はフレーズ指定と同じです。

- 自動判別

翻訳ソフトが句の分類を判別します。

- フレーズ種別の確認

「フレーズ指定」したフレーズでマウスのボタンをクリックすると、ステータスバーにフレーズ種別とレベルが表示されます。

- フレーズ解除

キャレット位置のフレーズ指定を無効にします。フレーズ解除する文字列にキャレットを置いて、[フレーズ]ー[フレーズ解除]を選択する、または、〈解除〉をクリックしてください。フレーズ指定が無効になり、文字列の背景色が元に戻ります。



翻訳ファイル名に元ファイルの拡張子が付加されます。詳しくは『4.1.1 ファイルを開く』を参照してください。また、元ファイルがオフィス文書の場合は、「訳文ファイル」には、翻訳されたオフィス文書が出力されます。オフィス文書以外のファイルは訳文ファイルが作成されます。

1.7.2 一括フレーズ指定

フレーズ指定する語句を検索して、一括でフレーズ指定・解除したり、フレーズの種別を変更することができます。

メモ 本機能は、MED-Transer エクスプレスには搭載されていません。

手順は以下のとおりです。

手順

1. 原文エリアの開始する位置へキャレットを置いて、[フレーズ]—[一括フレーズ]を選択します。

一括フレーズダイアログが表示されます。



2. 「フレーズ文字列」に捜したい文字列を入力します。

「フレーズ文字列」には、shift+returnキー入力力で区切って複数の語句を指定することができます。



ヒント

翻訳エディタで検索する文字列をあらかじめ選択しておく、「フレーズ文字列」に自動的に入力されます。

3. 英語の大文字と小文字を区別しないで検索する場合は、「大文字/小文字を無視」チェックボックスをオンにします。
4. すべての項目を正しく入力したら、〈次を検索〉をクリックします。
検索文字列が見つかったら、検索結果が反転表示されます。
5. 検索結果の文字列をフレーズ指定する場合は〈指定〉を、フレーズ解除する場合は〈解除〉をクリックします。
フレーズ種別を指定する場合は、「フレーズ種別」の一覧から種別を指定します。
〈全てを指定〉は、確認なしで一斉にすべての文字列をフレーズ指定します。
〈全てを解除〉は、確認なしで一斉にすべての文字列をフレーズ解除します。
一括フレーズ指定を中止するには、〈閉じる〉をクリックします。

1.7.3 英→日 フレーズ翻訳

次の例文で説明します。

例文

All students are expected to submit an interim report in March and a final report in May.

英→日による素訳

「すべての学生は、5月に3月と最終報告で中間報告を提出することになっている。」

求めたい訳

「すべての学生は、3月の中間報告と5月の最終報告を提出することになっている。」

素訳について

前出の例文では、"March"と"a final report"が並列になっていますが、実際には"an interim report in March"と"a final report in May"を並列に解析すべきです。

フレーズ翻訳の手順は以下のとおりです。

手順

1. フレーズ翻訳する文にキャレットを置きます。
2. 1つのフレーズにしたい部分を選択して、「フレーズ指定」を選択します。

例文では"an interim report in March"を選択して、「フレーズ指定」を選択します。選択する範囲を誤った場合は、「フレーズ解除」を実行して、再度手順2を実行してください。選択したフレーズの背景色が、[翻訳エディタ E]ー[環境設定]ー[表示]で設定した「フレーズレベル1」の色に変わります。



「フレーズ指定」したフレーズに品詞句を指定しなかった場合、[自動判別]としてシステムが自動的に品詞句を設定して翻訳します。

3. もう1つのフレーズを指定します。

例文では、"a final report in May"を選択して、「フレーズ指定」を選択します。

4. 文番号をクリックして再翻訳します。

訳文が表示されます。

3	All students are expected to submit an interim report in March and a final report in May.	すべての学生は、3月の中間報告と5月の最終報告を提出することになっている。
---	---	---------------------------------------



辞書やシステムは、逐次改良が加えられているため、画面に表示される結果はこの説明と必ずしも一致しません。

1.7.4 日→英 フレーズ翻訳例

次の例文で説明します。

例文

わたしは業者に高額な机と椅子の絵の代金を支払った。

日→英による素訳

I paid an expensive desk and the price for picture of the chair to a supplier.

求めたい訳

I paid the large price for picture of a desk and the chair to a supplier.

素訳について

「代金」が「椅子の絵」に係り、「机」と「代金」を「支払った」ことになっています。実際には、「机と椅子の絵」がひとつの句で、「代金」は「机と椅子の絵」に係り、さらに「高額な」は「机と椅子の絵の代金」にかかるべきです。

フレーズ翻訳の手順は以下のとおりです。

手順

1. フレーズ翻訳する文へキャレットを置きます。
2. 1つのフレーズにしたい部分を選択して、「フレーズ指定」を選択します。
例文では「机と椅子の絵」を選択して、「フレーズ指定」を選択します。選択する範囲を誤った場合は、「フレーズ解除」を実行して、再度手順2を実行してください。選択したフレーズの背景色が、[Transer JE]－[環境設定]－[表示]で設定した〈フレーズレベル1〉の色に変わります。



「フレーズ指定」したフレーズに品詞句を指定しなかった場合、「自動判別」としてシステムが自動的に品詞句を設定して翻訳します。

3. もう1つのフレーズを指定します。
例文では、「机と椅子の絵の代金」を選択して、「フレーズ指定」を選択します。
4. 文番号をクリックして再翻訳します。
訳文が表示されます。

5	わたしは業者に高額な机と椅子の絵の代金を支払った。	I paid the large price for picture of a desk and the chair to a supplier.
---	---------------------------	---



辞書やシステムは、逐次改良が加えられているため、訳出される結果は本書に貼付されている結果と一致しない場合があります。

1.8 英→日 オプション翻訳

英→日は「開く」でテキストを読み込む際、その文章がタイトル文か、箇条書きかなどを自動的に判別します。

ただし、文章によっては英→日の文分割の基準にあてはまらず、正しく認識されない場合があります。オプション翻訳は、文章を「タイトル」、「箇条書き」と指定して、適切な翻訳を実行する機能です。翻訳後は、ステータスバーにどのようなオプションが指定されたかが表示されます。

メモ 複数の文を選択した状態で、「オプション翻訳」を実行すると、選択した文を翻訳することができます。



「通常翻訳」以外のオプション翻訳を実行した文の文番号にマウスポインタを置くと、オプション翻訳の種類が表示されず。

1.8.1 タイトル翻訳

英→日は「開く」でテキストファイルを読み込む際、その文がタイトルかを自動的に判別します。通常タイトルは、大文字で書かれ、文は短くなります。

タイトルとして読み込まれた文は、大文字・小文字を区別しないで、なるべく名詞句として訳されます。また、文番号の下に「T」と表示されます。

ただし、タイトルとして正しく判別できないこともあります。このような場合に「タイトル翻訳」を実行すると、選択された文は[翻訳]－[現在の文書設定]－[EJ翻訳]で設定された条件に従わず、大文字と小文字を区別しないで翻訳されます。

手順は、以下のとおりです。



1. タイトル翻訳する文にキャレットを置きます。

連続する文章を処理したい場合は、文章を選択してください。

2. [翻訳]－[オプション翻訳]－[タイトル翻訳]を選択します。

指定した文または選択した文章がタイトル翻訳され、文番号の下に「T」と表示されます。

1.8.2 箇条書き翻訳

英→日は「開く」でテキストファイルを読み込む際、その文が箇条書きかを自動的に判別します。

箇条書きとは、1、(1)、(a)などが先頭にある文です。箇条書きと判断された文は、文番号の下に「K」と表示されます。

あらかじめ他のエディタやワープロなどで制御コードを入力し、箇条書きの先頭の単語をそれ以降の文章と区切る方法もあります。

詳細については、『7.1 原文編集と制御コード』を参照してください。「箇条書き翻訳」では、文の先頭の列挙記号を無視して翻訳し、訳の先頭に無視された列挙記号を付加します。

たとえば、"c Click the file name."を一文として訳すと"c Clickは、ファイル名である。"となります。

この文を箇条書き翻訳すると"c ファイル名をクリックしなさい。"となります。手順は、以下のとおりです。

手順

1. 箇条書き翻訳する文にcaretを置きます。

連続する文章を処理したい場合は、文章を選択してください。

2. [翻訳]—[オプション翻訳]—[箇条書き翻訳]を選択します。

指定した文または選択した文章が箇条書き翻訳され、文番号の下に「K」と表示されます。

1.8.3 通常翻訳

タイトルまたは箇条書きと判定された文を通常文として翻訳したい場合や、「タイトル翻訳」や「箇条書き翻訳」で翻訳した文を通常の文に戻したい場合に使用します。通常翻訳は、現在の文書設定ダイアログの設定にしたがって、実行されます。

手順は、以下のとおりです。

手順

1. 通常翻訳する文にcaretを置きます。

連続する文章を処理したい場合は、文章を選択してください。

2. [翻訳]—[オプション翻訳]—[通常翻訳]を選択します。

指定した文または選択した文章が翻訳されます。

1.9 日→英 オプション翻訳

日本語には、特に技術文書などで、前後の文との関係から主語が省略された文がよくあります。日→英では、和文（原文）に主語がないとき英文（訳文）に自動的に主語を補ったり、主語が不要な受動態や命令形の文にして、主語の欠落に対応しています。「オプション翻訳」はこのような訳文の形を指定します。オプション翻訳後には、ステータスバーにどのようなオプションが指定されたかが表示されます。

メモ 複数の文を選択した状態で、「オプション翻訳」を実行すると、選択した文を翻訳することができます。



ヒント

「通常翻訳」以外のオプション翻訳を実行した文の文番号にマウスポインタを置くと、オプション翻訳の種類が表示されません。

1.9.1 主語を補う

和文に主語がない場合、主語を補って翻訳します。補う主語は、「[S]、I、you、it、he、she、we、they」の8種類から選択できます。[S]はユーザー指定の主語を補います。ユーザー指定の主語は[翻訳]—[現在の文書設定]—[JE翻訳]で補う主語を直接入力します。詳細は、『5.1.3 JE翻訳』を参照してください。手順は、以下のとおりです。

手順

1. 主語を補って翻訳する文に caret を置きます。
連続する文章を処理したい場合は、文章を選択してください。
2. [翻訳]—[主語を補う]のポップアップメニューから補う主語を選択します。
指定した文または選択した文章が主語を補って翻訳され、文番号の下に「主」と表示されます。

1.9.2 受け身にする

和文に主語がない場合、受動態の文として翻訳します。ただし、受動態になり得ない構造の文の場合は、このコマンドを実行しても、自動的に主語を補って翻訳されます。この場合の主語は、[翻訳]－[現在の文書設定]－[JE翻訳]で指定したものが使われます。

手順は、以下のとおりです。

手順

1. 受け身にして翻訳する文にcaretを置きます。

連続する文章を処理したい場合は、文章を選択してください。

2. [翻訳]－[受け身にする]を選択します。

指定した文または選択した文章が受け身形で翻訳され、文番号の下に「受」と表示されます。

1.9.3 主語を省略する

和文に主語がない場合、主語を省略して翻訳し、属性エリアに「!」が表示されません。訳出する動詞には、原形 (Be/Take)、1人称単数形で訳す (Am/Take)、2人称単数及び複数形で訳す (Are/Take)、3人称単数形で訳す (Is/Take) を指定できます。たとえば「昨日買い物に行きました。」という文を「Be/Take」を指定して訳すと"Went for shopping yesterday."となります。

手順

1. 主語を省略して翻訳する文にcaretを置きます。

連続する文章を処理したい場合は、文章を選択してください。

2. [翻訳]－[主語を省略する]を選択します。

指定した文または選択した文章が主語を省略して翻訳され、文番号の下に「省」と表示されます。

1.9.4 通常翻訳

オプション翻訳した文を通常の文に戻したい場合に使用します。通常翻訳は、現在の文書設定ダイアログの設定にしたがって実行されます。

手順は、以下のとおりです。

手順

1. 通常翻訳する文にcaretを置きます。

連続する文章を処理したい場合は、文章を選択してください。

2. [翻訳]－[通常翻訳]を選択します。

指定した文または選択した文章が翻訳されます。

1.10 Web検索と翻訳

翻訳エディタで選択した語句をキーワードとしてWebページの検索を実行し、検索結果を翻訳することができます。検索結果のWebページは翻訳エディタまたは「Web検索」パレットに表示されるので、ブラウザを起動する必要はありません。手順は以下のとおりです。

手順

1. 翻訳エディタでキーワードとする語句を選択します。
2. 【編集】－【Web検索】－【検索】を選択します。

Web検索が実行され、検索結果が表示されます。



● 翻訳

検索結果のWebページを翻訳することができます。

検索結果ページの左上にあるをクリックすると表示しているWebページの翻訳を実行します。



● 検索エンジンの指定

検索では、日本語と英語で以下の検索エンジンを使用することができます。

Google

Wikipedia

Yahoo

[編集]－[Web検索]のサブメニューから検索エンジンを選択します。
検索エンジンとして設定されている項目にはチェックマークが付きます。
また、ツールバーの〈Web検索〉を長押しすると表示されるプルダウンメニューから選択することもできます。

● ページの表示

Webページの移動や更新は以下のボタンで実行できます。

ボタン	動作
	前のページに移動
	次のページに移動
	ページの更新
	ページの翻訳
	ページ更新の中止
	文字サイズを小さく
	文字サイズを大きく
	Web検索ページを閉じる

● 辞書登録

検索結果のWebページから辞書参照や辞書登録を実行することができます。
文字列を選択してコマンドを選択すると、選択した文字列を見出し語として各ダイアログが表示されます。

1.11 サービス機能を使った翻訳

Mac OS Xのサービス機能に対応したアプリケーションから、手軽に翻訳が実行できます。

手順は以下のとおりです。

手順▶

1. サービス機能に対応したアプリケーション上で、翻訳したい箇所をドラッグして選択します。
2. [サービス]のサブメニューから、翻訳する言語にしたがって [翻訳して表示/英日]または [翻訳して表示/日英]を選択します。選択箇所が翻訳されて、フローティングウィンドウに表示されます。

第 2 章 翻訳メモリ

この章の内容

この章では、翻訳メモリの検索や登録の方法と、これを使用した翻訳について説明します。

翻訳メモリを使うと、頻繁に使用される文を登録して翻訳効率を高めたり、人間が訳した自然な訳文を登録して翻訳精度を高めることができます。

2.1 翻訳メモリとは

2.1.1 翻訳メモリとは？

対訳文をデータベースに登録し、翻訳の際データベースの原文と一致する文に対して、データベースの訳文を翻訳結果に採用する機能が「翻訳メモリ」です。たとえば、バージョンアップ製品や同系統の製品のマニュアルでは、元のマニュアルとほとんど同じ文が多数使用されることとなります。元のマニュアルの翻訳結果が翻訳メモリに登録してあれば、以前の翻訳結果をすばやく参照することができるので、翻訳効率を飛躍的に高めることができます。

また、ビジネスレターで使用される、挨拶、注文、クレームなどの文は、会社名や製品名、日付などを除くと、表現自体は定型化されている場合が多くあります。このような文は、変化する部分を明示した、「文型」として登録しておきます。文型に合致すれば、元の文から変化した部分だけを機械翻訳して、その結果を訳文の対応する位置に埋め込むので、文全体を機械翻訳するよりも、より人間の翻訳に近い結果を得ることができます。

翻訳メモリには、原文・訳文以外にも、対訳文の作成者、作成日時、文書名など、いろいろな情報を付加することができます。一冊のマニュアルを何人かで分担して翻訳するような場合は、これらの情報を見て、別の人が作成した対訳文の適切さを判断できるので、グループ作業の効率化が図れます。

同じ翻訳メモリを英→日と日→英で共有して使用することができます。

MAC-Transerには、以下の翻訳メモリが搭載されています。

翻訳メモリの名称	登録内容
基本翻訳メモリ	挨拶や一般会話で使用する表現を登録
ビジネス翻訳メモリ	ビジネスレターやニュースで使用する表現を登録
科学技術翻訳メモリ	技術論文や技術書などで使用する表現を登録
ネットショップ翻訳メモリ	注文・支払い方法、FAQなどに関する表現を登録
マニュアル翻訳メモリ	操作マニュアル、取扱説明書などの表現を登録

初期状態で、使用する翻訳メモリには基本翻訳メモリ、ビジネス翻訳メモリ、科学技術翻訳メモリ、ネットショップ翻訳メモリ、ユーザーの登録用翻訳メモリが指定されています。

MED-Transerには、医学論文によく用いられる表現を登録した「医学翻訳メモリ」と「ユーザー翻訳メモリ」が搭載されています。また初期状態で、使用する翻訳メモリとして設定されています。

2.1.2 翻訳メモリの検索機能

- 翻訳メモリペインで実行できる検索

翻訳メモリペインでは、以下の4つの検索機能があります。

- 完全一致文検索

原文と全く同じ文を検索します。

- 文型一致文検索

原文と文型が一致する文を検索します。文型とは、文の中でどんな語にも合致する変更可能な部分を、「タグ」と呼ばれる記号「<\$タグ名=>」でくくった文のことです。タグに合致した語は自動的に機械翻訳にかけられ、その結果で訳文側のタグを置き換えます。

- キーワード検索

原文と同一の語句が含まれている文を検索します。原文エリアに複数の語が入力されている場合、そのすべてが含まれている文を検索します。

- 類似文検索

原文に類似した文を検索します。文の比較は、単語単位で行われます。



単語の並びの一致する部分が長いほど、類似度は高くなります。

- 翻訳で使用可能な検索機能

翻訳を実行する際、使用可能な検索機能は以下のとおりです。

完全一致文検索

文型一致文検索

類似文検索

翻訳で使用する検索機能の設定については、『2.2.2 翻訳時に翻訳メモリを使用する』を参照してください。

2.1.3 ファイルの入出力

既に翻訳済みのマニュアルなどから作成された対訳文のテキストファイルがあれば、それを翻訳メモリに一括して登録することができます。このように、テキストファイルの対訳文を翻訳メモリに一括登録することを、「インポート」といいます。インポートできるファイルには、いくつかの種類があります。

詳細は、『2.6 インポート』を参照してください。

インポートとは逆に、ユーザーが作成したユーザー翻訳メモリの内容を、テキストファイルに書き出すこともできます。この操作を「エクスポート」といいます。翻訳メモリのバックアップとして、また、他の翻訳システムとの対訳文の交換手段としても、エクスポート機能を利用できます。詳細は、『2.7 エクスポート』を参照してください。

2.2 翻訳メモリの基本操作

2.2.1 翻訳メモリの起動と終了

- 翻訳メモリの起動

翻訳メモリは次の方法で起動します。

ツールバーの〈翻訳メモリ〉をクリックします。

[翻訳メモリ]—[参照/登録ウィンドウ]を選択します。

コマンドキー (⌘) + ; を押します。

次のウィンドウが表示されます。



ヒント

翻訳メモリは起動の際、翻訳エディタのキャレット位置にある原文と訳文を読み込んで起動します。ウィンドウを開いたまま、翻訳エディタに戻って翻訳を実行できます。

● 翻訳エディタと翻訳メモリの連携

翻訳エディタで翻訳メモリに取りこみたい文にcaretを置いて  をクリックすると、caret位置の対訳文がそのまま翻訳メモリの原文入力エリアと訳文入力エリアに取り込まれます。翻訳メモリ画面は、開いたまま翻訳エディタで翻訳作業を行えるので、次々にcaretを移動して  をクリックすることにより、必要な対訳文を簡単に翻訳メモリ画面に取り込み対訳文を登録することができます。

● 翻訳メモリの終了

画面の左上にあるクローズボタンをクリックすると、翻訳メモリ画面は閉じます。翻訳メモリ画面を閉じても、Transerは終了しません。

逆に、Transerを終了すると、翻訳メモリ画面は閉じて終了します。この時、翻訳メモリに表示されている対訳文は破棄されるので、必要であれば、登録してからTranserを終了してください。

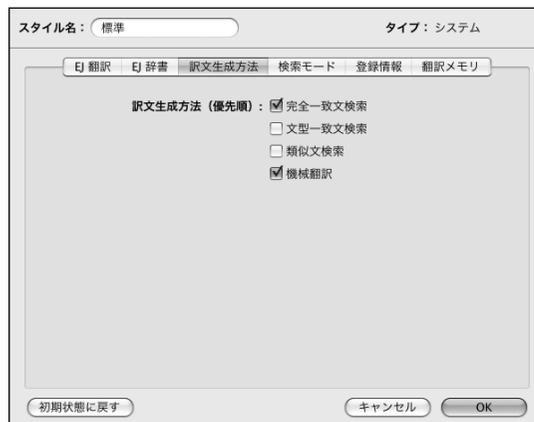
2.2.2 翻訳時に翻訳メモリを使用する

翻訳エディタで翻訳を実行する場合、機械翻訳の前に翻訳メモリを検索して、合致した対訳文があれば、その訳文を取り込むことができます。このような翻訳メモリの検索機能は、現在の文書設定ダイアログの「訳文生成方法」タブで指定できます。

手順

1. ツールバーの〈現在の文書設定〉  をクリックします。
2. 「訳文生成方法」タブをクリックします。

訳文生成方法に関する設定ダイアログが表示されます。



3. 「訳文生成方法」タブにある必要なチェックボックスをオンにします。

初期状態では、「完全一致文検索」と「機械翻訳」チェックボックスがオンになっています。ここでは、初期状態のままで説明します。

MED-Transer プロフェSSIONALの場合

初期状態で、MED-Transerでは、「完全一致文検索」、「文型一致文検索」、「機械翻訳」チェックボックスがオンになっています。

翻訳エディタで翻訳操作を行うと、「訳文生成方法」タブでオンになっている機能が、上から順に実行されます。

ここでは、まず「完全一致文検索」が実行され、最初に見つかった検索結果が訳文として採用されます。完全に一致する文が見つからなかった場合、「機械翻訳」がオンなので、続けて機械翻訳が実行されます。

この設定で、翻訳エディタに戻り、実際に翻訳を実行します。

手順

1. 原文エリアに、**"The following points should be clarified."**という文を入力します。
2. 文番号をクリックして一文翻訳を実行します。
次の結果が表示されます。



訳文エリアには、「以下の点について明らかにしなければならない。」と表示されています。この訳文は、翻訳メモリから完全一致文検索によって訳出された文です。ここで翻訳は終了し、機械翻訳は実行されません。

3. たとえば**"should be"**を**"must be"**と編集して、**"The following points must be clarified."**と修正します。
4. 文番号をクリックして一文翻訳を実行します。
次の結果が表示されます。



原文を修正したため一致する文が翻訳メモリから検索できなかったため、機械翻訳が実行された結果です。

● 訳文の色による区別

訳文が、翻訳メモリ検索の結果なのか、機械翻訳による結果なのかは、訳文の色で判断することができます。訳文の色は、完全一致文検索、文型一致文検索、類似文検索のそれぞれで異なる色が設定されています。色の設定は次の手順で行います。

手順

1. [翻訳エディタ EJ(JE)]-[環境設定]-[表示]を選択します。
2. 色を変更する項目の横にある矩形をクリックします。

カラーパネルが表示されるので、色を指定します。このダイアログは使用しているシステムにより、内容が異なる場合があります。設定内容の詳細は、Mac OS XのMacヘルプの該当する項を参照してください。

● 訳語対応

翻訳メモリの完全一致検索と類似検索によって得られた訳文には、原文との間で、単語間の対応情報がありません。したがって、単語の対応を取ることはできません。

文型一致文検索によって得られた訳文の場合、タグの部分は機械翻訳されています。文型一致文においては、翻訳エディタの原文と採用した検索結果の原文が一致している場合、タグ部分に関しては、単語の対応と訳語の変更が可能です。

メモ 日→英では、一文翻訳以外の翻訳（全文翻訳など）で文型一致すると、タグ部分の単語の対応と訳語変更を実行できない場合があります。

● 強制的に機械翻訳を実行したい場合

「訳文生成方法」タブの設定にかかわらず、強制的に機械翻訳を実行する場合は、shiftキーを押しながら文番号をクリックします。

ある範囲の文を一括して機械翻訳したい場合は、shiftキーを押しながら、翻訳したい範囲の文番号を選択します。マウスのボタンを離すと、選択された範囲の文が順に機械翻訳されます。

キャレット位置以降の文をすべて強制的に機械翻訳する場合は、shiftキーを押しながら、ツールバーのをクリックします。

キャレット位置にかかわらず、全文を強制的に機械翻訳する場合は、shiftキーを押しながら、[翻訳]-[全文翻訳]を選択します。

2.2.3 対訳文の登録

翻訳メモリには、翻訳の実務を通して対訳文を蓄積していくことができます。翻訳した結果を翻訳メモリに登録しておくと、後で全く同じまたはほとんど同じ表現があった場合、翻訳メモリから以前の翻訳結果を引き出して、その訳文を再利用することができます。

ここでは、もっとも基本的な名詞をタグにした場合の対訳文の登録手順を説明します。
名詞をタグにした例は、基本操作編の『翻訳メモリを使った翻訳』も合わせて参照してください。
その他の品詞の登録に関しては、『2.4 ユーザー翻訳メモリに対訳文を登録する』を参照してください。



ヒント

以降の説明では、英→日を例にしていますが、日→英の場合は、原文を日本語、訳文を英語にして同様な手順で登録してください。

次の文を翻訳メモリを使わないと以下のように訳されます。

原文

Chapter 3 has more information about this.

翻訳結果

第3章には、これに関する詳細な情報がある。

この場合、次のように翻訳メモリに登録します。

登録する原文

Chapter <\$1=3> has more information about <\$2=this>.

登録する訳文

第<\$1=3>章で、<\$2=これ>について詳しく説明します。

メモ 原文のタグに相応する部分の訳文に、タグをつけます。

次に[翻訳]－[現在の文書設定]－[訳文生成方法]にある「文型一致文検索」チェックボックスをオンにして翻訳を実行すると以下ようになります。

原文1

Chapter 3 has more information about this.

翻訳メモリを使った翻訳結果1

第3章で、これについて詳しく説明します。

また次の例は以下のように翻訳されます。

原文2

Chapter 5 has more information about the major sightseeing spot in Tokyo.

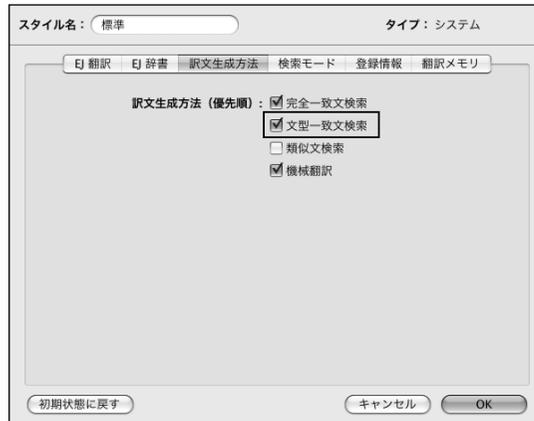
翻訳メモリを使った翻訳結果2

第5章で、東京での大きな観光について詳しく説明します。

対訳文を登録する手順は以下のとおりです。

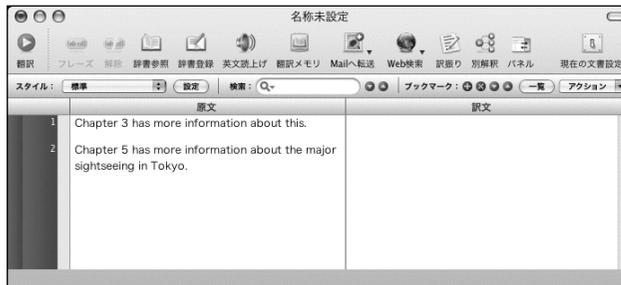
手順

1. ツールバーの〈現在の文書設定〉¹ をクリックして設定ダイアログを表示し、「訳文生成方法」タブをクリックします。
2. 「文型一致文検索」チェックボックスをオンにして、〈OK〉をクリックします。

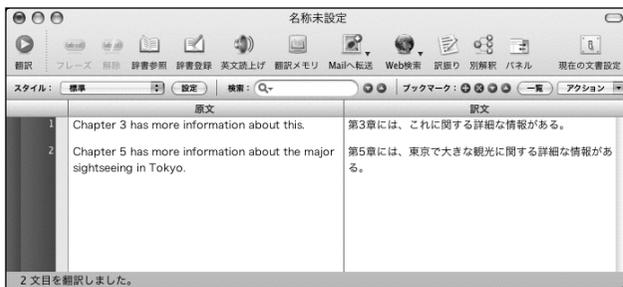


設定が有効になり、翻訳エディタへ戻ります。

3. 翻訳エディタで翻訳メモリに登録する文章を入力します。この例では、"Chapter 3 has more information about this."と入力してreturnを押して、新しい文番号に"Chapter 5 has more information about the major sightseeing spot in Tokyo."と入力します。



4. 各文番号をクリックして一文翻訳を実行します。



直訳なので、前述のようにタグを含んで翻訳メモリに登録します。

5. はじめの例文（ここでは、文番号1）の任意の位置をクリックしてキャレットを置きます。続いてツールバーの〈翻訳メモリ〉をクリックします。

翻訳メモリ画面が表示されて、翻訳エディタのキャレット位置の対訳文が読み込まれます。



ヒント 翻訳メモリ画面でツールバーの〈翻訳〉をクリックすると、「原文」にある文を翻訳します。

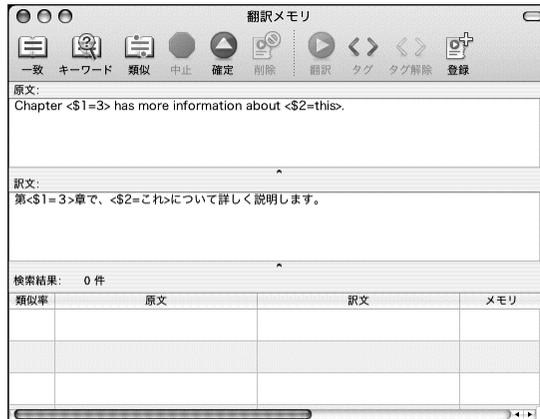
6. 原文にタグを指定します。タグ指定したい語句を選択してツールバーの〈タグ〉をクリックすると、タグで囲まれます。

ここでは、「3」を選択してをクリックして、続いて「this」を選択してをクリックします。

7. 訳文を入力します。

「第3章で、これについて詳しく説明します。」と入力します。

次に、「3」を選択してをクリックして、続いて「これ」を選択してをクリックします。



原文と訳文においてタグの数、タグ名（\$1、\$2など）は1対1で対応しなければなりません。

8. 原文と訳文に正しくタグをつけたら、〈登録〉  をクリックします。

次の画面が表示されます。

登録する対訳文に付加する情報が表示されます。必要であれば、各項目を修正してください。各項目には、現在の文書設定ダイアログの「登録情報」タブで設定している内容が表示されます。

翻訳メモリ

対訳文を登録する翻訳メモリの名称が表示されます。

作成者

対訳文の作成者が表示されます。

登録日時

対訳文を登録した日時が表示されます。

文書名

原文の文書（現在翻訳作業中の文書）の名前が表示されます。

コメント

対訳文の説明を入力できます。

翻訳フラグ

登録する訳文が、機械翻訳かユーザーの翻訳によるものを指定します。

「自動判別」：機械翻訳かユーザーの翻訳かを自動的に判断します。

「機械訳」：登録する訳文が、機械翻訳であることを示します。

「人間訳」：登録する訳文が、ユーザーにより翻訳されたことを示します。

登録情報は、検索結果の付加情報として表示されます。表示例が『2.2.4 対訳文の検索』にあるので参照してください。

9. 各項目を正しく入力して、〈OK〉をクリックします。

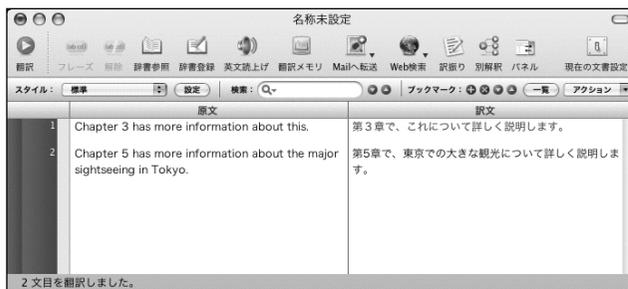
対訳文が登録されます。

メモ タグを含む文を登録した場合、タグを含む対訳文（文型）の登録と、タグを取り除いた対訳文（完全一致文）の登録を同時に行います。自動的に2つの対訳文が、登録されます。

次に、再翻訳を実行します。

10. 翻訳エディタにある各文の文番号をクリックします。

次の翻訳結果が表示されます。



訳文の文字色が変わります。はじめの文は、翻訳メモリに登録されたタグを省いた文に完全に一致しているため「完全一致文検索」の色になります。2番目の文は文型一致しているため、「文型一致文検索」の色になります。

メモ 訳文の色の指定は、[翻訳エディタ EJ(JE)]-[環境設定]-[表示]で行います。



この対訳は、そのまま日→英においても利用できます。翻訳メモリとして同じファイルを指定してください。

文型一致文においてタグの部分は単語の対応の表示と訳語変更が可能です。文番号2においては"5"と"the major sightseeing spot in Tokyo"がタグに相当す

る語句です。

11. たとえば、majorをトリプルクリックします。

次の訳語変更ダイアログが表示されます。



一覧にある訳語をクリックすると翻訳エディタの訳語と置き換わります。

● タグを外す

タグを外すには、タグにキャレットを置き、〈タグ解除〉をクリックするか、または[翻訳メモリ]―[タグ解除]を選択します。
「<\$タグ名=」と「>」が削除されて、元の文字列に戻ります。

2.2.4 対訳文の検索

翻訳メモリペインでは、完全に一致する文の検索、文型が一致する文の検索、原文と同一の語句が含まれる文を検索するキーワード検索、単語の並びが似ている類似文の検索機能があります。また、検索結果の文を翻訳エディタに貼りつけることができます。ここでは、前述の例で登録した文を使って対訳文の検索方法、結果の表示、翻訳エディタへの貼り付けを説明します。

● キーワード検索

前節で登録した例文を使って説明します。

手順

1. 翻訳メモリの"Chapter 3 has more information about this."にキャレットを置いて、〈翻訳メモリ〉をクリックします。

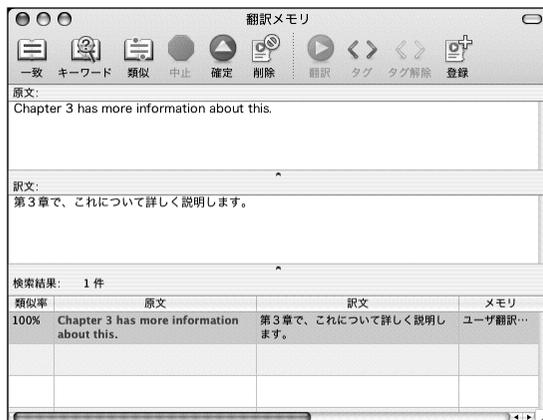
翻訳メモリ画面の原文入力エリアに"Chapter 3 has more information about this."と取り込まれます。

2. 〈キーワード〉をクリックします。

をクリックする、または[翻訳メモリ]―[キーワード検索]を選択すると、「キーワード検索」と「文型一致文検索」をセットにして実行します。まず、「キーワード検索」が実行され、合致する文が見つからなかった場合は、続けて「文型一致文検索」が実行されます。

メモ 設定ダイアログの「検索モード」タブにある「文型一致文検索」チェックボックスがオフの場合は、文型一致文検索は実行されません。初期状態でこのチェックボックスはオンです。

検索結果エリアに次のように表示されます。



この例では、キーワード検索で合致する文が見つかったので、文型一致文検索は実行されませんでした。
 キーワード検索結果では、一致した部分が紫色で表示されます。

● 類似文検索

前節で登録した例文を使って説明します。

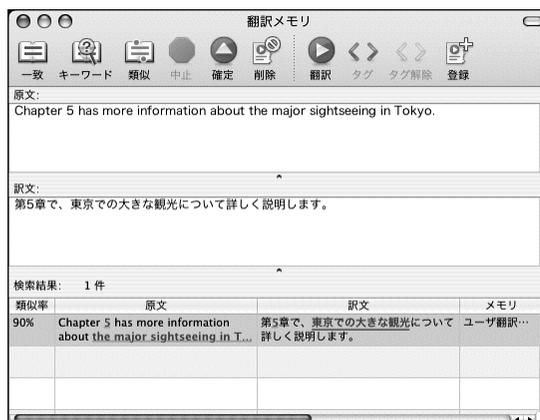
手順

1. 翻訳エディタの"Chapter 5 has more information about the major sightseeing spot in Tokyo."にキャレットを置いて、をクリックします。
 翻訳メモリ画面の原文入力エリアに"Chapter 5 has more information about the major sightseeing spot in Tokyo."と取り込まれます。
2. <類似> をクリックします。

をクリックすると、「文型一致文検索」と「類似文検索」を実行します。

メモ 現在の文書設定ダイアログの「検索モード」タブにある「文型一致文検索」チェックボックスがオフの場合は、文型一致文検索は実行されません。初期状態でこのチェックボックスはオンです。

検索結果表示エリアに次のように表示されます。



類似文検索結果では、不一致な部分が緑色で表示され、下線が引かれます。検索結果は、類似度の高いものから順に表示されます。類似度が同じものは、翻訳メモリ設定ダイアログの「翻訳メモリ」タブと「検索モード」タブの設定に従って変わります。翻訳メモリ設定ダイアログの詳細は、『2.5 翻訳メモリの環境設定』と『2.3 ユーザー翻訳メモリの作成と選択』を参照してください。

メモ 登録情報が一致する対訳文については表示順位は不定です。



ツールバーの〈類似〉をクリックすると、「類似文検索」と「文型一致文検索」が実行されます。メニューの[翻訳メモリ]—[文型一致文検索]を選択すると、文型一致文の検索のみ実行します。メニューの[翻訳メモリ]—[類似文検索]を選択すると、類似文検索のみ実行します。

• 類似検索結果の表示

類似検索において、文型一致文と類似度の高い文は検索結果表示エリアに表示されます。

メモ 単語の並びの一致する部分が高いほど、類似度は高くなります。

検索対象文と登録されている原文を比較して、違う部分は緑色で表示され下線が引かれます。

文型一致文

文型一致文の訳文は、タグの部分を機械翻訳して緑色で表示され下線が引かれます。

類似文

類似文の訳文は、登録されている訳文がそのまま表示されます。

● 検索結果表示エリア

キーワード検索結果では、一致した部分が紫色で表示されます。
 類似文検索結果では、不一致な部分が緑色で表示され、下線が引かれます。
 また、結果は項目ごとに表示されます。

● 表示項目

類似率	原文	訳文	メモリ	登録日時	作成
100%	Chapter 3 has more information about...	第3章で、これについて詳しく説明します。	ユーザ翻訳...	2009/02/0...	CL

「フラグ」とは、登録の際に付加した翻訳フラグで、機械訳はM、人間訳はHと表示されます。登録情報の入力については、『2.2.3 対訳文の登録』を参照してください。

● 表示幅の変更

各項目の境界線の上、マウスポインタが➕に変わったところでドラッグすると境界線が移動して幅を変更できます。

● 検索結果の貼り付け

結果表示エリアにある原文または訳文をダブルクリックすると、原文入力エリア、または、訳文入力エリアにコピーされます。

● 制限

● 無視する語

文中に多く含まれる以下の語は、翻訳メモリの検索では無視されます。

a	the	I	you	this	that	it	they
these	those	be	can	may	must	shall	will
have	do	and	at	as	by	from	for
if	in	of	off	on	or	to	when
with							

● 記号の扱い

原文が英語の場合、記号は、検索時には文字と見なされずに無視されます。
 日本語の場合は、1文字の記号は無視されますが、2文字以上からなる記号は検索対象となります。

- タグに対応した語句の先頭文字について

タグに対応した部分の語句の先頭が以下文字列の場合、文型一致文検索の対象となりません。

半角カンマ+半角スペース (,)

半角セミコロン+半角スペース (;)

全角カンマ (、)

- 文型一致文検索

文型一致文検索では検索結果を表示する際、タグに対応した語句を翻訳します。タグと対応する語句の品詞の違いなどにより翻訳に失敗した場合、タグに対応した語句は翻訳されず、タグ部分に原語のまま表示されます。

2.2.5 ユーザー翻訳メモリの対訳文を一覧表示

翻訳メモリでは、設定しているユーザー翻訳メモリのみの検索を行えます。

原文エリアに「*」（半角または全角）と入力してキーワード検索を実行すると、ユーザー翻訳メモリから対訳文を999件表示します。

2.2.6 検索結果を翻訳エディタへ反映

翻訳メモリ画面にある訳文や検索結果を翻訳エディタに貼りつけることができます。

- 訳文入力エリアから貼り付け

〈確定〉をクリックするか、[翻訳メモリ]—[確定]を選択すると翻訳メモリの原文入力エリアと訳文入力エリアにある対訳文が、翻訳エディタのキャレット位置の対訳文と置き換わります。このとき、原文入力エリアの文と翻訳エディタの原文が異なる場合は、確認メッセージが表示されます。

原文と訳文の両方を置き換える場合は、〈OK〉をクリックします。

訳文のみ置き換える場合は、〈訳文のみ変更〉をクリックします。

〈キャンセル〉をクリックすると何も置き換えずに、翻訳メモリ画面に戻ります。

- 結果表示エリアから貼り付け

検索結果の表示エリアで貼り付けたい訳文または原文をダブルクリックすると、各入力エリアに貼り付きます。続いて〈確定〉ボタンをクリックするか、または、[翻訳メモリ]—[確定]をクリックしてください。以降は、前述の『訳文入力エリアから貼り付け』と同じ手順で文を置き換えてください。

2.2.7 翻訳メモリ画面の操作

● 編集機能

原文入力エリアと訳文入力エリアは、それぞれ、文を入力・修正することができるエディタになっています。以下に編集メニューにあるコマンドを説明します。各コマンドは、キャレットのあるエリア内で実行されます。

[編集]－[カット]は、選択した範囲を切り取って、その内容をクリップボードに保管します。

[編集]－[コピー]は、選択した範囲の内容をクリップボードに保管します。

[編集]－[ペースト]は、クリップボードの内容をキャレット位置に挿入（ペースト）します。「カット」、「コピー」などのコマンドにより、クリップボードにデータが保管されている場合のみ実行することができます。

[編集]－[削除]は、選択した範囲を切り取って、その内容はクリップボードに保管しません。



ヒント

ダブルクリックで英単語を選択できます。

● すべて選択

[編集]－[すべてを選択]は、キャレットのあるエリアの全文を選択します。

選択状態を解除するには、エリア内の任意の場所をクリックします。

2.3 ユーザー翻訳メモリの作成と選択

対訳文の登録は、翻訳作業の効率化に欠かせない作業です。また、いろいろな文書を翻訳していると、分野ごとに異なる複数の翻訳メモリを使い分ける必要が生じてきます。

ここでは、登録用の翻訳メモリ（ユーザー翻訳メモリ）の新規作成、使用する翻訳メモリの設定手順を説明します。

翻訳メモリの新規作成と設定は、[翻訳]－[現在の文書設定]－[翻訳メモリ]で行います。〈現在の文書設定〉をクリックするか、[翻訳]－[現在の文書設定]を選択して、「翻訳メモリ」タブをクリックすると、次のダイアログが表示されます。



初期状態で、使用する翻訳メモリには基本翻訳メモリ、ビジネス翻訳メモリ、科学技術翻訳メモリ、ネットショップ翻訳メモリ、ユーザー翻訳メモリが指定されています。ユーザー翻訳メモリは、初期状態で登録用に設定されたもので、内容は空です（何も登録されていません）。日→英でも、同じファイルが初期設定されています。

MED-TranSer プロフェッショナルの場合

初期状態で、MED-TranSer プロフェッショナルには、医学翻訳メモリとユーザー翻訳メモリが設定されています。

- **翻訳メモリの保存場所**

初期状態で、翻訳メモリは以下の場所に保存されています。

- **MAC-Transer プロフェッショナル**

- 基本翻訳メモリ**

- ライブラリ:Application Support:Cross Language:MAC-TranserV11:Common:dic:sysdb.ty2

- ビジネス翻訳メモリ**

- ライブラリ:Application Support:Cross Language:MAC-TranserV11:Common:dic:bizdb.ty2

- 科学技術翻訳メモリ**

- ライブラリ:Application Support:Cross Language:MAC-TranserV11:Common:dic:techdb.ty2

- ネットショップ翻訳メモリ**

- ライブラリ:Application Support:Cross Language:MAC-TranserV11:Common:dic:netdb.ty2

- マニュアル翻訳メモリ**

- ライブラリ:Application Support:Cross Language:MAC-TranserV11:Common:dic:mandb.ty2

- ユーザー翻訳メモリ**

- ホームフォルダ:Library:Application Support:Cross Language:MAC-TranserV11:Common:user.ty2

- **MED-Transer プロフェッショナル**

初期状態で、翻訳メモリは以下の場所に保存されています。

- 医学翻訳メモリ**

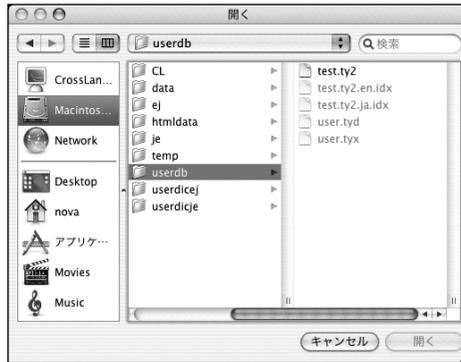
- ライブラリ:Application Support:Cross Language:MED-TranserV11:Common:dic:meddb.ty2

- ユーザー翻訳メモリ**

- ホームフォルダ:Library:Application Support:Cross Language:MED-TranserV11:Common:user.ty2

- 使用する翻訳メモリを選択する

翻訳メモリは、最大10個まで同時に使用できます。
〈開く〉をクリックすると、開くダイアログが表示されます。



開くダイアログが表示されるので、設定したい翻訳メモリをダブルクリックするか、または翻訳メモリを選択して〈開く〉をクリックすると、翻訳メモリが選択されて設定ダイアログに戻ります。



旧バージョンで作成した翻訳メモリ(拡張子 .tyx)を使用するには、翻訳メモリをインポートする必要があります。インポートの手順については『2.6 インポート』を参照してください。

- 翻訳メモリをリストから外す

リストから翻訳メモリを外すには、外す翻訳メモリを選択して、〈解除〉をクリックします。



検索する対訳文がなくなってしまうので、リストにあるすべての翻訳メモリを外すことはできません。必ず1つはリストに残してください。

- 新規にユーザー翻訳メモリを作成する

新しくユーザー翻訳メモリを作成する方法は、以下のとおりです。

手順

1. ダイアログにある〈新規作成〉をクリックします。

次のダイアログが表示されます。



2. 翻訳メモリを作成するフォルダへ移動します。
3. 「名前」に新規作成する翻訳メモリのファイル名を入力します。
4. 〈保存〉をクリックします。

次のダイアログが表示されます。



「ファイル」には、翻訳メモリファイルのある場所がフルパスで表示されています。

5. 「名称」に新規に作成した翻訳メモリの名前を入力します。
初期状態では、ファイル名がそのまま表示されますが、ファイル名とは別にわかりやすい名前を日本語でつけることもできます。
6. 必要であれば、「コメント」に、ユーザー翻訳メモリの内容、分野などの説明文を入力します。
7. 各項目の入力が完了したら 〈OK〉 をクリックします。

元のダイアログに戻り、指定した新規ユーザー翻訳メモリが追加されます。

● 書き込み用ユーザー翻訳メモリを指定する

ユーザー翻訳メモリは、目的に応じて複数作成して使用することができます。ただし、書き込み可能な（登録用）翻訳メモリとして設定できるのは1つだけです。



Transerが提供しているシステム翻訳メモリを書き込み可能な翻訳メモリに指定することはできません。

翻訳メモリ設定ダイアログにユーザー翻訳メモリがない場合は、最初に指定されたユーザー翻訳メモリが、書き込み用のユーザー翻訳メモリに設定されます。書き込み可能なユーザー翻訳メモリを指定するには、目的のユーザー翻訳メモリを選択して、〈登録用〉をクリックします。書き込み用ユーザー翻訳メモリに〈解除〉を実行すると、翻訳メモリはリストから外されるので、対訳文を登録することができなくなります。対訳文の登録を行う場合は、必ず、書き込み用のユーザー翻訳メモリをリストに残してください。

● 翻訳メモリの優先順位を指定する

翻訳メモリリストには、使用する翻訳メモリ名と優先順位が表示されています。翻訳メモリは優先順位の高いものから順番に表示されます。新しく開いた翻訳メモリは、リストの先頭に追加されます。

優先順位を変更するには、翻訳メモリを選択して、次のいずれかのボタンをク

リックします。

〈上へ↑〉 (1つ前へ移動)

〈下へ↓〉 (1つ後ろへ移動)

● 翻訳メモリの名前を変更する

翻訳メモリにファイル名とは異なる名前を付けることができます。翻訳メモリに個別の名前を付けておくと、翻訳メモリを分類するのに便利です。

翻訳メモリの名前を変更する方法は、以下のとおりです。

手順

1. リスト内の翻訳メモリを選択して〈名称変更〉をクリックします。

次のダイアログが表示されます。「ファイル」には、翻訳メモリファイルのある場所がフルパスで表示されています。



2. 「名称」に翻訳メモリの名前を入力します。

初期状態では、ファイル名がそのまま表示されますが、ファイル名とは別にわかりやすい名前を日本語でつけることもできます。

3. 必要であれば、「コメント」に、ユーザー翻訳メモリの内容、分野などの説明文を入力します。

4. 各項目の入力が完了したら〈OK〉をクリックします。

元のダイアログに戻り、変更した名前が表示されます。

2.4 ユーザー翻訳メモリに対訳文を登録する

ここでは、対訳文をひとつずつ登録する手順について説明します。あらかじめ用意しておいた大量の対訳文を一括して登録する手順については、『2.6 インポート』を参照してください。

対訳文の登録では、原文・訳文という分け方をしていますが、登録された対訳文の検索は双方向に行うことができます。

同じ翻訳メモリを英→日と日→英で使用することができます。

初期状態で設定されている「基本翻訳メモリ」、「ビジネス翻訳メモリ」、「科学技術翻訳メモリ」、「ネットショップ翻訳メモリ」、「ユーザー翻訳メモリ」は英→日と日→英で共用されています。

MED-Transer プロフェッショナルの場合

初期状態で、MED-Transer プロフェッショナルには、医学論文によく用いられる表現を登録した「医学翻訳メモリ」と「ユーザー翻訳メモリ」が設定されています。

日→英で「書き込み」と設定して使用中の翻訳メモリに対して、英→日から対訳文の登録を行っても、実際には登録されません。

文を登録する前に、現在の文書設定ダイアログの「翻訳メモリ」で、「書き込み」になっている翻訳メモリがあることを確認してください。



「書き込み」翻訳メモリがないと、対訳文を登録することはできません。



以降の説明では、英→日を例にしていますが、日→英の場合は、原文を日本語、訳文を英語にして同様な手順で登録してください。

2.4.1 対訳文の登録方法

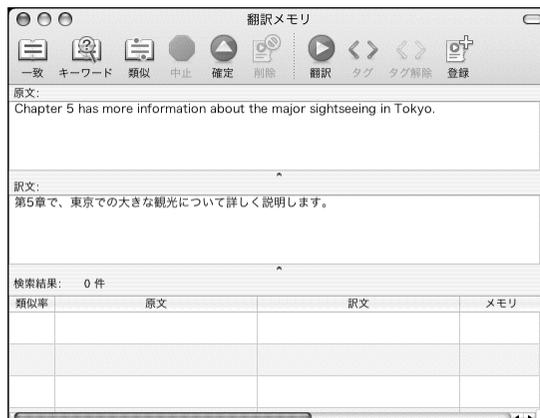
対訳文の登録は次の手順で実行します。

手順

1. ツールバーの〈翻訳メモリ〉をクリックするか、[翻訳メモリ]—[参照/登録ウィンドウ]を選択します。

次の登録画面が表示されます。

このとき、翻訳エディタのキャレット位置の対訳文が原文入力エリアと訳文入力エリアに、自動的にコピーされます。



「原文」（原文入力エリア）、「訳文」（訳文入力エリア）の内容は、修正することができます。

2. 各文を正しく入力したら「登録」をクリックする、または、【翻訳メモリ】-【登録】を選択します。

登録確認画面が表示されます。

必要であれば、各項目を修正してください。各項目には、現在の文書設定ダイアログの「登録情報」タブで設定している内容が表示されます。

翻訳メモリ

対訳文を登録する翻訳メモリの名称が表示されます。

作成者

対訳文の作成者を指定します。

登録日時

対訳文を登録した日時を指定します。

文書名

原文の文書（現在翻訳作業中の文書）の名前です。

コメント

対訳文の説明を入力できます。

翻訳フラグ

登録する訳文が、機械翻訳かユーザーの翻訳によるものかを指定します。

「自動判別」：機械翻訳かユーザーの翻訳かを自動的に判断します。

「機械訳」：登録する訳文が、機械翻訳であることを示します。

「人間訳」：登録する訳文が、ユーザーにより翻訳されたことを示します。

3. 〈OK〉をクリックします。

対訳文が翻訳メモリに登録されます。



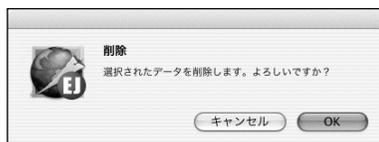
ヒント

現在の文書設定ダイアログの「登録情報」タブで、「登録確認画面を表示しない」チェックボックスをオンにすると、この画面を表示せずに直ちに翻訳メモリに登録されます。

2.4.2 対訳文の削除

結果表示エリアに表示されている対訳文をクリックして選択し、ツールバーの〈削除〉をクリックするか、または[翻訳メモリ]ー[削除]を選択すると、その対訳文は翻訳メモリから削除されます。

削除の対象となる対訳文の全体が自動的に選択され、次のダイアログが表示されます。



〈OK〉をクリックすると、選択された対訳文が翻訳メモリから削除されます。



削除できるのは、書き込み用に設定されている翻訳メモリに登録されている対訳文だけです。

2.4.3 完全一致文の登録

タグを含まない原文と訳文を登録します。

手順

1. 翻訳メモリ画面の原文入力エリアに原文を入力します。

たとえば、次の文を入力します。

Turning now to FIG. 1, there is shown a depiction of the surface topography of a coupling interface.

2. 訳文入力エリアに訳文を入力します。

たとえば、次の文を入力します。

図1に戻ると、結合インタフェースの表層地形学の描写が示されている。

3. ツールバーの〈登録〉をクリックします。

登録確認画面が表示されます。各項目の内容が正しいか確認してください。間違いがあれば、修正します。

4. 〈OK〉をクリックします。

これで、対訳文が登録されました。

2.4.4 文型とタグ

変更可能な部分を「タグ」と呼ばれる記号「<\$タグ名= >」でくくって登録し、文型一致文検索で翻訳に活用することができます。

たとえば、「I ordered 2 copies of your catalogue by fax on October 1.」を機械翻訳すると「私は、10月1日にファックスであなたのカタログの2部を注文した。」となります。これを、「10月1日のファックスで貴社のカタログを2冊注文しました。」と翻訳したい場合、翻訳メモリに登録すれば、簡単に訳を得られます。

また、この文でコピーの部数を示す"2 copies"、通信手段を示す"by fax"、日付を表す"on October 1"などを変更可能にして登録しておけば、日付や通信手段が変わったときにも、変更された部分だけを翻訳して同じ結果を得られます。この例では、以下のように登録します。

【文型登録の例】

原文：I ordered <\$1> copies of your catalogue by <\$通信手段> on <\$DATE>.

訳文：<\$DATE>に<\$通信手段>で貴社のカタログを<\$1>冊注文しました。

以下の原文を翻訳エディタに入力して翻訳します。

【翻訳結果の例】

原文：I ordered three copies of your catalogue by fax on Feb. 1.

訳文：2月1日にファックスで貴社のカタログを3冊注文しました。

メモ 下線の部分がタグです。訳文側ではタグが翻訳されています。



タグを含む文型一致文検索を利用して翻訳する場合は、翻訳エディタの[翻訳]—[現在の文書設定]—[訳文生成方法]で「文型一致文検索」チェックボックスをオンにしてください。

タグ

タグは、次の形をしています。

• もっとも単純なタグ

もっとも単純なタグは、以下の形式です。

<\$1>

<\$2>

<\$3>

画面で<>をクリックしてタグ指定を行うと<\$1>, <\$2>, <\$3> ...とタグ名の整数がひとつずつ増えていき、最大10個まで指定することができます。タグの数とタグ名は、原文と訳文で一致しなければなりません。

• 詳細指定したタグ

タグにいろいろな情報を付加して、翻訳に役立てることができます。

詳細指定したタグは次の形をしています。

<\$タグ名/生成情報=例文>

メモ 「/生成情報」と「=例文」は、省略可能です（省略すると前述したもっとも単純なタグの形になります）。「生成情報」は訳文側のタグにのみ使用できます。<, >, \$, /, =などの記号は半角です。

英→日【原文側のタグの例】	日→英【原文側のタグの例】
<\$1> <\$date=December 25>	<\$1> <\$地名=東京>
英→日【訳文側のタグの例】	日→英【訳文側のタグの例】
<\$name/NP> <\$通信手段/NP=メール>	<\$name/OBJ> <\$place/DEF=Red Sea>

• タグ名

タグ名には、アルファベット、数字、ひらがな、カタカナ、漢字を使用することができます。長さは、「\$=」を含めて64バイト（日本語で32文字）までです。

• 例文

文型を翻訳メモリに登録する場合、タグ名（または生成情報）の後に、=に続けて、タグに合致する例文を記述することができます。

【例】

<\$社名/NP=(株)Cross Language>

• 英→日 生成情報

タグ名の後に続けて、生成情報を記述することができます。生成情報は、訳文側のタグで有効なオプションであり、文型一致した原文をどのように翻訳するかを指定するものです。生成情報は「/」で区切って複数記述することができます。

不要であれば、省略することもできます。
設定可能な生成情報は以下のとおりです。

翻訳モード関連

NOCASE	原文の大文字小文字を区別しないで翻訳する
DESU	訳文の語尾を「です・ます」調にする

メモ 指定がない場合は、翻訳エディタの[翻訳]－[現在の文書設定]－[EJ翻訳]の設定に従います。

翻訳ターゲット

NP	原文を名詞句として訳す
VP	原文を動詞句として訳す
AP	原文を形容詞句として訳す
DP	原文を副詞句として訳す
SE	文末がピリオドでない原文を文として訳す

メモ 指定がない場合は、名詞句として扱います。



ヒント

VPとAPは、次のように、日本語訳語の活用形と送りを指定することができます。

ターゲット:活用形記号 {送り}

活用形記号は、ユーザー辞書登録で使用するものと同じです。

【例】

VP:O{て}

• 日→英 生成情報

タグ名の後に続けて、生成情報を記述することができます。生成情報は、訳文側のタグで有効なオプションであり、文型一致した原文をどのように翻訳するかを指定するものです。生成情報は「/」で区切って複数記述することができます。不要であれば、省略することもできます。
設定可能な生成情報は以下のとおりです。

翻訳ターゲット

• DEFまたはdef	定冠詞を必ず付ける
• NODEFまたはnodef	定冠詞を付けない
• NOINDEFまたはnoindef	不定冠詞を付けない
• NOARTまたはnoart	冠詞を付けない
• PLまたはpl	訳語を複数形にする
• OBJまたはobj	訳語を目的格にする

• タグの対応

原文と訳文においてタグの数とタグ名は一致しなければなりません。一致していない場合、エラーメッセージが表示され、登録できません。

たとえば、以下の例はタグ名が違うので登録できません。

【タグ名が対応していないので登録できない例】

原文：It is another object of this paper to provide <\$何を= the new method>.

訳文：本紙の他の目的は、<\$1=新しい方法>を提供することである。

● 文型（タグを含む文）を登録した場合の登録文

文型の登録で、タグに「=例文」を入れて登録した場合、タグを含む対訳文の登録と、タグを取り除いた対訳文の登録を同時に行います。自動的に2つの対訳文が、登録されます。

たとえば、以下のような文型を登録します。

【文型登録の例】

原文：I ordered <\$1=2> copies of your catalogue by <\$通信手段=fax> on <\$DATE=Feb. 1>.

訳文：<\$DATE=2月1日>に<\$通信手段=ファックス>で貴社のカタログを<\$1=2>冊注文しました。

実際には、完全一致文と文型の2つの対訳文が登録されます。

【完全一致文登録】

原文：I ordered 2 copies of your catalogue by fax on Feb. 1.

訳文：2月1日にファックスで貴社のカタログを2冊注文しました。

メモ タグなしの対訳文が登録される。

【文型登録】

原文：I ordered <\$1> copies of your catalogue by <\$通信手段> on <\$DATE>.

訳文：<\$DATE>に<\$通信手段>で貴社のカタログを<\$1>冊注文しました。

メモ タグ付きの対訳文が登録される。

● タグ指定

原文入力エリアまたは訳文入力エリアで、タグでくくる文字列を選択し、ツールバーの〈タグ指定〉タグをクリックするか、または[翻訳メモリ]—[タグ指定]を選択します。文字列が「<\$= >」でくくられます。

メモ 「タグ指定」でタグ名は、1から10までの数字が使われます。数字は1から始まり、タグ指定することに大きくなり、最後が10になります。「タグ指定」は、最大10個まで指定できます。

● タグ解除

タグでくくった部分を元に戻すには、タグにキャレットを置き、ツールバーの〈タグ解除〉タグ解除をクリックするか、または[翻訳メモリ]—[タグ解除]を選択します。

「<\$タグ名=」と「>」が削除されて、元の文字列に戻ります。

● タグの制限

1つの文型中に、タグは、最高10個までつけることができる

タグを、文中に連続指定して、登録することはできない

【使用できないタグの例】

I order <\$1> <\$2>.

<\$1><\$2>を注文します。

【使用できるタグの例】

I order <\$1> and <\$2>.

<\$1>と<\$2>を注文します。

タグの中に、さらにタグを記述することはできない

【使用できないタグの例】

<\$TAG1=your <\$TAG2>>

<\$TAG1=貴社の<\$TAG2>>

文型一致文検索における制限

【例】

<\$1>, <\$2>

のように、タグをカンマで区切ったものを登録することはできますが、「スペースや句点などの違いを無視する」チェックボックスがオンの場合、このような文型は検索の対象となりません。オフにしておけば、このような文型でも検索の対象になります。

タグにダブルクォーテーションをつけることはできない（英→日のみ）

【使用できないタグの例】

This is called "<\$1>".

タグに括弧をつけることはできない（英→日のみ）

【使用できないタグの例】

This is called (<\$1>).

2.4.5 英→日 名詞をタグにした文の登録

翻訳メモリのもっとも単純な使い方は、名詞をタグにするものです。
次の文を翻訳メモリを使わずに訳すとその下のように訳されます。
原文

In Fig. 1, there is illustrated a position relationship.

翻訳結果

図1に、位置関係は例示される。

意味はありますが、より自然な日本語としてたとえば「…に～が、示されています。」のように翻訳するには、次のように翻訳メモリに登録します。

登録する原文

There is illustrated in <\$1> a <\$2>.

登録する訳文

<\$1>に<\$2>が、示されている。

次に[翻訳]－[現在の文書設定]－[訳文生成方法]にある「文型一致文検索」
チェックボックスをオンにして翻訳を実行すると以下ようになります。

原文

There is illustrated in Fig. 1 a position relationship.

翻訳メモリを使った翻訳結果

図1に位置関係が、示されている。

×モ 下線の部分がタグです。訳文側ではタグが翻訳されています。

2.4.6 英→日 動詞をタグにした文の登録

次の文を翻訳メモリを使わずに訳すとその下のように訳されます。

原文

Waste materials are crushed into pieces.

翻訳結果

廃棄物は、ばらばらに押しつぶされる。

上記のような「be +過去分詞」の受動態を、「～は…される」ではなく「～を…する」と訳すように翻訳メモリに登録します。

登録する原文

<\$もの=Waste materials> are <\$1=crushed> into pieces.

登録する訳文

<\$もの=廃棄物>をこなごなに<\$1/VP:S=押しつぶす>。

登録内容の説明

訳語にある「/VP」はタグが動詞相当語になることを表します。

VPはVerb Phraseの省略形です。

その後の:Sは終止形で接続することを表します。この例の場合、「押しつぶす」と「。」の前に来るので終止形にします。

「S」などの記号については、辞書の活用形の指定と同じで、以下のとおりです。

M 未然形、Y 連用形、S 終止形、T 連体形、K 仮定形、O 音便形

次に[翻訳]－[現在の文書設定]－[訳文生成方法]にある「文型一致文検索」チェックボックスをオンにして翻訳を実行すると以下のようになります。

原文

Empty cans are pushed into pieces.

翻訳メモリを使った翻訳結果

空の缶をこなごなに押した。

メモ 下線の部分がタグです。訳文側ではタグが翻訳されています。

2.4.7 英→日 形容詞をタグにした文の登録

次の文を翻訳メモリを使わずに訳すとその下のように訳されます。

原文

It is natural that he is angry.

翻訳結果

彼が怒っているのは当然である。

翻訳結果では不自然な日本語なので、次のように訳文を修正して翻訳メモリに登録します。

登録する原文

It is <\$1=natural> that he is angry.

登録する訳文

彼が怒るのは<\$1/AP:S=もっともだ>。

登録内容の説明

訳語にある「/AP:S」はこのタグが形容詞相当語になり、終止形となることを表します。

APはAdjective Phraseの省略形です。

その後の:Sは終止形で接続することを表します。この例の場合、「もっともだ」などと「。」の前に来るので終止形にします。

「S」などの記号については、辞書の活用形の指定と同じで、以下のとおりです。

M 未然形、Y 連用形、S 終止形、T 連体形、K 仮定形、O 音便形
S以外によく使うものとしては、Y（連用形）があります。

次に[翻訳]－[現在の文書設定]－[訳文生成方法]にある「文型一致文検索」チェックボックスをオンにして翻訳を実行すると以下のようになります。

原文

It is natural that he is angry.

翻訳メモリを使った翻訳結果

彼が怒るのはもっともだ。

メモ 下線の部分がタグです。

2.4.8 英→日 副詞をタグにした文の登録

次の文を翻訳メモリを使わずに訳すとその下のように訳されます。

原文

The method is described in more detail with the drawings.

翻訳結果

方法は、図面で更に詳細に記述される。

文全体が不自然なので、自然な日本語に修正して次のように翻訳メモリに登録します。

登録する原文

<\$1=The method> is described <\$2=in more detail> with the drawings.

登録する訳文

<\$1=方法>を図面で<\$2/DP=詳細に>記述する。

登録内容の説明

訳語にある「/DP」はタグが副詞相当語になることを表します。

DPはAdverb Phraseの省略形です。

次に[翻訳]－[現在の文書設定]－[訳文生成方法]にある「文型一致文検索」チェックボックスをオンにして翻訳を実行すると以下のようになります。

原文

The process is described in detail with the drawings.

翻訳メモリを使った翻訳結果

プロセスを図面で詳細に記述する。

メモ 下線の部分がタグです。

2.4.9 英→日 節や文をタグにした文の登録

次の文を翻訳メモリを使わずに訳すとその下ののように訳されます。

原文

In addition, there is another device, called the panning device.

翻訳結果

加えて、もう一つの装置がある。そして、パニング装置と呼ばれている。

カンマで囲んだ部分が長い場合は、上記のように「～がある。そして、…と呼ばれる。」としてもいいですが短文の場合は「…と呼ばれる～がある。」とした方が自然です。そこで、次のように翻訳メモリに登録します。

登録する原文

In addition, <\$1=there is another device>, called <\$2=the panning device>.

登録する訳文

加えて、<\$2=パニング装置>と呼ばれる<\$1/SE=他の装置がある>。

登録内容の説明

ここで、訳文にある「/SE」はタグが文節になることを表します。
SEはSentenceの省略形です。

次に[翻訳]－[現在の文書設定]－[訳文生成方法]にある「文型一致文検索」
チェックボックスをオンにして翻訳を実行すると以下ようになります。

原文

In addition, there is one device, called the sound-effect device.

翻訳メモリを使った翻訳結果

加えて、サウンド・エフェクト装置と呼ばれる1台の装置が、ある。

メモ 下線の部分がタグです。訳文側ではタグが翻訳されています。

2.4.10 日→英 生成情報を含む文型の登録

次の文を登録します。

登録する原文

<\$1=ゴム製パッド>を<\$2=穴の内壁>に取り付ける。

登録する訳文

<\$1=A rubber pad> is attached to <\$2=the inner wall of a hole>.

ここで各タグは、冠詞を含んでいますが、生成情報によって、冠詞を付けたり、付けなかったりすることができます。

たとえば、上記の例において、「<\$2=>」で訳出される語句には、必ず、定冠詞を付けるようにするには、次のように登録します。

登録する原文

<\$1=>を<\$2=>に取り付ける。

登録する訳文

<\$1=> is attached to <\$2/DEF=>.

次に翻訳エディタで[翻訳]—[現在の文書設定]—[訳文生成方法]にある「文型一致文検索」をオンにして翻訳を実行すると以下のようになります。

原文

キャップを支持面に取り付ける。

翻訳メモリを使った翻訳結果

A cap is attached to the bearing surface.

メモ 下線の部分がタグで、訳文側ではタグが翻訳されています。<\$2=>に相当する語句には定冠詞がついています。

2.5 翻訳メモリの環境設定

ここでは、翻訳メモリの検索結果表示において検索条件の設定、対訳文の登録における登録情報、翻訳メモリ画面での辞書引きしない単語の設定について説明します。

現在の文書設定ダイアログでは、検索に使用する翻訳メモリの指定、新規作成を行うこともできません。翻訳メモリの設定に関しては、『2.3 ユーザー翻訳メモリの作成と選択』を参照してください。

以下に「翻訳メモリ」グループにある「翻訳メモリ」以外の各カテゴリについて説明します。

2.5.1 訳文生成方法

現在の文書設定ダイアログの「訳文生成方法」タブをクリックすると、次の画面が表示されます。



● 訳文生成方法（優先順）

翻訳メモリを使用した翻訳の検索方法を選択します。

上から順番にチェックボックスがオンになっている検索方法で検索が実行され、最初に見つかった検索結果が訳文として採用されます。

初期状態では、「完全一致文検索」と「機械翻訳」がオンになっています。翻訳エディタで翻訳を実行すると、「完全一致文検索」が実行され、最初に見つかった検索結果が訳文として採用されます。完全に一致する文が見つからなかった場合、「機械翻訳」が実行されます。検索方法は、以下のとおりです。

MED-TranSer プロフェッショナルの場合

初期状態で、MED-TranSer プロフェッショナルでは、「完全一致文検索」、「文型一致文検索」、「機械翻訳」チェックボックスがオンになっています。

完全一致文検索
文型一致文検索
類似文検索
機械翻訳

翻訳メモリで「完全一致文検索」を実行する
翻訳メモリで「文型一致文検索」を実行する
翻訳メモリで「類似文検索」を実行する
翻訳メモリを利用せずに翻訳する



翻訳メモリに登録した原文がタグを含まない場合、「文型一致文検索」では検索されません。このような場合は、「完全一致文検索」または「類似文検索」を実行してください。

● 翻訳メモリの色指定

翻訳を実行した訳文が、翻訳メモリ検索の結果なのか、機械翻訳による結果なのかを、訳文の色で判断することができます。訳文の色は、完全一致文検索、文型一致文検索、類似文検索のそれぞれで異なる色が設定されています。色の設定は次の手順で変更します。

手順

1. 【翻訳エディタ EJ(JE)】—【環境設定】—【表示】を選択します。

表示ダイアログが表示されます。



2. 色を変更する項目の横にある矩形をクリックします。

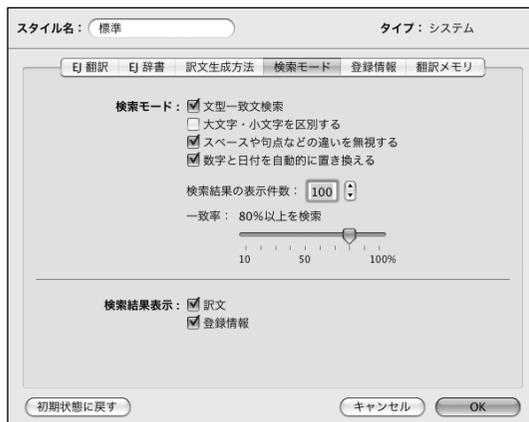
カラーパネルが表示されます。

3. 色を指定します。

カラーパネルは使用しているシステムにより内容が異なる場合があります。設定内容の詳細は、Mac OS XのMacヘルプの該当する項を参照してください。

2.5.2 検索モード

現在の文書設定ダイアログの「検索モード」タブをクリックすると、次の画面が表示されます。



● 検索モード

「検索モード」では、検索方法や検索範囲を変化させることができます。

● 文型一致文検索

このチェックボックスがオンの場合、ツールバーの〈一致〉、〈キーワード〉または〈類似〉をクリックしたときに、「文型一致文検索」も実行されます。「キーワード検索」では、まず、「キーワード検索」を実行し、原文の語句がすべて含まれる文を検索します。そのような文が見つからない場合、続けて「文型一致文検索」を実行します。

ツールバーの〈類似〉では、「類似文検索」と「文型一致文検索」の両方が実行され、両方の結果を合わせて、類似度の高いものから順に結果を表示します。オフにすると、「一致」、「キーワード」、「類似」で、「文型一致文検索」は実行されません。

● 大文字・小文字を区別する

半角（1バイト文字）のアルファベットの検索方法を指定します。

このチェックボックスがオンの場合、半角（1バイト文字）のアルファベットの大文字、小文字の違いを区別します。オフの場合は、違いを無視して検索します。全角（2バイト文字）のアルファベットについては、必ず、大文字、小文字を違う文字として検索します。



このオプションは、「完全一致文検索」、「類似文検索」、「文型一致文検索」で使用できます。

• スペースや句点などの違いを無視する

検索対象文が英文の場合

以下のものを無視して検索します。

単語間のスペースの数の違い

単語間のカンマ(,)、ハイフン(-)、コロン(:)、セミコロン(;))

文末のピリオド(.)、感嘆符(!)、疑問符(?)

検索対象文が和文の場合

以下のものを無視して検索します。

文中のスペース

文中の句読点(、。)、半角と全角のカンマ(，，)、半角のハイフン(-)、半角のコロン(:)、半角のセミコロン(;)、全角の長音(ー)、中黒(・)

文末の句点(。)、全角・半角ピリオド(. .)、感嘆符(!)、疑問符(?)



このオプションは、「完全一致文検索」、「類似文検索」、「文型一致文検索」で使用できます。

メモ 英文の「類似文検索」においては、必ずこの項目のチェックボックスがオンに設定されているものとして検索します。

• 数字と日付を自動的に置き換える

検索対象文と、検索結果の原文との間で、次のように、数字や日付が異なる場合は、検索結果の原文の数字や日付を、検索対象文の対応する数字や日付で置き換え、さらにそれを訳文にも反映させます。

英→日の場合

"2 copies"と"3 copies"または、"\$1000"と"\$10,000"のように、数字が違う

"September 30"と"October 2"のように、日付が違う

"Sep. 30"、"Oct. 2"のような省略文字にも適用されます。

日→英の場合

「1冊」と「2冊」、または「1000円」と「10,000円」のように、数字が違う

「9月30日」と「10月2日」のように、日付が違う



このオプションは、「類似文検索」でのみ使用できます。

メモ この機能は、漢数字およびone, twoなどのアルファベットで綴ったものに対しては適用されません。



数字と日付以外にも異なる部分がある場合は、置き換えは行われません。対訳文の原文と訳文との間の数字の対応付けは、表面的な文字列

の一致で行われています。たとえば、「10人が10個を注文した」のように、同じ数字が複数存在する場合は、原文と訳文との間の数字の対応付けができなくなり、数字の置き換えも行われません。

訳文の数字や日付は、表面的に文字列を置き換えているだけです。また、「1 copy」を「2 copies」のように単語の活用語尾を変化させることはできません。

- 検索結果の表示件数

表示する検索結果の数を変更できます。初期状態では100です。検索結果が、ここで指定した数よりも少ない場合は、検索された数だけ表示されます。

- 一致率

このオプションでは、「一致率」のつまみを左右に動かして類似文検索の範囲を調節します。

パーセンテージが10に近づくほど、類似度をチェックする対訳文の数が増えます。検索の漏れは少なくなります。速度は遅くなります。

パーセンテージが100に近づくほど、類似度をチェックする対訳文の数が減ります。検索速度は速くなりますが、検索に多少の漏れが出る可能性があります。

メモ 完全一致文検索および文型一致文検索では、つねに、全対訳文をチェックします。

- 検索結果表示

検索結果としてどのようなデータを表示するかを指定します。

- 訳文

このチェックボックスがオンの場合、検索結果の訳文が検索結果表示エリアに表示されます。

オフだと、訳文は表示されません。

- 登録情報

このチェックボックスがオンの場合、検索結果の付加情報が検索結果表示エリアに表示されます。

オフだと、付加情報は表示されません。

2.5.3 登録情報

現在の文書設定ダイアログの「登録情報」タブをクリックすると、次の画面が表示されます。

ここで設定する内容は、ツールバーの〈登録〉をクリックすると表示される登録確認画面に反映されます。設定した内容は、登録確認画面で、一時的に変更することもできます。

- 作成者

対訳文の作成者を指定します。
「自動」チェックボックスがオンの場合、ご使用のコンピュータに設定されている所有者の名前が使われます。「自動」チェックボックスをオフにすると、任意の作成者名を入力できます。

- 登録日時

対訳文を登録するときの日時を指定します。
「自動」チェックボックスがオンだと、ご使用のコンピュータに設定されている日時が表示されます。「自動」チェックボックスをオフにすると、任意の日時を入力できます。

- 文書名

「自動」チェックボックスがオンだと、原文を取りこんできた文書（現在翻訳作業中の文書）の名前が表示されます。「自動」チェックボックスをオフにすると、任意の文書名を入力することもできます。

- コメント

登録する対訳文にコメントが必要な場合に入力します。

● 翻訳フラグ

• 自動判別

このラジオボタンがオンの場合、登録した訳文が機械翻訳か人間の翻訳かを自動的に判別します。

• 機械訳

登録した訳文が機械翻訳であることを登録情報に付加します。

• 人間訳

登録した訳文が人間の翻訳であることを登録情報に付加します。

● 登録確認画面を表示しない

このチェックボックスがオンの場合、原文と訳文を入力してツールバーの〈登録〉をクリックしたとき、登録確認画面を表示せずに登録を実行します。オフだと登録の際、登録確認画面を表示します。

● 文書を閉じる時にロックされている文を登録する

このチェックボックスがオンの場合、翻訳エディタを閉じる際、ロックのかかっている文を完全一致文としてユーザー翻訳メモリに登録します。

2.6 インポート

既に翻訳済みのマニュアルなどから作成した対訳文をテキスト形式のファイルで保存している場合、それを翻訳メモリに一括登録することができます。ファイルを翻訳メモリに一括登録することを、「インポート」といいます。

2.6.1 インポートできるファイルの種類

インポートできるファイルには次の5種類があります。

Transerの対訳ファイル (対訳).txt

TSV形式ファイル (***.txt, excelなどの表計算ソフトで作成される)

翻訳メモリファイル (***.ty2)

旧翻訳メモリファイル (***.tyd)

翻訳メモリntm形式ファイル (***.ntm)

翻訳メモリファイル以外は、すべてテキストファイルなので、エディタやワープロソフトなどで簡単に対訳文の追加や修正を行えます。

以下に各ファイルについて説明します。

● Transerの対訳ファイル

翻訳エディタで[ファイル]ー[テキスト出力]ー[対訳テキスト]を選択して作成した「対訳ファイル」です。ファイル名には、通常「(対訳)」が付加されます。

Transer 対訳ファイルの例

--/H

I ordered 2 copies of your catalogue by fax on October 2.

10月2日にファックスで貴社のカタログを2冊注文しました。

● TSV形式ファイル

各行に、原文と訳文をTABコードで区切って保存したファイルです。原文テキストファイルと訳文テキストファイルが別々にあるような場合は、たとえばExcelなどの表計算ソフトを使用して、カラムAに原文を、カラムBに訳文を読み込み、TSV形式でファイルを保存すると作成できます。拡張子は .tsvです。

TSV形式ファイルの例

I ordered 2 copies of your catalogue by fax on October 2.<TAB>¥

10月2日にファックスで貴社のカタログを2冊注文しました。

なお、ここでは、¥で改行されていますが、実際には1行に記述します。

● 翻訳メモリファイル

翻訳メモリ画面で登録して作成した翻訳メモリファイルで、拡張子は .ty2 です。翻訳メモリファイルをインポート元に指定すると、複数の翻訳メモリを1つのファイルにまとめる（マージする）ことができます。

● 旧翻訳メモリファイル

旧バージョンで作成された翻訳メモリファイルで、拡張子は .tyd の場合があります。このファイルを Transer の翻訳メモリファイルとして使うには、インポートが必要です。

● 翻訳メモリ ntm 形式ファイル

翻訳メモリの内容を以下のような ntm テキスト形式に変換したファイルです。ファイル名には、ntm という拡張子を付けてください。ntm 形式の詳細は、『2.6.5 ntm 形式ファイル』を参照してください。

ntm 形式ファイルの例

```
<NovaTMData>
<Description>test</Description>
<Original>I ordered 2 copies of your catalogue by fax on October 2.</Original>
<Translation>10月2日にファックスで貴社のカタログを2冊注文しました。
</Translation>
<Information>2010/2/1 12:00:00 %% CrossLanguage %% H %% E %% J %% 注
文書 %% </Information>
</NovaTMData>
```

2.6.2 翻訳メモリに一括登録する（インポートの手順）

あらかじめ作成したテキスト形式の対訳文ファイルを翻訳メモリに一括で登録することができます。手順は以下のとおりです。

手順

1. [翻訳メモリ]—[インポート]を選択します。

インポートダイアログが表示されます。



2. インポート元のファイルを指定します。「インポートするファイル」の横にある〈開く〉をクリックします。

開くダイアログが表示されます。インポート元となるファイルを選択し、〈開く〉をクリックします。インポート元のファイルが指定されます。

3. インポート先のファイルを指定します。
既存の翻訳メモリに追加登録する場合

「翻訳メモリー一覧」でインポート先にするファイルをクリックして選択してください。

新規翻訳メモリを作成する場合

〈新規〉をクリックします。ダイアログが表示されるので、「名前」に新規作成するファイル名を入力し〈保存〉をクリックします。次に、翻訳メモリダイアログが表示されます。「名称」に翻訳メモリの名前を入力して、〈OK〉をクリックします。



ヒント

インポート先に既存の翻訳メモリを指定した場合、インポート元の対訳文が追加されます。

インポート先に新規ファイルを指定した場合、新規に翻訳メモリを作成することができます。新規作成した翻訳メモリは現在の文書設定ダイアログの「翻訳メモリ」タブに追加されます。



ヒント

「翻訳メモリー一覧」には、現在の文書設定ダイアログの「翻訳メモリ」タブで設定されている翻訳メモリが表示されます。

4. 〈実行〉をクリックします。

インポートが開始されます。〈キャンセル〉をクリックすると、インポートは行われず、翻訳エディタに戻ります。

終了すると完了したというメッセージが表示されます。

5. <OK> をクリックします。

インポートダイアログが閉じて、翻訳エディタに戻ります。

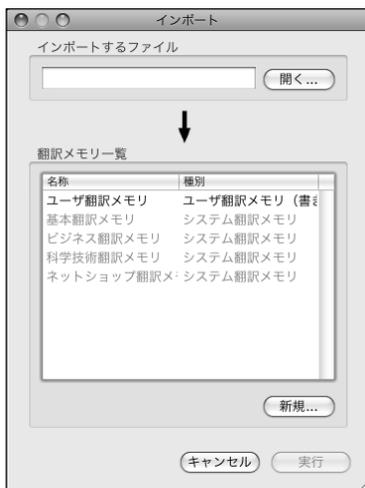
2.6.3 翻訳メモリのマージ

既にある複数の翻訳メモリをひとつにまとめることができます。これを翻訳メモリを「マージする」といいます。翻訳メモリのマージはインポート元に既存の翻訳メモリを指定することで行えます。手順は以下のとおりです。

手順

1. [翻訳メモリ]—[インポート]を選択します。

インポートダイアログが表示されます。



2. インポート元のファイルを指定します。「インポートするファイル」の横にある<開く>をクリックします。

開くダイアログが表示されます。インポート元となるファイルを選択し、<開く>をクリックします。インポート元のファイルが指定されます。



ここで、既存の翻訳メモリを指定します。

3. インポート先のファイルを指定します。「翻訳メモリ一覧」でインポート先にするファイルをクリックして選択してください。



「翻訳メモリ一覧」には、現在の文書設定ダイアログの「翻訳メモリ」タブで設定されている翻訳メモリが表示されます。

4. <実行> をクリックします。

インポートが開始されます。〈キャンセル〉をクリックすると、インポートは行われず、翻訳エディタに戻ります。
終了すると完了したというメッセージが表示されます。

5. 〈OK〉をクリックします。

インポートダイアログが閉じて、翻訳エディタに戻ります。

2.6.4 翻訳エディタにある文章を一括で登録する

翻訳エディタにある文章を一括でユーザー翻訳メモリに登録することができます。

まず、翻訳エディタで登録する対訳文を作成し、ロックをかけた文章を一括で登録することができます。



あらかじめ「書き込み」翻訳メモリを設定してください。

手順は以下のとおりです。

手順

1. 翻訳エディタにテキストファイルを読み込んで翻訳し対訳文を作成します。

翻訳作業は、全文翻訳、訳語変更、ユーザー辞書の更新などを使用して、また、訳文を直接編集して、行ってください。

2. 登録する文にロックをかけます。特定の文にロックをかけるには、文番号の前へマウスポインタを移動し、マウスポインタが矢印から鍵の形  に変わったところでクリックします。

すべての文章にロックをかける場合は、[編集]－[すべてを選択]を選択し、[翻訳]－[ロック]を選択します。

3. [翻訳メモリ]－[ロック文を登録]を選択します。

次のダイアログが表示されます。



〈登録〉をクリックすると、一文ずつの登録を行えます。

〈すべて登録〉をクリックすると、確認をせずにロックのかかっているすべての文を登録します。

〈登録しない〉をクリックすると、対訳文の登録を行わずに次のロック文にキャレットを移動します。確認しながら登録する場合は、〈登録〉と〈登録しない〉を併せて使ってください。



ヒント

ロックのかかった文は完全一致文としてユーザー翻訳メモリに登録されます。

● 文書を閉じる時にロックされている文を登録する

文書を閉じる際に、ロックされている文を翻訳メモリに登録することができます。



あらかじめ「書き込み」翻訳メモリを設定してください。

手順は以下のとおりです。

手順

1. ツールバーの  をクリックして、現在の文書設定ダイアログを表示します。
2. 「登録情報」タブをクリックします。
登録情報設定ダイアログが表示されます。
3. 「文書を閉じる時にロックされている文を登録する」チェックボックスをオンにします。



4. 現在の文書設定ダイアログの下部にある〈OK〉をクリックします。
現在の文書設定ダイアログが閉じて、変更した設定が有効になります。
5. 翻訳エディタにテキストファイルを読み込んで、翻訳します。
翻訳作業は、全文翻訳、訳語変更、ユーザー辞書の更新などを使用して、または、訳文を直接編集して行ってください。
6. 登録する文にロックをかけます。特定の文にロックをかけるには、文番号の前にマウスポインタを移動し、マウスポインタが矢印から鍵の形  に変わったところでクリックします。
すべての文章にロックをかける場合は、[編集]—[すべてを選択]を選択し、[翻訳]—[ロック]を選択します。
7. 文書を閉じます。翻訳エディタの左上にあるクローズボタンをクリックするか、または、[ファイル]—[閉じる]を選択します。

閉じる前に保存するか確認するメッセージが表示されるので、必要であれば保存してください。

8. 翻訳メモリに登録ダイアログが表示されるので、〈すべて登録〉をクリックします。

翻訳エディタが閉じるのと同時にロックのかかった文章がユーザー翻訳メモリに登録されます。



ヒント ロックのかかった文は完全一致文としてユーザー翻訳メモリに登録されます。

2.6.5 ntm形式ファイル

翻訳メモリのntm形式ファイルのフォーマットは以下のとおりです。

```
<NovaTMData>
<Description>翻訳メモリ名称</Description>
<Original> 原文 </Original>
<Translation> 訳文 </Translation>
<Information> 付加情報 </Information>
上記3つのデータの繰り返し
</NovaTMData>
```

「付加情報」のフォーマットは以下のとおりです。

```
登録日時 %% 登録者名 %% 翻訳フラグ %% 文書名 %% 原文言語 %%
訳文言語 %% コメント
登録日時:          yyyy/mm/dd hh:mm:ss
登録者名:          任意の文字列
翻訳フラグ:       /H (人間訳) / M (機械訳)
原文言語:         E (英語) / J (日本語)
訳文言語:         E (英語) / J (日本語)
コメント:         任意の文字列
```

ntm形式ファイルの例：

```
<NovaTMData>
<Description>Order_form</Description>
<Original>I ordered 2 copies of your catalogue by fax on October 2.
</Original>
<Translation>10月2日にファックスで貴社のカタログを2冊注文しました。
</Translation>
<Information>2010/2/1 12:00:00 %% CrossLanguage %% H %% 注文書 %%
E %% J %% </Information>
</NovaTMData>
```

2.7 エクスポート

作成した翻訳メモリを、テキストファイルに書き出すことができます。この操作を「エクスポート」といいます。翻訳メモリをエクスポートすると、エディタやワープロソフトなどで簡単に対訳文の追加や修正を行えます。追加・修正したファイルをインポートして新しい翻訳メモリとして使用できます。大規模な翻訳メモリのメンテナンスは、テキスト形式ファイルをソースファイルとして作業することをお勧めします。

2.7.1 エクスポートできるファイル形式

エクスポート先となるテキストファイルには次の3種類があります。

TSV形式ファイル (*.txt, excelなどの表計算ソフトで作成される)

翻訳メモリntm形式ファイル (*.ntm)

Transerの対訳ファイル (対訳)

ntm形式ファイルでエクスポートすると、対訳文の登録で付加した登録情報も書き出されます。TSV形式ファイルでエクスポートすると、各行に原文と訳文とをTABコードで区切って保存します。Transerの対訳ファイルでエクスポートした場合、登録情報は書き出されません。必要に応じてエクスポートするファイル形式を選択してください。

● TSV形式ファイル

各行に、原文と訳文とをTABコードで区切って保存します。たとえばexcelなどの表計算ソフトを使用して編集することができます。

TSV形式ファイルの例

10月2日にファックスで貴社のカタログを2冊注文しました。<TAB>¥

I ordered 2 copies of your catalogue by fax on October 2.

ここでは、¥で改行されていますが、実際には1行に記述します。

● ntm形式ファイル

翻訳メモリの内容をそのままテキスト形式に変換したファイルです。通常、ファイル名の拡張子は、.ntmです。ntm形式の詳細は、『2.6.5 ntm形式ファイル』を参照してください。

翻訳メモリ画面で対話的に登録を行った場合、登録情報を確認するには、ntm形式ファイルでエクスポートしてください。

ntm形式ファイルの例

```
<NovaTMDData>
<Description>テスト用翻訳メモリ</Description>
<Original>I ordered <$1> copies of your catalogue by <$通信手段> on
<$DATE>.</Original>
<Translation><$DATE>に<$通信手段>で貴社のカタログを<$1>冊注文しま
した。</Translation>
<Information>2010/2/1 12:00:00 %% CrossLanguage %% H %% 注文書 %%
E %% J %%</Information>
<Original>It is <$1=natural> that he is angry.</Original>
<Translation><彼が怒るのも<$1/AP:S{}>ももっともだ。</Translation>
<Information>2010/2/1 12:00:00 %% CrossLanguage %% H %% 手紙文 %%
E %% J %%</Information>
<Original>It is <$1=natural> that <$2=he is angry>.</Original>
<Translation><$2/SE=彼が怒る>のも<$1/AP:S{}>ももっともだ。</Translation>
<Information>2010/2/1 12:00:00 %% CrossLanguage %% H %% 手紙文 %%
E %% J %%</Information>
</NovaTMDData>
```

● Transerの対訳ファイル

Transerの対訳ファイルです。ファイル名に「(対訳)」が付加されています。翻訳メモリの内容のうち、原文・訳文と翻訳フラグのみが出力されます。対訳ファイルの作成方法は、『4.2.2 テキスト出力』を参照してください。

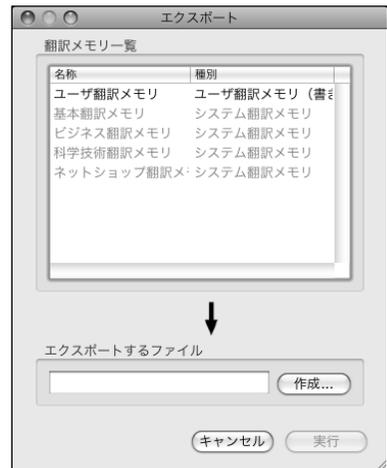
2.7.2 翻訳メモリの内容を書き出す（エクスポートの手順）

翻訳メモリファイルをテキスト形式のファイルに書き出すことができます。手順は以下のとおりです。

手順

1. 【翻訳メモリ】-【エクスポート】を選択します。

エクスポートダイアログが表示されます。



2. エクスポート元のファイルを指定します。「翻訳メモリー覧」には、設定されている翻訳メモリが表示されています。エクスポート元にするファイルをクリックして選択してください。



「翻訳メモリー覧」には、現在の文書設定ダイアログの「翻訳メモリ」タブで設定されている翻訳メモリが表示されません。

3. エクスポート先のファイルを指定します。「エクスポートするファイル」の横にある〈作成〉をクリックします。
開くダイアログが表示されます。
4. 翻訳メモリの内容を書き出すファイル名を入力します。
適切なファイル名を入力してください。
5. 出力形式を指定します。初期状態では、「NTM」となっています。
出力形式を変更するには、◆をクリックし、表示される形式の一覧から適切なものを選択します。
6. 〈作成〉をクリックします。
エクスポートダイアログに戻り、指定したファイルが設定されます。
7. 〈実行〉をクリックします。
エクスポートが開始されます。〈キャンセル〉をクリックすると、エクスポートは行われず、翻訳エディタに戻ります。
終了すると完了したというメッセージが表示されます。
8. 〈OK〉をクリックします。
エクスポートダイアログが閉じて、翻訳エディタに戻ります。

第 3 章 辞書の活用

この章の内容

TranSerでは、基本語辞書のほかに専門語辞書とユーザー辞書などを使用して翻訳ができます。辞書を活用することにより、翻訳精度を向上させることができます。

この章では、翻訳に使用する辞書の設定方法、ユーザー辞書の構築方法などを説明します。

3.1 辞書の構成

Transterでは、以下の辞書を使用することができます。

辞書の種類	説明
基本語辞書	翻訳の標準となる辞書 <ul style="list-style-type: none"> • MAC-Transterの場合 英→日：124万語 日→英：203万語 • MED-Transterの場合 英→日：142万語 日→英：217万語
ユーザー辞書	ユーザー自身が必要に応じて作成する辞書 1辞書につき10万語まで登録可能。必要に応じて単語とその意味を登録します。
専門語辞書	専門分野別に専門用語を収録
医学用専門語辞書 MED-Transterのみ	医学用文献の訳質および翻訳効率アップを図るため付属している医学用専門語辞書
ステッドマン辞書 MED-Transterのみ	専門語辞書である「ステッドマン専門語辞書」と「ステッドマン略語専門語辞書」、また、参照用の「ステッドマン医学大辞典」と「ステッドマン医学略語辞典」（英→日）が付属しています。
MED-Transter用辞書	MED-Transter プロフェッショナルには参照用辞書として「南山堂医学英和辞典」（英→日）と「研究社医学英和辞典」（英→日）が付属しています。また、これらの辞書は英→日および日→英用専門語辞書としても提供されています。
外部辞書	翻訳では使用されず、参照用に提供されている辞書です。辞書ペインの「外部辞書」タブで参照することができます。

● 基本語辞書

基本語辞書は翻訳の際に、標準で 사용되는辞書です。日常的に使われる単語や用語のほとんどがこの辞書に収録されています。この辞書に対する、単語の追加や削除はできません。

メモ ただし英→日の場合、現在の文書設定ダイアログの「訳の指定」で助動詞に対して「<<辞書の訳>>」以外の項目を選択すると、助動詞can, willなどを助動詞以外の品詞（canを「缶詰にする」、willを「遺言」など）としては解釈しないようにできます。詳しくは、『5.1.2.2 訳の指定』を参照してください。

● ユーザー辞書

ユーザー辞書は、基本語辞書や専門語辞書に登録されていない単語や、登録されていても、希望する訳語がない単語を登録する場合に利用します。

ユーザー辞書を使うことにより、訳文を改善することができます。分野によって様々な用語や表現が使われるため、翻訳システムの実用的な運用にはユーザー辞書の構築が重要です。ユーザー辞書の作成方法には、Transer内部のウィンドウを使って、対話的に単語を登録していく方法と、ワープロやエディタを使って、テキスト形式のファイルに単語と意味を書いていき、Transerで一括して登録して利用する方法があります。

ユーザー辞書の作成方法には、辞書登録ダイアログを使って単語を登録する方法と、ワープロやExcelを使ってテキストファイルに単語と意味を入力して、Transerで一括して登録する方法があります。翻訳作業中に逐次、語句を登録する場合は、辞書登録ダイアログから登録すると便利です。すでに見出し語と訳語のリストが作成されていたり、大量の語句を登録する場合は、テキストファイル（ソース形式）を使った一括登録の方が便利です。

辞書登録ダイアログからの登録については、英→日の場合は『3.7 英→日用ユーザー辞書に単語を登録する』、日→英の場合は『3.8 日→英用ユーザー辞書に単語を登録する』、テキストファイルを使った一括登録については、『3.9.3 一括登録』で詳しく説明しています。

● 専門語辞書

専門語辞書は、分野別に専門用語を収録した辞書です。対象の文書に応じて必要な分野の専門語辞書を指定することにより翻訳結果をよくすることができます。現在の文書設定ダイアログの「EJ(JE)辞書」タブをクリックすると表示されるダイアログで使用する辞書を選択します。専門語辞書の設定方法に関しては、『3.6 専門語辞書の設定』を参照してください。

専門辞書とユーザー辞書は、合わせて最大10個まで、同時に使用できます。製品により添付される専門語辞書は、異なります。

● 英→日 医学用専門語辞書 MED-Transterのみ

5分野に細分化した医療・医学関連専門語辞書と歯学専門語辞書が添付されています。分野と語数は以下のとおりです。

分野	語数	分野
基礎医学	英日：3.0万語 日英：8.6万語	内科・代謝疾患・循環器・心血管 血液リンパ系・婦人科・産科・小児科
臨床医学	英日：2.1万語 日英：2.1万語	外科（整形外科・形成外科など）・皮膚 泌尿器・解剖
感覚器	英日：1.2万語 日英：1.2万語	眼科・耳鼻咽喉科・歯科・口腔外科 アレルギー・呼吸器
精神医学	英日：1.2万語 日英：1.0万語	神経・精神・脳・放射線・麻酔
公衆衛生	英日：1.5万語 日英：1.6万語	衛生学・公衆衛生・法医学・看護・福祉 医療機器・細菌・免疫・寄生虫・感染症
歯学	英日：0.9万語 日英：0.7万語	歯科解剖学、歯疾患、歯科治療、義歯
薬学	英日：2.6万語 日英：2.2万語	薬学全般

専門語辞書に対する、単語の追加や削除はできません。医学用専門語辞書の設定方法に関しては、『3.6 専門語辞書の設定』を参照してください。

専門辞書とユーザー辞書は、合わせて最大10個まで、同時に使用できます。

● ステッドマン翻訳専門語辞書 MED-Transterのみ

MED-Transterには、医学辞書の権威である「ステッドマン医学大辞典」を翻訳辞書化した「ステッドマン専門語辞書」と、「ステッドマン医学略語辞典」（英→日）を翻訳辞書化した「ステッドマン略語専門語辞書」が付属しています。これらは、専門語辞書として使用できます。

辞書	EJ語数	JE語数
ステッドマン専門語辞書	8.6万語	9.5万語
ステッドマン略語専門語辞書	2万語	2万語

● MED-Transer プロフェッショナル用専門語辞書

MED-Transer プロフェッショナルには、「南山堂医学英和辞典」（英→日）を翻訳辞書化した「南山堂医学専門語辞書」と「研究社医学英和辞典」（英→日）を翻訳辞書化した「研究社医学専門語辞書」が付属しています。

英→日用

辞書	EJ語数
南山堂医学英和専門語辞書	20.5万語
研究社医学英和専門語辞書	14.8万語

日→英用

辞書	JE語数
南山堂医学英和（逆引き）専門語辞書	20.6万語
研究社医学英和（逆引き）専門語辞書	16.3万語

● 外部辞書

外部辞書（電子辞書コンテンツ）は、翻訳には使われない、参照するためのだけの辞書です。一般的な辞書の形式で、意味だけでなく例文なども書かれています。

MAC-Transer搭載の外部辞書

- ・研究社 新英和中辞典 第7版
- ・研究社 新和英中辞典 第5版
- ・研究社リーダーズ英和辞典 第2版
- ・研究社リーダーズ・プラス

MED-Transer搭載の外部辞書

- ・ステッドマン医学英和大辞典 第6版
- ・ステッドマン医学略語辞典
- ・南山堂 医学英和大辞典 第12版
- ・研究社 医学英和辞典 第2版
- ・研究社 新英和中辞典 第7版
- ・研究社 新和英中辞典 第5版
- ・研究社リーダーズ英和辞典 第2版

3.2 翻訳辞書の参照

辞書参照は、基本語辞書、専門語辞書、ユーザー辞書に登録されている単語の意味や品詞などを表示する機能です。辞書の内容は、辞書ペインの「辞書参照」タブに表示されます。



ツールバーの「辞書参照」をクリックすると、パネルが表示されます。

ヒント

見出し語ボックス



見出し語は以下の方法で入力できます。

翻訳エディタでダブルクリックして文字列を選択する

「見出し語」にキーボードから見出し語を直接入力して〈参照〉をクリックする

辞書参照したい文字列を選択して[単語]－[辞書参照]を選択する

● 辞書参照の操作方法

辞書参照の操作方法は、以下のとおりです。

【例】「take」の参照

手順

1. 辞書ペインで「辞書参照」タブをクリックします。
2. 「見出し語」に、たとえば"take"と入力します。
3. returnキーを押すか、または〈参照〉をクリックします。

[翻訳]－[現在の文書設定]－[EJ(JE)辞書]で設定したすべての辞書に登録されている品詞、意味が表示されます。



テキストボックスの右端の▼をクリックすると、参照した単語の履歴が表示されます。



履歴にある語句をクリックすると、その語句を見出し語として辞書参照が実行されます。

履歴には、「見出し語」にキーボードから直接入力して辞書参照を行った語句が保存されます。翻訳エディタでダブルクリックやコマンドキー+Vでコピーして「見出し語」に語句を入力して辞書参照を行った場合、履歴には保存されません。また履歴は、翻訳エディタごとに保存されます。

● 英→日 辞書の見かた

基本語辞書、専門語辞書、ユーザー辞書のいずれの訳語にも、簡易登録されているものと詳細登録されているものがあります。

- ・ 簡易登録 見出し語に対し、訳語だけ登録する
- ・ 詳細登録 見出し語に対し、訳語だけでなく、意味素性（その単語がどのような意味合いを持つかを表す属性）や前後に続く語句などを登録する

ここでは、詳細登録した単語の参照について説明します。

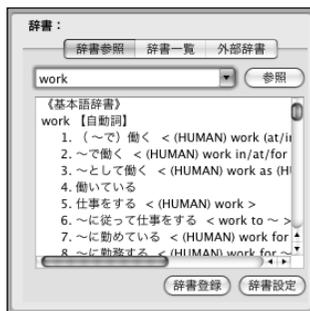
【例】「work」の参照

手順

1. 「見出し語」に"work"と入力します。
2. 〈参照〉をクリックします。

次のウィンドウに、辞書内容が、次の順序で表示されます。

（訳語に係る助詞）訳語 〈見出し語の用法〉



具体的には、次のようになります。

【名詞】の訳語「5. (～の) 研究 < on ～>」では、"work"が名詞として使われ、それに続く前置詞が"on"の場合、「～の研究」と訳されます。

例文：Work on the new translation system will begin in June.

訳文：新しい翻訳システムの研究は、6月に開始する。

【自動詞】の訳語「7. ～で働く < (HUMAN) work in/at/for ~>」では、"work"が動詞として使われ、主語の意味素性が人間（HUMAN）でworkに続く前置詞がin, at, forの場合、「働く」と訳されます。

例文：Mary worked at a restaurant.

訳文：メアリーは、レストランで働いた。

● 翻訳に使用する辞書の一覧表示

辞書ペインの「辞書一覧」タブでは、翻訳で使用している辞書を確認できます。「辞書一覧」タブをクリックすると次のダイアログが表示されます。



上記の例では、「ユーザー辞書」、「コンピュータ専門語辞書」、「基本語辞書」が使用されています。



「辞書一覧」タブにある〈辞書設定〉をクリックすると、辞書設定ダイアログが表示されます。

3.3 外部辞書

辞書ペインの「外部辞書」タブでは、「研究社 新英和／和英中辞典」と「リーダーズ辞典」など参照用辞書の辞書引きを行えます。



● 外部辞書選択ボックス

外部辞書選択ボックスで参照する辞書を指定します。

「自動選択」を選択した場合、インストールされているすべての外部辞書が参照の対象となります。

初期状態のままTranserのインストールを実行した場合、以下の辞典が外部辞書として組み込まれます。

- 新英和中辞典 第7版
- 新和英中辞典 第5版
- （英和）リーダーズ
- （和英）リーダーズ
- （英和）リーダーズプラス
- （和英）リーダーズプラス

● MED-Transerの場合

MED-Transerでは、以下の辞書を参照することができます。

- 新英和中辞典 第7版
- 新和英中辞典 第5版
- （英和）ステッドマン医学大辞典 第6版
- （和英）ステッドマン医学大辞典 第6版
- （英和）ステッドマン医学略語辞典
- （英和）研究社医学英和辞典 第2版
- （英和）南山堂医学英和辞典 第12版

● 読み上げ

指定した見出し語に発音データがある場合、をクリックすると語句を読み上げます。

3.4 未知語検索機能

「未知語検索」機能は、翻訳用に設定した辞書のいずれにも登録されていない単語を検索する機能です。検索した未知語を修正したり、ユーザー辞書に登録することもできます。「ステップ検索」は、開いた文書内の未知語を1つずつ検索し、反転表示します。「一括検出」は、開いた文書内のすべての未知語をリストにして表示します。

3.4.1 ステップ検索

未知語のステップ検索は、キャレットのある位置から文書の下方向に向かって行われます。翻訳を始める前に未知語をユーザー辞書へ登録しておく、翻訳作業を円滑に進めることができます。

ステップ検索の手順は、以下のとおりです。

手順

1. 未知語をユーザー辞書に登録する場合は、あらかじめ【翻訳】－【現在の文書設定】－【EJ(JE)辞書】でユーザー辞書を設定します。
2. ステップ検索を開始する文の先頭にキャレットを置きます。
3. 【編集】－【未知語検索】－【ステップ検索】を選択します。



このコマンドはキャレットが原文エリアにある場合に選択できます。

未知語検索が開始されます。未知語があると、未知語が反転表示され、未知語検索ダイアログが表示されます。



「未知語」に検索された未知語が表示されています。

4. 次の未知語の検索を開始する場合は、〈次を検索〉をクリックします。検索された未知語をユーザー辞書に登録する場合は、〈辞書登録〉をクリックします。
5. 「未知語」の内容を修正して、〈置換〉をクリックすると、翻訳エディタの未知語と置き換わります。

未知語がない場合は、ステータスバーに未知語検索が終了したというメッセージが表示されます。

● 箇条書きの場合

英→日では、属性が箇条書きの文で、翻訳設定の「大文字を小文字にして訳す」がオフ（初期状態）の場合、かつ文の先頭の文字が大文字で辞書登録されていない場合、未知語として扱われます。たとえば、"2. He took a bath."の文で"He"は未知語になりますが、"3. I took a bath."の"I"は未知語になりません。

また、翻訳設定で「大文字を小文字にして訳す」チェックボックスがオフの場合、大文字で辞書登録されていない語句は、未知語となります。

たとえば、"MAY I HAVE A CUP OF TEA."の文で、MAY, HAVEは未知語になります。

● 連語の扱い

英→日では、翻訳設定の「合成語を分割して訳す」チェックボックスがオンの場合、2つ以上の単語がつながって1語を構成する連は、辞書設定にしたがって連語に含まれる各単語が翻訳されます。

しかし未知語検索では、「合成語を分割して訳す」の設定に関わらず連語自体が1語として登録されていないと未知語として扱います。

たとえば、chloronitroanilineという語は、chloroとnitroとanilineの化学式の連語で、翻訳すると「クロロ・ニトロ・アニリン」と訳出されますが、未知語検索では、未知語として扱われます。

3.4.2 一括検出

翻訳を始める前に未知語リストを作成して、未知語をユーザー辞書に登録しておく、翻訳作業を円滑に進めることができます。

手順は、以下のとおりです。

手順

1. **【翻訳】**－**【翻訳設定】**－**【辞書】**で翻訳に使う辞書を設定します。
2. **【編集】**－**【未知語検索】**－**【一括検出】**を選択します。

未知語一括検出ダイアログが表示されます。



3. 〈検出〉をクリックします。

未知語の一括検出が実行され、検出された未知語がリストに表示されます。



ヒント 箇条書きや連語の扱いは、ステップ検索と同様です。

● 辞書登録

未知語をユーザー辞書に登録することができます。

未知語リストにある語句を選択して〈辞書登録〉をクリックすると、選択した語句を見出し語として辞書登録ダイアログが表示されるので、訳語を登録します。ユーザー辞書登録の詳細は、英→日の場合は『3.7 英→日用ユーザー辞書に単語を登録する』、日→英の場合は『3.8 日→英用ユーザー辞書に単語を登録する』を参照してください。

● ジャンプ

未知語にカーレットを移動することができます。

未知語リストにある語句を選択して〈ジャンプ〉をクリックすると、選択した語句のある文に移動し、未知語は反転表示されます。

3.5 ユーザー辞書の作成と選択

Transterには基本語辞書が搭載されていますが、必要に応じて専門用語を登録したり、訳語を追加してユーザー辞書を構築することは、翻訳精度を高めるのに非常に効果的です。

Transterでは、使用するユーザー辞書と専門語辞書を選択したり、その優先順位を指定することができます。辞書の設定は、「スタイル」に保存されます。スタイルについては、『5.1 翻訳に関する設定』を参照してください。

[翻訳] - [現在の文書設定] を選択するか、ツールバーの〈現在の文書設定〉現在の文書設定 をクリックして、「EJ(JE)辞書」タブをクリックすると、次のダイアログが表示されます。



初期状態では、基本語辞書と登録用の「ユーザー辞書」が設定されています。

MED-Transterの場合

英→日の場合、初期状態では、医学5分野の専門語辞書、基本語辞書、「ユーザー辞書」という登録用のユーザー辞書が設定されています。

日→英では、医療医学専門語辞書、基本語辞書、「ユーザー辞書」という登録用のユーザー辞書が設定されています。

● 使用する辞書を選択する

Transerでは、専門語辞書を含めて最大10個までのユーザー辞書を同時に使用できます。

「EJ(JE)辞書」タブには、選択可能な辞書のリストが表示されます。

専門語辞書をインストールした場合は、専門語辞書名が表示されます。

辞書名のチェックボックスをオンにすると、使用する辞書として設定されます。

逆に、オフにすると使用辞書から外されます。



辞書設定リストに既に11個（基本語辞書＋その他の辞書10個）の辞書のチェックボックスがオンになっている場合、それ以上の辞書は選択できません。

チェックボックスのオン／オフを設定して〈OK〉をクリックすると、辞書の設定が完了します。



この例では、「ユーザー辞書」と「コンピュータ専門語辞書」を設定しました。



基本語辞書のチェックボックスをオフにすることはできません。

● 新規にユーザー辞書を作成する

新しくユーザー辞書を作成する方法は、以下のとおりです。

手順▶ 1. 〈新規ユーザー辞書〉をクリックします。

辞書リストの一番上に、新規にユーザー辞書が登録用のユーザー辞書として追加されます。

3.5 ユーザー辞書の作成と選択



2. ユーザー辞書の名前を変更するには、辞書名をダブルクリックして、辞書の名称を入力します。たとえば、「辞書名」に「test用」と入力します。



3. 〈OK〉をクリックします。

新規ユーザー辞書が追加され、翻訳エディタに戻ります。

初期状態でユーザー辞書は、以下の場所に作成されます。

英→日のユーザー辞書

ホームフォルダ:Library:Application Support:Cross Language
:MAC-TranserV11(MAC-TranserV11):EJフォルダ、

日→英のユーザー辞書は、

ホームフォルダ:Library:Application Support:Cross Language
:MAC-TranserV11(MAC-TranserV11):JEフォルダ

- 書き込み可能なユーザー辞書を指定する

ユーザー辞書は、目的に応じて複数作成して使用することができます。ただし、書き込み可能な辞書（登録用辞書）として指定できるのは1つだけです。



専門語辞書や基本語辞書を書き込み可能な辞書に指定することはできません。

新規にユーザー辞書を作成した場合、その辞書が書き込み可能なユーザー辞書に設定されます。書き込み可能なユーザー辞書を変更するには、目的のユーザー辞書を選択して、〈書き込み辞書〉をクリックします。

● ユーザー辞書を削除する

ユーザー辞書を削除するには、削除したいユーザー辞書を選択して、〈削除〉をクリックします。確認のダイアログが表示されるので、〈OK〉をクリックすると、選択したユーザー辞書がゴミ箱に移動します。〈OK〉をクリックして、辞書設定ダイアログを閉じます。



専門語辞書や基本語辞書を削除することはできません。

ユーザー辞書の削除後、「ゴミ箱を空にする」を実行すると、ユーザー辞書を復元することができなくなるので、注意してください。

削除したユーザー辞書の復元

削除したユーザー辞書を復元する場合は、ゴミ箱にあるユーザー辞書を下記のフォルダに移動してください。

英→日の場合

ホームフォルダ:Library:Application Support:Cross Language
:MAC-TranserV11(MAC-TranserV11):EJフォルダ

日→英の場合

ホームフォルダ:Library:Application Support:Cross Language
:MAC-TranserV11(MAC-TranserV11):JEフォルダ

ユーザー辞書のファイル構成については、英→日は『4.2.6 英→日が作成するファイル』を、日→英は『4.2.7 日→英が作成するファイル』を参照してください。

● 辞書の優先順位を指定する

辞書は優先順位の高いものから並べられます。

優先順位を変更するには、辞書名（実線）をマウスでドラッグして、移動先の位置でマウスボタンを離します。



辞書の優先順位は、チェックボックスがオンになっている辞書にのみ有効です。

● 辞書の優先順位の意味

辞書リストには、使用する辞書名と優先順位が表示されています。辞書は優先順位の高いものから順番に表示されます。辞書の優先順位は、翻訳時の訳語の選択に影響を与えます。ここでは、「コンピュータ専門語辞書」、「ユーザー辞書」、「基本語辞書」の順に設定されていて、ユーザー辞書にaccess speedの訳語を「アクセスの速さ」と登録した場合で説明します。

次の単語を翻訳します。

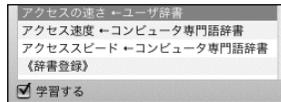
原文：access speed

翻訳結果：アクセスの速さ

翻訳に使われる訳語の優先順位と訳語変更ダイアログに表示される訳語の順番

上記の翻訳でaccess speedは「アクセスの速さ」と翻訳されました。「アクセスの速さ」はユーザー辞書に登録されている訳語です。辞書設定では、専門語辞書を優先順位の一番に設定したのに、ユーザー辞書の訳語が採用されました。

それは、個々の訳語に優先順位が付けられているからです。access speedをトリプルクリックすると、次の訳語変更ダイアログが表示されます。



このダイアログからもわかるように、「アクセス速度」、「アクセススピード」がコンピュータ専門語辞書の訳語です。

基本語辞書と専門語辞書は、追加・更新することはできませんが、これらの辞書の訳語には、個々に優先順位が付けられています。翻訳システムでは、構文解析、辞書、訳語の優先順位によって訳出を行っています。ユーザー辞書は追加・更新することはできますが、訳語に優先順位を付けることはできません。ユーザー辞書の訳語には、自動的に最も高い優先順位が付けられます。

この例のように、コンピュータ辞書にあるaccess speedの訳語に付けられている優先順位が低いと、ユーザー辞書の訳語が訳出されます。

訳語変更ダイアログでは、先頭に翻訳で使用した訳語が、以降順番に「EJ(JE)辞書」タブで設定されている辞書の訳語が表示されます。

● 辞書の表示色

辞書ごとに表示色を指定できます。翻訳は、構文を解析して、文法ルールを参照し、辞書設定ダイアログで設定された辞書を使用して実行されます。使用辞書を複数設定した場合、翻訳結果の訳語がどの辞書からの出典なのか一目了然です。辞書の表示色で指定した色が、翻訳結果の訳語の色に反映されます。表示色の変更方法は、以下のとおりです。

手順

1. 色を変更する辞書名の前にある矩形をクリックします。

カラーパネルが表示されるので、色を指定します。このダイアログは使用しているシステムにより、内容が異なる場合があります。設定内容の詳細は、Mac OS XのMacヘルプの該当する項を参照してください。



ヒント 表示色によっては、文字が見づらくなる場合があります。他の辞書の表示色と明確に区別できる色、また、文字がかすれないような鮮明な色を指定してください。

また、辞書名の前にある矩形を他の矩形へドラッグ&ドロップすることにより、ドロップ先の矩形の色がドロップ元の矩形色に変更されます。

● 訳語を学習する

このチェックボックスがオンの場合、訳語変更ダイアログの「学習する」チェックボックスがオンになり、変更した訳語の学習情報は保持されます。

オフの場合は、訳語変更と品詞変更は学習されません。

3.6 専門語辞書の設定

Transterでは、基本語辞書の他にユーザー辞書と専門語辞書を合わせて10個まで選択して、翻訳を行うことができます。

専門語辞書には、分野別に専門用語が収録されているので、翻訳の精度を高めるのに効果的です。

ここでは、専門語辞書の設定方法を説明します。



ヒント 専門語辞書を設定するためには、あらかじめ専門語辞書をインストールする必要があります。専門語辞書のインストールに関しては、『導入ガイド』を参照してください。

3.6.1 辞書設定ダイアログから指定する

- 手順** 1. [翻訳]—[現在の文書設定]を選択して「EJ(JE)辞書」タブをクリックします。
次のダイアログが表示されます。



ダイアログには、選択可能な辞書のリストが表示されます。

2. 使用する辞書のチェックボックスをオンにします。
逆に、チェックボックスをオフにすると、使用辞書から外されます。



この例では、「ユーザ辞書」と「コンピュータ専門語辞書」を設定しました。

3. チェックボックスのオン/オフを設定して〈OK〉をクリックします。

これで、専門語辞書が設定されました。

辞書の優先順位などについては、『3.5 ユーザー辞書の作成と選択』の該当する部分を参照してください。

3.6.2 英→日 専門語辞書の優先順位

英→日の基本語辞書では、使用頻度の高い語句（たとえば、rest, wind, roundなど）に対して、高い優先順位が付与されています。そのため辞書リストで、専門語辞書が基本語辞書より上位に設定されていても、基本語辞書の訳語が第一訳として採用されることがあります。これは、使用頻度の高い語句を専門用語として扱うと、翻訳精度が下がることが多いためです。基本語辞書より優先させたい場合は、専門語辞書の訳語を学習させてください。

3.7 英→日用ユーザー辞書に単語を登録する

「辞書登録」は、ユーザー辞書への単語の登録や削除を行う機能です。ユーザー辞書への登録方法には、基本語辞書・専門語辞書と同様に、簡易登録と詳細登録があります。

簡易登録	見出し語に対し、訳語だけ登録する
詳細登録	見出し語に対し、訳語だけでなく、意味素性（その単語がどのような意味合いを持つかを表す属性）や前後に続く語句などを登録する

これらを登録するには、辞書登録ダイアログを使う方法と、辞書ツールの「一括登録」機能を使う方法があります。いずれも辞書ソース（所定のフォーマットで登録内容を記述したテキスト）を作成してから登録します。辞書ソースの書式に関しては、アプリケーション:MAC-Transer V11(MED-Transer V11):EJ辞書記述フォルダのindex.htmlを参照してください。



辞書登録ダイアログを使うと、各ボックスに見出し語、訳語などの情報を入力するだけで、自動的に辞書ソースが作成されるため、辞書ソースを特に意識する必要はありません。

ここでは、辞書登録ダイアログを使ったユーザー辞書への登録の方法を説明します。「一括登録」機能の詳細は、『3.9.3 一括登録』を参照してください。

3.7.1 辞書登録ダイアログ

辞書登録ダイアログでは、簡易登録も詳細登録もできます。品詞によっては簡易登録しかないものもあります。ここでは、辞書登録ダイアログでの基本的な登録方法を説明します。辞書登録の手順は、以下のとおりです。

手順

1. 翻訳エディタで登録する単語を選択します。
2. [単語]－[辞書登録]を選択するか、ツールバーの〈辞書登録〉をクリックします。

次のダイアログが表示されます。

3.7 英→日用ユーザー辞書に単語を登録する



3. 必要に応じて、各項目を入力します。

● 辞書登録ダイアログ

見出し語

見出し語を入力します。見出し語は半角で100文字まで入力できます。（複合語の場合はスペースも含まれます。）半角カタカナを入力することはできません。



翻訳エディタで、登録したい単語をダブルクリックして選択してから[単語]→[辞書登録]を選択すると、その単語が自動的に「見出し語」に入力されます。

直接、文字を入力することもできます。動詞、名詞など変化形のある単語は原形あるいは単数形を入力してください。ただし、名詞の複数形の訳を特別な意味で登録したい場合は複数形を入力します。



見出し語に以下の制御コードを含むことはできません。

¥], ¥[, ¥], ¥{, ¥}

訳語

訳語を入力します。訳語は全角で50文字まで入力できます。訳語にはスペースと半角カタカナを入力することはできません。

品詞

品詞を選択します。右側の◆をクリックすると品詞の一覧が表示されるので、適切な品詞を選択します。



登録できる品詞は名詞、動詞、形容詞、副詞、従属接続詞、前置詞、単位です。従属接続詞とは"and"や"or"などの等位接続詞ではない普通の接続詞("after"、"before"など)です。助動詞など、一覧に表示されていない品詞の登録はできません。

活用形

名詞の複数形、動詞の過去形、過去分詞、三単現、進行形などを入力します。選択した品詞に従って、必要な入力ボックスが表示されます。必要に応じて過去形などの活用形を入力します。動詞は、過去形、過去分詞、三単現（三人称・単数・現在形の活用）、進行形（～ingの形）を入力します。活用形のない単語の場合は、何も入力しないでください。（自動的に表示された場合は削除してください。）



ヒント 見出し語、訳語の順で入力し、品詞を選択すると、システムが活用形を推定して表示します。推定が間違っている場合は、正しい活用形に修正してください。

参照

「見出し語」の内容を変更すると、〈参照〉を使用できるようになります。〈参照〉をクリックすると、辞書登録の内容が訳語リストボックスに表示されます。連続して辞書登録を行うような場合、見出し語を入力して〈参照〉をクリックすると「品詞」を選択できるようになります。

登録

〈登録〉をクリックすると、その単語がユーザー辞書に登録され、訳語リストボックスに表示されます。辞書登録ダイアログは閉じないので、続けて辞書登録を行うことができます。

削除

〈削除〉をクリックすると、「見出し語」の単語がユーザー辞書から削除されます。



いったんユーザー辞書から削除すると、復元することはできません。

先頭に追加

このチェックボックスがオンの場合、登録した訳語は訳語リストの先頭に追加されます。

オフの場合、訳語はリストの最後に追加されます。翻訳では、訳語リストの先頭訳語を第一訳として訳出するので、最適な訳を先頭にします。また、訳出頻度の低い訳語はオフにして登録し、リストの最後に追加するようにします。

詳細登録

辞書登録ダイアログにある〈簡易登録〉または〈詳細登録〉をクリックすると登録ダイアログが切り替わります。

〈詳細登録〉をクリックするとダイアログが下方に広がり、詳細登録モードになります。詳細登録に関しては、後述する各品詞の登録を参照してください。

閉じる

〈閉じる〉または、クローズボタンをクリックすると、翻訳エディタに戻ります。辞書登録ダイアログに表示されている内容を登録せずにクローズボタンをクリックすると、編集途中の内容は破棄されます。登録する場合は、〈登録〉をクリックしてからクローズボタンをクリックします。



専門語辞書と基本語辞書には、単語の追加や修正はできません。

● 既に登録した訳語を修正するー〈訳置換〉

「訳置換」は、登録されている訳語を修正する機能です。訳語リスト内で、修正したい訳語を選択すると、各ボックスに登録内容が表示されます。



訳語を修正して〈訳置換〉をクリックすると、修正内容が登録されます。「訳置換」は、同一品詞で訳語を変更する場合に使用します。同じ見出し語に対して異なる品詞の訳語を登録する場合には、訳置換は行えません。

● 登録した訳語を削除するー〈訳削除〉

見出し語に対して訳語を登録すると、〈訳削除〉を選択できるようになります。削除したい訳語を訳語リスト内で選択すると登録内容が各ボックスに表示され

るので、〈訳削除〉をクリックします。訳語がユーザー辞書から削除されます。

3.7.2 詳細登録モード

〈詳細登録〉をクリックするとダイアログが下方に広がり、詳細登録モードになります。たとえば、「名詞+前置詞句」の登録のダイアログは次のようになります。



詳細登録を行う場合は、あらかじめ〈詳細登録〉をクリックして、詳細登録モードにしておくと便利です。

● 登録 内容

辞書登録ダイアログの各項目の設定に従って辞書ソースが表示されます。辞書ソースに関する詳細は、アプリケーション:MAC-TranSer V11(MED-TranSer V11):EJ辞書記述 フォルダのindex.htmlを参照してください。

3.7.3 名詞の登録

名詞は、見出し語、訳語のみの簡易登録のほか、意味素性の指定や詳細登録を行うことができます。意味素性は5つまで指定することができます。



名詞の詳細登録（「名詞＋前置詞句」などの登録）を行う場合、「見出し語」には名詞のみを入力してください。詳細部分（「前置詞句」など）は、登録ダイアログ下部の詳細登録部分に入力します。

● 名詞の簡易登録

【例】「demonstration」を「デモ」と登録する



1. 「見出し語」に"demonstration"と入力します。
2. 「訳語」に「デモ」と入力します。

3. 〈登録〉をクリックします。

単語が登録されます。

複数形は推定されて入力されますが、間違っている場合は修正します。



複数形を空欄にすると、単複同形として登録されます。

名詞の登録では、以下の詳細登録を行うことができます。

訳語に意味素性を指定して登録

名詞＋前置詞句で登録

名詞＋to不定詞句で登録

訳語に否定の意味を持たせる登録

詳細登録の手順については、アプリケーション:MAC-Transer V11(MED-Transer V11)フォルダにある「辞書詳細登録の手引き.pdf」を参照してください。

3.7.4 動詞の登録

動詞は、見出し語、訳語のほかに、詳細登録を行うことができます。



動詞の詳細登録（「動詞+前置詞句」「動詞+to 不定詞句」などの登録）を行う場合、「見出し語」には動詞のみを入力してください。詳細部分（「前置詞句」「to 不定詞句」など）は、登録ダイアログ下部の詳細登録部分に入力します。

● 動詞の簡易登録

簡易登録したものは、自動詞および目的語の助詞に「を」を持つ他動詞として登録されます。

【例】「operate」を「手術する」と登録する

手順

1. 「見出し語」に「operate」と入力します。
2. 「訳語」に「手術する」と入力します。
3. 「品詞」をクリックして、「動詞」を選択します。

4. 「登録」をクリックします。

単語が登録されます。

過去形、過去分詞、進行形、三単現は推定され入力されますが、間違っている場合は、各項目をクリックして修正します。

● 動詞の詳細登録

動詞の登録では、以下の詳細登録を行うことができます。

- 動詞+目的語で登録
- 動詞+前置詞句で登録
- 動詞+副詞で登録
- 動詞+副詞+前置詞句で登録
- 動詞+名詞補語で登録
- 動詞+形容詞補語で登録

動詞＋間接目的語＋直接目的語で登録

動詞＋目的語＋前置詞句で登録

動詞＋副詞＋目的語で登録

動詞＋目的語＋名詞補語で登録

動詞＋目的語＋分詞補語で登録

動詞＋目的語＋形容詞補語で登録

動詞＋目的語＋that節で登録

動詞＋目的語＋to不定詞句で登録

動詞＋that節で登録

動詞＋to不定詞句で登録

動詞＋動名詞で登録

動詞＋疑問節で登録

英文が受け身の時の訳語を指定

詳細登録の手順については、アプリケーション:MAC-Transer V11(MED-Transer V11)フォルダにある「辞書詳細登録の手引き.pdf」を参照してください。

3.7.5 形容詞の登録

形容詞は、見出し語、訳語のほかに、意味素性の指定や詳細登録を行うことができます。意味素性は5つまで指定することができます。



形容詞の詳細登録（「形容詞＋前置詞句」「形容詞＋to 不定詞句」などの登録）を行う場合、「見出し語」には形容詞のみを入力してください。詳細部分（「前置詞句」、「to 不定詞句」など）は、登録ダイアログ下部の詳細部分に入力します。

● 形容詞の簡易登録

【例】「object oriented」を「オブジェクト指向の」と登録する

手順

1. 「見出し語」に"object oriented"と入力します。
2. 「訳語」に「オブジェクト指向の」と入力します。
3. 「品詞」をクリックして、「形容詞」を選択します。
4. 活用形は空欄のままにします。



5. 〈登録〉をクリックします。

内容が登録されます。

規則活用の場合、比較級、最上級は推定され入力されますが、不規則活用の場合は、各項目をクリックして修正します。活用形がない場合は、空欄にしてください。



beautifulやimportantなど、活用形にmore、mostがつく単語の場合は、比較級・最上級ともに空欄にしてください。

● 形容詞の詳細登録

形容詞の登録では、以下の詳細登録を行うことができます。

形容詞＋前置詞句で登録

形容詞＋to不定詞で登録

形容詞＋名詞で登録

形容詞＋動名詞で登録

形容詞＋that節で登録

形容詞＋疑問節で登録

訳語に否定の意味を含めて登録

詳細登録の手順については、アプリケーション:MAC-Transer V11(MED-Transer V11)フォルダにある「辞書詳細登録の手引き.pdf」を参照してください。

3.7.6 副詞の登録

副詞は、見出し語、訳語のほかに詳細登録を行うことができます。

● 副詞の簡易登録

【例】「in the early morning」を「朝早く」と登録する

手順

1. 「見出し語」に「in the early morning」と入力します。
2. 「訳語」に「朝早く」と入力します。
3. 「品詞」をクリックして、「副詞」を選択します。
4. 活用形は空欄にします。

5. 「登録」をクリックします。

内容が登録されます。

例文：I got up in the early morning.

結果：私は、朝早く起きた。

規則活用の場合、比較級、最上級は推定され入力されますが、不規則活用の場合は、各項目をクリックして修正します。



beautifulやimportantなど、活用形にmore、mostがつく単語の場合は、比較級・最上級ともに空欄にしてください。

●

● 副詞の詳細登録

副詞の登録では、以下の詳細登録を行うことができます。

訳語に否定の意味を含めて登録

詳細登録の手順については、アプリケーション:MAC-Transer V11(MED-Transer V11)フォルダにある「辞書詳細登録の手引き.pdf」を参照してください。

3.7.7 従属接続詞の登録

従属接続詞は、見出し語、訳語を入力して登録します。詳細登録はありません。

● 従属接続詞の簡易登録

【例】「though」を「～だが」と登録する

手順

1. 「見出し語」に"though"と入力します。
2. 「訳語」に「が」と入力します。
3. 「品詞」をクリックして、「従属接続詞」を選択します。



4. 〈登録〉をクリックします。

内容が登録されます。

例文：They went out though it was raining.

結果：雨が降っていたが、彼らは出かけた。

3.7.8 前置詞の登録

前置詞は、見出し語、訳語のほかに詳細登録を行うことができます。

● 前置詞の簡易登録

【例】「during」を「の間」と登録する

手順

1. 「見出し語」に"during"と入力します。
2. 「訳語」に「の間」と入力します。
3. 「品詞」をクリックして、「前置詞」を選択します。

4. 「登録」をクリックします。

内容が登録されます。

例文：He enjoyed swimming during the summer vacation.

結果：彼は、夏期休暇の間水泳を楽しんだ。

● 前置詞の詳細登録

前置詞の登録では、以下の詳細登録を行うことができます。

名詞を修飾する

動詞を修飾する

詳細登録の手順については、アプリケーション:MAC-Transer V11(MED-Transer V11)フォルダにある「辞書詳細登録の手引き.pdf」を参照してください。

3.7.9 単位の登録

単位の登録では、見出し語、訳語を入力します。

● 単位の簡易登録

【例】「GeV」を「ギガエレクトロンボルト」と登録する

手順

1. 「見出し語」に"GeV"と入力します。
2. 「訳語」に「ギガエレクトロンボルト」と入力します。
3. 「品詞」をクリックして、「単位」を選択します。

4. 「登録」をクリックします。

内容が登録されます。

例文：This is 5 GeV.

結果：これは、5ギガエレクトロンボルトである。

3.7.10 登録内容に対する自動処理

辞書登録された内容を見ると、訳語の後に(X)、(I)などが付加されている場合があります。これは、訳語の活用型コードで、自動的に付加されます。独自に付加することもできます。活用型コードの一覧は、アプリケーション:MAC-Transer V11(MED-Transer V11):EJ辞書記述 フォルダにあるindex.htmlを参照してください。ブラウザを起動して、index.htmlを読み込み、左側にある「辞書コード一覧」をクリックして内容を参照してください。

【例】オリジナル辞書登録の内容

```
state(v,*):述べる::[OC]S{と}
worth(a):値する::[ON]{に}
```

「辞書登録」実行後の登録の内容

```
state(v,*):述べる (I)::[OC]S{と}
worth(a):値する (X)::[ON]{に}
```

3.8 日→英用ユーザー辞書に単語を登録する

「辞書登録」は、ユーザー辞書への単語の登録や削除を行う機能です。ユーザー辞書への登録方法には、基本語辞書・専門語辞書と同様に、簡易登録と詳細登録があります。

簡易登録	見出し語に対し、訳語だけ登録する
詳細登録	見出し語に対し、訳語だけでなく、意味索性（その単語がどのような意味合いを持つかを表す属性）や前後に続く語句などを登録する

これらを登録するには、辞書登録ダイアログを使う方法と、辞書ツールの「一括登録」機能を使う方法があります。いずれも辞書ソース（所定のフォーマットで登録内容を記述したテキスト）を作成してから登録します。辞書ソースの書式に関しては、アプリケーション:MAC-Transer V11(MED-Transer V11):JE辞書記述フォルダのindex.htmlを参照してください。



ヒント

辞書登録ダイアログを使うと、各ボックスに見出し語、訳語などの情報を入力するだけで、自動的に辞書ソースが作成されるため、辞書ソースを特に意識する必要はありません。

ここでは、辞書登録ダイアログを使ったユーザー辞書への登録の方法を説明します。「一括登録」機能の詳細は、『3.9.3 一括登録』を参照してください。

3.8.1 辞書登録ダイアログ

辞書登録ダイアログでは、簡易登録も詳細登録もできます。品詞によっては簡易登録しかできないものもあります。ここでは、辞書登録ダイアログの基本的な入力方法を説明します。

辞書登録の手順は、以下のとおりです。



手順

1. 翻訳エディタで登録する単語を選択します。
2. [単語]－[辞書登録]を選択するか、ツールバーの〈辞書登録〉をクリックします。

次のダイアログが表示されます。



3. 必要に応じて、各項目を入力します。

● 辞書登録ダイアログ

見出し語

見出し語を入力します。見出し語は全角で50文字まで入力できます。半角カタカナを入力することはできません。



翻訳エディタで、登録したい単語を選択してから[単語]—[辞書登録]を選択すると、その単語が自動的に「見出し語」に入力されます。

直接、文字を入力することもできます。活用がある見出しの場合（たとえば動詞、形容詞など）は、連体形で入力します。

訳語

訳語を入力します。訳語は半角で240文字まで入力できます。半角カタカナを入力することはできません。

品詞

品詞を選択します。右側の◆をクリックすると品詞の一覧が表示されるので、適切な品詞を選択します。



登録できる品詞は名詞、動詞、形容(動)詞、副詞、格助詞、連体助詞の6つです。助動詞など、一覧に表示されている以外の品詞は指定できません。品詞は、以下のように区別します。

名詞	活用がなく、人や物事などの名称を表す (例) 花、池
動詞	活用があり、「～する」が付いたり、語尾の母音が「う」で終わる (例) 印刷する、動く
形容詞	活用があり、文末にあるときは「～い」で終わる (例) かわいい、楽しい
形容動詞	活用があり、文末にあるときは「～だ」で終わる (例) 静かな(静かだ)、有効な(有効だ)
副詞	活用がなく、動詞や形容詞、形容動詞を修飾する (例) とても、やがて
格助詞	活用がなく、名詞の後に付いて全体として動詞または形容(動)詞を修飾する (例) ～と合わせ
連体助詞	活用がなく、名詞の後に付いて名詞を修飾する (例) 製の



ヒント

名詞と形容動詞は、「～な」が付くか付かないかで区別できます。

形容動詞には「～な」が付き、名詞には付きません。

たとえば、「混雑」は名詞、「乱雑(な)」は形容動詞です。



ヒント

連体助詞とは、名詞を修飾する活用しない語を言います。

Transterでは、「大型の」のような名詞+「の」も広義の連体助詞として扱います。

これらを登録する場合は、形容詞の無活用を指定します。

活用形

名詞の複数形、動詞の過去形・過去分詞、進行形、三単現(主語が三人称単数で時制が現在のときの活用形)などを入力します。選択した品詞に従って、必要な入力ボックスが表示されます。

必要に応じて過去形などの活用形を入力します。動詞は、過去形・過去分詞、三単現、進行形を入力します。システムは活用形を推定して表示しますが間違っている場合は、正しい活用形に修正します。

活用形のない単語の場合は、何も入力しないでください。

意味索性

見出し語、または、パターンの主語や目的語などに付加する意味索性を指定します。「意味索性」とは、語句にもともと備わっている意味のことで、たとえば、「東京」という語句は名詞ですが、「場所」という意味を持っているので、意味索性に「場所」を指定します。

参照

「見出し語」の内容を変更すると、〈参照〉を使用できるようになります。〈参照〉をクリックすると、辞書登録の内容が訳語リストボックスに表示されます。連続して辞書登録を行うような場合、見出し語を入力して〈参照〉をクリックすると「品詞」を選択できるようになります。

登録

〈登録〉をクリックすると、その単語がユーザー辞書に登録され、訳語リストボックスに表示されます。辞書登録ダイアログは閉じないので、続けて辞書登録を行うことができます。

削除

〈削除〉をクリックすると、「見出し語」の単語が、そのすべての訳語とともにユーザー辞書から削除されます。



いったんユーザー辞書から削除すると、復元することはできません。

先頭に追加

このチェックボックスがオンの場合、登録した訳語は訳語リストの先頭に追加されます。

オフの場合、訳語はリストの最後に追加されます。翻訳では、訳語リストの先頭訳語を第一訳として訳出するので、最適な訳を先頭にします。また、訳出頻度の低い訳語はオフにして登録し、リストの最後に追加するようにします。

詳細登録

辞書登録ダイアログにある〈簡易登録〉または〈詳細登録〉をクリックすると登録ダイアログが切り替わります。

〈詳細登録〉をクリックするとダイアログが下方に広がり、詳細登録モードになります。詳細登録に関しては、後述する各品詞の登録を参照してください。

閉じる

〈閉じる〉または、クローズボタンをクリックすると、翻訳エディタに戻ります。辞書登録ダイアログに表示されている内容を登録せずにクローズボタンをクリックすると、編集途中の内容は破棄されます。登録する場合は、〈登録〉をクリックしてからクローズボタンをクリックします。



専門語辞書と基本語辞書には、単語の追加や修正はできません。

● 既に登録した訳語を修正するー〈訳置換〉

「訳置換」は、登録されている訳語を修正する機能です。訳語リスト内で、修正したい訳語を選択すると、各ボックスに登録内容が表示されます。

3.8 日→英用ユーザー辞書に単語を登録する

辞書登録

辞書名: ユーザー辞書 閉じる

見出し語: 学生 複数形 students 参照

訳語: student 登録

品詞: 名詞 削除

[名]	pupil 数えられる	訳削除
[名]	student 数えられる	訳置換

先頭に追加

詳細登録

訳語を修正して〈訳置換〉をクリックすると、修正内容が登録されます。「訳置換」は、同一品詞で訳語を変更する場合に使用します。同じ見出し語に対して異なる品詞の訳語を登録する場合には、訳置換は行えません。

● 登録した訳語を削除するー〈訳削除〉

見出し語に対して訳語を登録すると、〈訳削除〉が選択できるようになります。削除したい訳語を訳語リスト内で選択すると登録内容が各ボックスに表示されるので、〈訳削除〉をクリックします。訳語がユーザー辞書から削除されます。

3.8.2 詳細登録モード

〈詳細登録〉をクリックするとダイアログが下方に広がり、詳細登録モードになります。たとえば、「名詞の詳細登録」のダイアログは次のとおりです。



ヒント 詳細登録を行う場合は、あらかじめ〈詳細登録〉をクリックして、詳細登録モードにしておく便利です。

● 登録内容

辞書登録ダイアログの各項目の設定に従って辞書ソースが表示されます。辞書ソースに関する詳細はアプリケーション:MAC-Transer V11(MED-Transer V11):JE辞書記述 フォルダのindex.htmlを参照してください。

3.8.3 名詞の登録

名詞は、見出し語、訳語のみの簡易登録のほかに、意味素性を5つまで指定することができます。

● 名詞の簡易登録

【例】「大理石」を「marble」と登録する

手順

1. 「見出し語」に「大理石」と入力します。
2. 「訳語」に「marble」と入力します。
3. 「品詞」が「名詞」になっていることを確認します。

「品詞」の右側にある◆をクリックして、再度「名詞」を選択すると、「複数形」に自動的に複数形が入力されます。初期状態では、「不可算名詞」として登録されるので、「複数形」に表示されている内容は登録時に無視されます。

4. 「登録」をクリックします。

単語が登録されます。

例文：鉱山から多くの大理石が発掘された。

結果：A lot of marble was excavated from a mine.

「品詞」をクリックして「名詞」を選択すると複数形が推測され入力されますが、間違っている場合は「複数形」に正しいものを入力します。

● 名詞の詳細登録

名詞の登録では、以下の詳細登録を行うことができます。

数えられる名詞の登録

複数の訳語の登録

常に複数扱いにする名詞の登録

固有名詞の登録

「性」の指定により訳し分けをする個人名の登録

助詞「で」または「に」を伴う場合の前置詞訳の登録

冠詞情報を付加して登録

詳細登録の手順については、アプリケーション:MAC-Transer V11(MED-Transer

V11)フォルダにある「辞書詳細登録の手引き.pdf」を参照してください。

3.8.4 動詞の登録

動詞は、見出し語、訳語のみの簡易登録のほかに、日本語の構文パターンによる詳細登録を行うことができます。

動詞は活用があるので、見出し語を連体形で入力します。品詞に動詞を選択すると、自動的に適切な活用形がいくつか推定されるので、正しい活用形を選択します。

パターンは日本語のパターンで考えます。英語の自動詞や他動詞の概念で考えないでください。構文は代表的な5パターンを用意してあります。

● 代表的な構文のパターン

～が～する	(～は～する)
～が～を～する	(～は～を～する)
～が～に～を～する	(～は～に～を～する)
～が～に～する	(～は～に～する)
～が～と～する	(～は～と～する)

たとえば、「動かす」という動詞には、「彼が、テーブルを動かす」のように「～を」という目的語を伴います。この場合、2番目のパターンが該当します。

訳語の活用形は、推定されて自動的に各活用形のボックスに表示されます。基本語辞書にない新しい訳語（英単語）を登録する場合や、基本語辞書の動詞の活用とは異なる活用をさせたい場合は、キーボードから入力して変更できません。基本語辞書の動詞の活用は、英語の規則活用に対応しています。また、不規則なものは個々に登録されています。

● 動詞の簡易登録（自動詞の登録） — ～が～する

【例】「飛び跳ねる」を「jump」と登録する。パターンは「～が～する」



1. 「見出し語」に「飛び跳ねる」と入力します。
2. 「訳語」に"jump"と入力します。

自動的に品詞が推定され、「動詞」の画面に変わります。また、「品詞」の下にある活用形が「一段」と表示されます。

3. 「登録」をクリックします。

単語が登録されます。

例文：ネコが飛び跳ねた。

結果：A cat jumped.

● 動詞の詳細登録

動詞の登録では、以下の詳細登録を行うことができます。

「～が～を～する」の登録

「～が～に～を～する」の登録

「～が～に～する」の登録

「～が～と～する」の登録 — 動詞+副詞句の登録

受動態の登録

詳細登録の手順については、アプリケーション:MAC-Transer V11(MED-Transer V11)フォルダにある「辞書詳細登録の手引き.pdf」を参照してください。

3.8.5 形容詞および形容動詞の登録

形容詞は、見出し語、訳語のみの簡易登録のほかに、日本語の構文パターンによる詳細登録を行うことができます。

形容詞や形容動詞は活用があるので、見出し語を連体形で入力します。



見出し語は、形容詞の場合「～い」、形容動詞の場合「～な」と入力します。

品詞で形容詞または形容動詞が選択されると自動的に適切な活用形がいくつか推定されるので、正しい活用形を選択します。

● 形容詞の簡易登録

【例】「かいがいしい」を「faithful」と登録する



1. 「見出し語」に「かいがいしい」と入力します。
2. 「訳語」に「faithful」と入力します。

自動的に品詞が推定され、「形容(動)詞」の画面に変わります。また、「品詞」の下にある活用形が「形容詞」と表示されます。

3. 「登録」をクリックします。

内容が登録されます。

例文：彼女のかいがいしい介護で彼は病気から回復した。

結果：He recovered from illness by her faithful care.

● 形容詞の詳細登録

形容詞の登録では、以下の詳細登録を行うことができます。

「～が～に」の登録

「～が～と」の登録

限定用法と後置修飾の登録

詳細登録の手順については、アプリケーション:MAC-Transer V11(MED-Transer V11)フォルダにある「辞書詳細登録の手引き.pdf」を参照してください。

3.8.6 副詞の登録

副詞は、見出し語、訳語のみの簡易登録のほかにも、詳細登録を行うことができます。

副詞は活用がなく、設定項目も少ないので、比較的簡単に登録することができます。

● 副詞の簡易登録

【例】「ずけずけと」を「freely」と登録する

手順

1. 「見出し語」に「ずけずけと」と入力します。
2. 「訳語」に「freely」と入力します。
3. 「品詞」をクリックして「副詞」を選択します。

活用形が自動的に入力されます。ここでは、活用形がないので空欄のままにします。

4. 「登録」をクリックします。

内容が登録されます。

例文：彼は私にずけずけと文句を言った。

結果：He complained to me freely.

● 副詞の詳細登録

副詞の登録では、以下の詳細登録を行うことができます。

訳語に否定の意味を含めて登録

訳語の生成位置の指定 — 修飾語の直前

訳語の生成位置の指定 — 修飾語の直後

訳語の生成位置の指定 — 文頭

訳語の生成位置の指定 — 文末

詳細登録の手順については、アプリケーション:MAC-Transer V11(MED-Transer V11)フォルダにある「辞書詳細登録の手引き.pdf」を参照してください。

3.8.7 格助詞の登録

格助詞とは、名詞を伴って文節を構成する助詞で、全体としては述語を修飾し

ます。格助詞のうち、英語で「前置詞（または前置詞相当語句）+名詞」になるものを登録できます。

● 格助詞の簡易登録

【例】「を理由に」を「on account of」と登録する

手順

1. 「見出し語」に"を理由に"と入力します。
2. 「訳語」に「on account of」と入力します。
3. 「品詞」をクリックして「格助詞」を選択します。

辞書登録

辞書名: ユーザ辞書 閉じる

見出し語: を理由に 参照

訳語: on account of 登録

品詞: 格助詞 削除

見出し語 を理由に はユーザ辞書に登録されていません 訳削除

先頭に追加 訳置換

詳細登録

4. 「登録」をクリックします。

単語が登録されます。

例文：交通事故を理由に交通規制が行われた。

結果：Traffic regulation was done on account of a traffic accident.

意味素性の指定

〈詳細登録〉をクリックして表示される詳細登録モードで、見出し語に意味素性を指定することができます。「見出し語」、「訳語」を入力したら、「意味素性」の〈追加〉をクリックして表示される一覧から目的の意味素性を選択します。たとえば上記の例では、意味素性に「事」を選びます。

3.8.8 連体助詞の登録

連体助詞とは、名詞を伴って文節を構成する助詞で、全体としては名詞を修飾します。連体助詞のうち英語で「前置詞（または前置詞相当語句）+名詞」になるものを登録できます。

● 連体助詞の簡易登録

【例】「と同等の」を「equivalent to」と登録する

手順▶

1. 「見出し語」に「と同等の」と入力します。
2. 「訳語」に"equivalent to"と入力します。
3. 「品詞」をクリックして「連体助詞」を選択します。

4. 「登録」をクリックします。

単語が登録されます。

例文：彼はプロと同等の能力を有する。

結果：He has ability equivalent to a professional.

意味素性の指定

「詳細登録」をクリックして表示される詳細登録モードで、見出し語に意味素性を指定することができます。「見出し語」、「訳語」を入力したら、「意味素性」の「追加」をクリックして表示される一覧から目的の意味素性を選択します。たとえば上記の例では、意味素性に「事」を選びます。

3.9 辞書ツール

辞書ツールは、Transterで使用する辞書を管理するためのツールです。Transter本体で登録作成されたユーザー辞書は、バイナリ形式で書かれた見ることのできないファイルです。Transter本体では、ユーザー辞書に登録した内容を一括して見ることはできませんが、辞書ツールを使用することで、ユーザー辞書に登録した内容をテキストファイルに書き出して内容を確認することができます。このようにして作成したテキストファイルを「辞書ソースファイル」と呼びます。

また、決められたフォーマットに従って辞書ソースファイルを記述すれば、辞書の一括登録をすることも可能です。作成したユーザー辞書を定期的にテキストファイルに書き出して辞書ソースファイルを作成しておけば、ユーザー辞書が壊れるような事態が起きても最新の内容で辞書を復元することができます。英→日の辞書ソースファイルと日→英の辞書ソースファイルを双方向に変換することもできるので、幅広く辞書を活用することができます。

● 起動

辞書ツールは、[ツール]→[辞書ツールを開く]を選択すると起動します。辞書ツールが起動すると、次の初期画面が表示されます。



● 終了

〈閉じる〉をクリックすると、辞書ツールは終了します。

3.9.1 ユーザー辞書の参照

辞書ツールでは、ユーザー辞書の内容を一覧表示することができます。手順は以下のとおりです。

手順

1. 〈ユーザー辞書ブラウザ〉をクリックします。
2. 「辞書名」の右側にある◆をクリックして辞書名一覧から辞書を選択します。辞書の内容が一覧表示されます。



● 見出し語の検索

に語句を入力してreturnを押すと、語句の検索を実行できます。

● 参照する辞書

辞書ツールでは、[翻訳]－[現在の文書設定]－[EJ(JE)辞書]で設定されている辞書から検索を行います。

参照する辞書を変更する場合は、まず、『3.5 ユーザー辞書の作成と選択』を参照して、使用する辞書を変更してください。

3.9.2 辞書ソースファイルの形式

「一括登録」を実行する前に、あらかじめ決められたフォーマットで書かれたテキスト形式の辞書ソースファイルを作成しておかなければなりません。

辞書ソースファイルの拡張子は任意に付けることができます。ここでは便宜上、英→日の辞書ソースファイルを「*.opt」、日→英の辞書ソースファイルを「*.dic」として説明します。

辞書ソースの記述形式は、Transterで作成したユーザー辞書を「ソース出力」することでテキストファイルに変換して参考にすることができます。

3.9.2.1 文字コード

辞書ソースファイルは、Shift JISコードで記述する必要があります。

Transterで作成したユーザー辞書を「ソース出力」すると、Shift JISコードのテキストファイルに出力されます。

たとえば、辞書ソースファイルを編集する場合は、テキストエディットで編集し、「標準テキストのエンコーディング」を「日本語（Shift JIS）」と設定して保存してください。

3.9.2.2 CSV, TSVフォーマット

辞書ツールでは、通常のTranserの辞書ソースフォーマットに加え、「CSVフォーマット」と「TSVフォーマット」をサポートしています。このフォーマットを使用することで、他のソフト（データベースや表計算）でソートなどの編集作業が可能になります。

「CSVフォーマット」と「TSVフォーマット」では見出し語と訳語のみの登録になります。



「CSVフォーマット」「TSVフォーマット」で登録できる品詞は名詞のみです。また、1つの見出し語で登録できる訳語は1つのみです。

● CSVフォーマット

見出し語と訳語をカンマで区切って並べます。また、語句を ""（ダブルクォーテーション）でくくることもできます。

記述フォーマット1	見出し語,訳語
記述フォーマット2	"見出し語","訳語"
英→日記述例1	translation software,翻訳ソフト
英→日記述例2	"translation software","翻訳ソフト"
日→英記述例1	翻訳ソフト,translation software
日→英記述例2	"翻訳ソフト","translation software"

● TSVフォーマット

見出し語と訳語をタブで区切って並べます。ここではタブを「→」と表記します。

記述フォーマット	見出し語→訳語
英→日記述例	translation software→翻訳ソフト
日→英記述例	翻訳ソフト→translation software

3.9.2.3 辞書ソースの記述形式

辞書ソースの記述形式に関しては、英→日の場合は
アプリケーション:MAC-Transer V11(MED-Transer V11):EJ辞書記述 フォルダ、
日→英の場合は
アプリケーション:MAC-Transer V11(MED-Transer V11):JE辞書記述 フォルダ
にあるindex.htmlを参照してください。

3.9.3 一括登録

一括登録では、テキスト形式で書かれた辞書ソースファイルからTranSerで利用できる形式のユーザー辞書を新規作成します。辞書ソースファイル（たとえばdefault.opt）は、あらかじめ作成しておく必要があります。

また、辞書ソースファイルは、Shift JISコードで記述してください。

ユーザー辞書を新規に作成して、このユーザー辞書に一括で登録する場合は、現在の文書設定ダイアログの「EJ(JE)辞書」タブで、新規ユーザー辞書を作成してから、下記の手順を実行してください。「EJ(JE)辞書」タブについては、『3.5 ユーザー辞書の作成と選択』を参照してください。

手順は以下のとおりです。

手順

1. <一括登録>をクリックします。

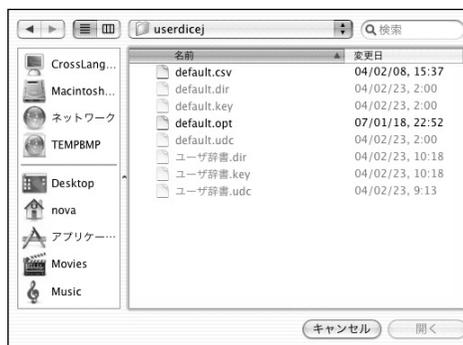
一括登録ダイアログが表示されます。



2. 入力元となる辞書ソースファイルを指定します。

「入力ファイル」の右側にある「+」をクリックします。

次のオープンダイアログが開きます。



- 辞書ソースファイルを選択して、〈開く〉をクリックします。
- 出力先となる辞書ファイルを指定します。

既存ユーザー辞書を選択する

翻訳で使用する辞書として設定していない、既存ユーザー辞書を選択する場合は、「出力辞書」の右側にある〈ファイル選択〉をクリックして、ユーザー辞書を選択します。

翻訳で使用しているユーザー辞書を選択する

翻訳で使用する辞書として設定されている、ユーザー辞書を選択する場合は、「出力辞書」の右側にある〈辞書選択〉をクリックして、ユーザー辞書を選択します。

- 出力方法を指定します。
「追加」がオンの場合、指定したユーザー辞書に追加されます。
「上書き」がオンの場合、指定したユーザー辞書の内容をすべて破棄してから、新規に当該辞書に登録を行います。
- 〈登録〉をクリックします。

辞書一括登録が実行されます。登録が終了すると、次のダイアログが表示されます。

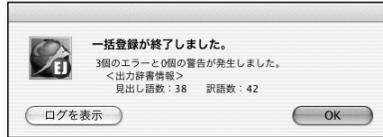


- 〈ログを表示〉をクリックすると、一括登録結果に関する情報が表示されます。

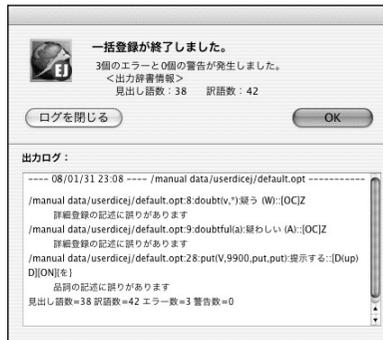


● エラー情報の表示

一括登録の際、辞書ソースの誤りなどにより登録できなかった場合、次のようにエラーと警告の数が表示されます。



〈ログを表示〉をクリックすると、エラー内容が表示されます。



辞書ソースを修正してから、再度、一括登録を実行してください。

3.9.4 ソース出力

「ソース出力」では、Transerのユーザー辞書をテキストファイルへ書き出します。このテキストファイルを「辞書ソース」と呼びます。Transerで提供している基本語辞書、専門語辞書を変換することはできません。

手順は以下のとおりです。

手順

1. 〈ソース出力〉をクリックします。

ソース出力ダイアログが表示されます。



2. 入力元となる辞書ファイルを指定します。

既存ユーザー辞書を選択する

翻訳で使用する辞書として設定していない、既存ユーザー辞書を選択する場合は、「入力辞書」の右側にある〈ファイル選択〉をクリックして、ユーザー辞書を選択します。

翻訳で使用するよう設定されているユーザー辞書を選択する

翻訳で使用する辞書として設定されている、ユーザー辞書を選択する場合は、「入力辞書」の右側にある〈辞書選択〉をクリックして、ユーザー辞書を選択します。

3. 出力形式を指定します。

「ソース」がオンの場合、詳細登録も含めた辞書ソースファイルが作成されません。

「CSV」がオンの場合、見出し語と訳語をダブルクォーテーションでくくり、カンマで区切って出力します。

「TSV」がオンの場合、タブで区切られた見出し語と訳語が出力されます。

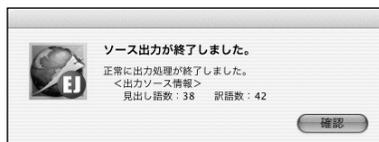


「CSV」、「TSV」で書き出されるのは、見出し語と訳語のみです。詳細登録は書き出されません。

4. 〈出力〉をクリックします。

出力先となるテキストファイルを指定するダイアログが表示されます。

ファイルを指定すると、ソース出力が開始されます。出力が終了すると、次のダイアログが表示されます。



3.9.5 ソース変換

「ソース変換」は、英→日の辞書ソースファイルを日→英の辞書ソースファイルに変換したり、反対に日→英の辞書ソースファイルを英→日の辞書ソースファイルに変換します。

手順は以下のとおりです。

手順

1. 〈ソース変換〉をクリックします。

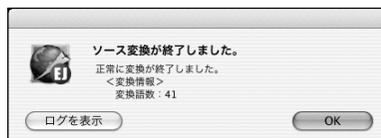
ソース変換ダイアログが表示されます。



2. 変換の種類を指定します。「変換の種類」の右側にある◆をクリックして、変換の種類を選択します。
3. 入力元となる辞書ソースファイルを指定します。「入力ソース」の右側にある〈ソース選択〉をクリックして、辞書ソースファイルを指定します。
4. 〈変換〉をクリックします。

変換先となる辞書ソースファイルを指定するダイアログが表示されます。

ファイルを指定すると、変換が開始されます。変換が終了すると、次のダイアログが表示されます。



● 英日↔日英変換の制限

英語と日本語の言語の違いから、各翻訳ソフトは独自の辞書フォーマットを採用しています。そのため、英→日においては正しく登録される辞書ソース記述であっても、適切に日→英のソースに置き換えることができなかつたり、またはその逆の場合があります。

以下に変換における制限について説明します。

「EJ→JE」に変換する場合

1. 英→日の動詞の登録で詳細登録を行った場合

英→日の詳細登録は無視されます。同じ見出し語に異なる詳細登録を行った場合、同じ見出し語で同じ訳の登録となります。作成した辞書の使用時には1つの見出し語に対し、1つの訳語となるので、問題はありませぬ。

英→日の辞書ソース

```
state(v,0000):述べる::[OC]T{と}
state(v, 0000):述べる::[QN]{に}[OC]{と}
```

変換後の日→英の辞書ソース

```
*述べる/V/UL/□+1が□(2を)□=1□state/V/□2
*述べる/V/UL/□+1が□(2を)□=1□state/V/□2
```

メモ □は半角スペースです。

2. 英→日で動詞に前置詞が係る詳細登録をした場合

前置詞の記述は変換後の日→英の辞書ソースで修正する必要があります。

英→日の辞書ソース

```
test(v,0000):テストする::[ON]{を} [P(with)N]{で}
```

変換後の日→英の辞書ソース

```
*テストする/V/S1/□+1が□(2を)□=1□test/V/□2
```

メモ □は半角スペースです。

修正後の日→英の辞書ソース

```
*テストする/V/S1/□+1が□2を□(3で)□=1□test/V/□2□(with□3)
```

メモ □は半角スペースです。

3. 英→日で前置詞、従属接続詞を登録した場合

英→日の前置詞、従属接続詞を日→英へ変換すると名詞になります。正しくは格助詞または連体助詞なので、日→英のソースを必ず修正してください。

英→日の辞書ソース

```
for the purpose of(pred):のために
though(conj):が
```

変換後の日→英の辞書ソース

```
*のために/N/□="for□the□purpose□of"/N/
*が/N/□=though/N/
```

メモ □は半角スペースです。

修正後の日→英の辞書ソース

```
*のために/JSKAK/□="for□the□purpose□of"
この場合の「が」は接続詞なので登録できません。
```

メモ □は半角スペースです。

4. 英→日の見出し語が形容詞で訳語が動詞の場合

英→日の見出し語が形容詞でも、訳語を日→英の見出し語として変換すると語形からシステムが自動判定し、動詞になる場合があります。

英→日の辞書ソース

```
worth(a):値する::[ON]{に}
```

変換後の日→英の辞書ソース

```
*値する/V/S1/□+1が□=1□be/V/□worth/A/
```

メモ □は半角スペースです。

修正後の日→英の辞書ソース

```
*値する/V/S1/□+1が□2に□=1□be/V/□worth/A/□2
```

メモ □は半角スペースです。

「JE→EJ」に変換する場合

格助詞、連体助詞は変換できません。

日→英の辞書ソースに格助詞、連体助詞がある場合は、削除してから行ってください。

3.9.6 ユーザー辞書の更新

辞書ツールでは、ユーザー辞書ブラウザで選択しているユーザー辞書の更新を行うことができます。

ユーザー辞書登録については、英→日の場合は『3.7 英→日用ユーザー辞書に単語を登録する』、日→英の場合は『3.8 日→英用ユーザー辞書に単語を登録する』を参照してください。

- **登録**

〈登録〉をクリックすると、辞書登録ダイアログが表示されます。新しい見出し語を登録できます。

- **変更**

リストにある見出し語をダブルクリックするか、見出し語を選択して〈変更〉をクリックすると、辞書登録ダイアログが表示され、選択した見出し語の情報が表示されます。登録内容を、適宜、変更してください。

- **削除**

見出し語を選択して〈削除〉をクリックすると、選択した見出し語の訳語の削除を確認するメッセージが表示されます。

〈OK〉をクリックすると、訳が削除されます。

削除した見出し語や訳語を元に戻すことはできないので、注意してください。

第 4 章 文書の入出力

この章の内容

この章では、Transerでの文書の読み込みと保存、印刷方法を説明します。

4.1 文書の入力

4.1.1 ファイルを開く

Transterでは翻訳ファイル（Transterで作成されるファイル）や、ワープロ、エディタで作成したテキストファイルを開いて、翻訳エディタに読み込みます。
[ファイル]－[開く]を選択すると、開くダイアログが表示されます。



開くダイアログで、翻訳したいファイル名を選択し[開く]をクリックして、対象ファイルを読み込みます。文書内のピリオドやクエスチョンマークなどによって、自動的に文単位に分割されて原文エリアに原文が表示されます。

● 書類の形式

Transterに読み込めるファイルの形式は以下のとおりです。

自動判別

自動判別は、Transterで作成した翻訳ファイル、対訳（テキスト）ファイル、テキストファイル、PDF、DOC、RTF、オフィス文書（DOCX、XLSX、PPTX）が対応ファイルとして開くダイアログに表示し、読み込みます。

翻訳ファイル、対訳テキストファイルは、原文＋訳文の状態を読み込まれます。その他のファイル形式では、原文のみが読み込まれます。

以下は、ファイル形式を指定して読み込む場合に使います。

テキスト／対訳（テキスト）／PDF／DOC／RTF／オフィス文書

詳細は『4.1.2 ファイルを開く際の注意事項』を参照してください。

● テキストファイルのエンコーディング

テキストファイル（テキスト、対訳テキスト）を、開くダイアログの「エンコー

ディング」が「自動判別」になっている場合、文字化けして読み込まれる場合があります。

「エンコーディング」の◆の選択ダイアログで、適切なエンコーディング形式を選択します。選択可能な文字コードは以下のとおりです。

- Unicode (UTF-16)
- Unicode (UTF-8)
- 日本語 (Shift JIS:Mac OS)
- 日本語 (Shift JIS:Windows)
- 日本語 (EUC)
- 日本語 (ISO 2022-JP)
- 欧米 (ASCII)
- 欧米 (Mac OS Roman)

● 最近使った文書ファイルを読み込む

[ファイル]—[最近使った書類]には最近使用されたファイルの一覧が表示されます。



開きたいファイル名を選択すると、ファイルが読み込まれます。ここで選択したファイルは、拡張子を自動判別して読み込まれます。拡張子の自動判別の処理は以下のとおりです。

ファイルの種類	拡張子	処理
翻訳ファイル	英→日：etf※ 日→英：jtf※	原文エリアに原文、訳文エリアに訳文が読み込まれる。「訳語変更」、「ユーザー辞書登録」などの機能を利用して翻訳作業を継続可能。
対訳ファイル	(対訳).txt	原文エリアに原文、訳文エリアに訳文が読み込まれ、全文にロックがかかる。訳語対応などを表示するには、ロック解除を実行して、再翻訳を行う必要がある。
その他のファイル	.txt, PDF, Word, RTF, Excel, PPT, 拡張子なし など	原文エリアにファイルの内容が読み込まれ、文分割される。

※Transerの翻訳ファイル（etfファイル/jtfファイル）は、保存ダイアログで「拡張子を隠す」をONにしている場合、拡張子etf/jtfの拡張子は表示されません。



xlsx（エクセルファイル）は、セルの順番ではなく、セルの入力順（データ入力された順）で読み込まれます。（セルの記入順はエクセル内部で管理されており、ユーザーは識別できません。）

● 読み込んだファイルのファイル名

各対応ファイルを読み込むと、翻訳エディタのヘッド部分に、自動的にファイル名が付与されます。



例えば、「sample_en.docx」を読み込んだ場合、翻訳エディタのヘッド部分には「sample_en(docx)」と表示されます。

pdf, doc, rtf, docx, xlsx, pptxを読み込んだ場合、上記同様にファイル名の後ろに括弧で元のデータの形式を示し、翻訳作業状態を保存するTranserの翻訳ファイル（etfファイル/jtfファイル※）のファイル名となります。

このファイル名は仮のファイル名で、ユーザーにより自由に変更することができます

※Transerの翻訳ファイル(efファイル/jtfファイル)は、保存ダイアログで「拡張子を隠す」をONにしている場合、拡張子ef/jtfの拡張子は表示されません。

4.1.2 ファイルを開く際の注意事項

- 半角カタカナを含むファイル

翻訳エディタに半角カタカナを入力することはできません。半角カタカナを含むファイルが読み込まれた場合、半角カタカナは無視されて翻訳エディタに読み込まれます。

- 対訳ファイルを開く

「開く」では、「対訳ファイル」で出力したファイルを開くことができます。対訳ファイルは一文ごとに分割されて、原文エリアに原文、訳文エリアに訳文が読み込まれ、全文にロックがかかります。これは、対訳ファイルには翻訳情報が保存されていないので、再翻訳した場合に訳文が変更されないようにするためです。単語の対応などを表示する場合は、ロック解除を実行して、再翻訳を行ってください。

- オフィス文書 (Word, Excel, PowerPoint) ファイルを開く

オフィス文書ファイルを開くことができます。パスワードで保護されているオフィス文書ファイルは、翻訳エディタに読み込めない場合があります。パスワード保護されたファイルは、いったんオフィス文書に読み込みセキュリティ設定を解除してから、Transerで開いてください。

- PDFファイルを開く

PDFファイルを開くことができます。Adobe Acrobatで作成したPDFファイルは基本的に読み込めますが、その他のアプリケーションで作成したPDFファイルや、作成したAdobe Acrobatのバージョンによっては、翻訳エディタに読み込めない場合があります。このような場合は、いったん、Adobe Acrobatに読み込み、「名前を付けて保存」コマンドでファイルを保存してから、Transerで開いてください。

また、文書のセキュリティが設定されているPDFファイルは、翻訳エディタに読み込めない場合があります。このような場合は、いったんAdobe Acrobatに読み込みセキュリティ設定を解除してから、Transerで開いてください。

- 確認翻訳ファイルを開く 日→英のみ

確認翻訳モードで保存したファイルは、確認翻訳モードで読み込まれます。

4.1.3 新規文書の作成

新規に文書を作成するには、[ファイル]－[新規]を選択します。新しく翻訳エディタが開き、最初の文番号"1"だけが表示されるので、順に文章を入力していきます。

一文ごとにreturnキーを押してください。自動的に次の文番号が表示されます。できるだけ短く区切った文を入力してください。文が長いと文意の取りにくい翻訳になる場合があります。

4.1.4 英→日 文の基準

英→日は、「開く」で読み込んだ英文を自動的に文ごとに分割します。ここでは、どのように文を翻訳する単位として分割するのか、その判断のしかたについて説明します。

英→日は、以下の場合を文の区切りとして認識します。

- 普通の文の終わり

ピリオド（.）、疑問符（?）、感嘆符（!）の後にスペースがある場合、または、これらの文字に続く引用符（シングルクォーテーション、ダブルクォーテーション）の後にスペースのある場合です。ただし、ピリオドの後にスペースが1つしかない場合は、省略語を表すピリオドの場合があるので、特別の判定規則があります。

このため、ピリオドの後には、2つ以上のスペースを挿入するのが安全です。

- 次の行が空行の場合

空行は文の区切りと判断されます。

- コロン（:）、セミコロン（;）の後

できるだけ短い文で翻訳した方が良い訳が得られるため、コロンやセミコロンの後で文（翻訳の単位）を切ります。次の例では、コロンまでの部分とその後には別の文として読みこまれて翻訳されるので、"XXXX, YYYY, and ZZZZ"は名詞句から成る文と解釈します。

原文：You can choose one of the following: XXXX, YYYY, and ZZZZ.

読み込みまたは貼り付けられる時に以下のように2つの文に分割されます。

原文1：You can choose one of the following:

原文2：XXXX, YYYY, and ZZZZ.

結果1：あなたは、以下のうちの1つを選ぶことができます：

結果2：XXXX、YYYYとZZZZ。

- 一定の数の空白が続く場合。

次のような表などは、ピリオドがなくても、それぞれのまとまりを1つの文（翻訳の単位）として扱います。つまり、"Price"、"DPI"などを独立に翻訳し、その

結果のレイアウトを保存して表示します。5つ以上のスペースがあると、文の区切りとして認識します。

原文：		Price	DPI	Customer Support
	X X X X	\$999.0	300	YES
	Y Y Y Y	\$1100.0	400	NO
	Z Z Z Z	\$899.0	600	Excellent
結果：		価格	DPI	顧客サポート
	X X X X	999.0ドル	300	はい
	Y Y Y Y	1100.0ドル	400	いいえ
	Z Z Z Z	899.0ドル	600	優秀

4.1.5 日→英文の基準

日→英は、「開く」で読み込んだ和文を自動的に文ごとに分割します。ここでは、どのような文を翻訳する単位として分割するのか、その判断のしかたについて説明します。

日→英は、次の場合を文の区切りとして認識します。

空行がある場合

全角の文末記号（。、！？：；）がある場合

半角の文末記号（. ! ? : ; ）の後に半角スペースが1文字以上続く場合

TABが挿入されている場合

行頭に列挙記号（* @ \$ ☆ ★ ○ ● ◎ ◇ ◆ □ ■ ▲ ▼ ▽ ※ * # +）がある場合

行頭にある列挙記号と同じものが行末にある場合には、行末の列挙記号も文切りされます。

文中に半角スペースが4文字以上続く場合

文中に全角スペースが2文字以上続く場合

4.2 保存

4.2.1 ファイルの保存

Transterでは、作業中の文書に名前を付けて保存することができます。

メモ 保存されたファイルを「翻訳ファイル」とも呼びます。

[ファイル]－[別名で保存]を選択すると、保存ダイアログが表示されます。ここで、作業中の文書に適切なファイル名を付けて保存します。



作業中の文書のファイル名や保存場所を変更せずに保存する場合は、[ファイル]－[保存]を選択してください。



既に保存場所に同名の翻訳ファイルが存在する場合は、内容を上書きしますのでご注意ください。

保存ダイアログでは、ファイル名や保存場所を指定する以下のオプションが設定できます。

● フォルダを指定する

フォルダを指定します。「場所」には、現在のフォルダが表示されます。クリックすると、一部のフォルダ名が表示されるのでここから選択できます。または、右にある◆をクリックするとダイアログが下方に広がるので、フォルダを選択します。表示されているフォルダ内に新たにフォルダを作成したければ、〈新規フォルダ〉をクリックしてください。新規フォルダ名を入力するダイアログが表示されるので、適当な名前を入力し、〈作成〉をクリックしてください。開いているフォルダの下に新たにフォルダが作成されます。

● ファイル名を入力する

「開く」で読み込んだテキストファイルの場合は、「名前」に読み込んだファイル名が表示されます。新規作成ファイルの場合は、「名前」に「名称未設定」と表示されるので、適当なファイル名を入力します。

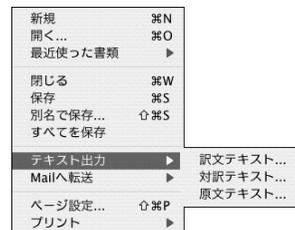
「開く」で読み込んだファイルでも、ここでファイル名を変更して元のファイル名と違う名前でも保存することができます。

〈保存〉をクリックすると、ファイルを保存します。

4.2.2 テキスト出力

「テキスト出力」は編集中のファイルの原文、訳文、対訳文、確認翻訳文（日→英で、確認翻訳モードの場合）のテキストファイルを作成します。作成されたファイルは、他のワープロやエディタでも読み込めるテキスト形式のファイルです。

[ファイル]－[テキスト出力]を選択するとサブメニューが表示されます。



作成するファイルを指定すると保存ダイアログが表示されます。



保存するファイル名を入力してください。

ファイル名には、訳文／対訳／原文の指定により、以下のようにファイル名が自動的に付加されます。（ユーザーにより変更できます）

訳文テキスト…ファイル名(訳文).txt

対訳テキスト…ファイル名(対訳).txt

原文テキスト…ファイル名(原文).txt

確認翻訳テキスト（確認翻訳モードで表示）…ファイル名(確認翻訳).txt

まだ名前の付いていない新規ファイルの場合、ファイル名は「名称未設定」と表示されます。

「原文テキスト」は原文エリア、「訳文テキスト」は訳文エリア、「確認翻訳テキスト」は確認翻訳エリアの文章をテキストファイルに保存します。一つの段落の中では文は改行されません。段落の先頭に余白（インデント）がある場合、余白はtabに変換されます。

「対訳テキスト」は、「-」記号、原文、訳文の順番で対訳文をテキストファイルに保存します。「対訳テキスト」はTransterに読み込んで編集することができます。詳細は、『4.1.1 ファイルを開く』を参照してください。



Windows版のTransterシリーズでデータを利用したい場合は、対訳テキストで保存してください。

4.2.3 オフィス文書出力

[オフィス文書出力]を使うと、翻訳結果を読み込んだ元ファイルのレイアウトで保存できます。

翻訳したオフィス文書→オフィス文書出力

オフィス文書を読み込み、翻訳エディタで翻訳した状態で、[ファイル]—[オフィス文書出力]を選択すると、元ファイルのレイアウトに訳文を配置して出力します。（オフィスソフトで開くと翻訳されたドキュメントが開かれます。）

ファイル名は以下のルールによって保存します。なお、上記ファイル名はユーザーにより自由に変更することもできます。

- ファイル名の拡張子は、自動的に元のオフィス文書の拡張子（docx/xlsx/pptx）で保存されます。
- EJ翻訳の場合：元ファイル名+J というファイル名になります。
- JE翻訳の場合：元ファイル名+E というファイル名になります。



オフィスファイル出力は、オリジナルのレイアウトが保持されない場合があります。



原文を改行や文の追加などの編集を行った場合、再翻訳を実行しない限り、訳文がオフィス文書出力の保存ファイルに反映されません。



訳文を手動等で編集しロック（鍵）マークが付いた文の訳文が、保存ファイルに反映されます。



docx/xlsx/pptxは、Windows版オフィスと互換性があります。。

翻訳したオフィス文書→テキスト出力

オフィス文書を読み込んで翻訳した状態で、[ファイル]—[テキスト出力]を選択すると、元ファイルのレイアウトを除去して保存します。

ファイル名は以下のルールによって保存します。なお、上記ファイル名はユーザーにより自由に変更することもできます。

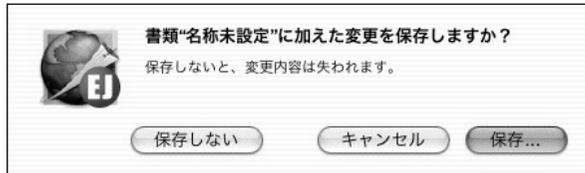
- 訳文テキスト出力の場合：元ファイル名(docx/xlsx/pptx)(訳文)
- 対訳テキスト出力の場合：元ファイル名(docx/xlsx/pptx)(対訳)
- 原文テキスト出力の場合：元ファイル名(docx/xlsx/pptx)(原文)



Windows版のTranserシリーズでデータを利用したい場合は、対訳テキストで保存してください。

4.2.4 閉じる

[ファイル]－[閉じる]を選択すると、アクティブな翻訳エディタを閉じます。新規に文書を作成したり、既存の文書に加えた変更点がまだ保存されていない場合は、保存を確認するダイアログが表示されます。



〈保存〉をクリックすると、保存ダイアログが表示され、翻訳結果を保存して閉じます。〈保存しない〉は編集集中の文書を保存せずに閉じます。

4.2.5 Transerを終了

[翻訳エディタ EJ(JE)]－[翻訳エディタ EJ(JE)を終了]を選択すると、Transerが終了します。

その際、複数の文書を新規作成したり、複数の文書に加えた変更点がまだ保存されていない場合は、次のダイアログが表示されます。



〈変更内容を確認〉をクリックすると、未保存のファイルごとに保存ダイアログが表示され、翻訳結果を保存して閉じます。〈変更内容を破棄〉をクリックすると、すべてのファイルを保存せずに、閉じます。

4.2.6 英→日が作成するファイル

Transerは、翻訳情報を保持し、後に再編集可能な「翻訳ファイル」、翻訳結果オリジナルのレイアウトで保存できる「オフィス文書出力」、Windows用のTranserなどで読み込める「対訳テキスト」などのファイルに保存することができます。また、訳語の学習、ユーザー辞書、翻訳メモリ機能を使用した場合は、各種辞書ファイルや翻訳メモリファイルを作成します。翻訳作業においてTranserが作成するファイルは以下のとおりです。

● ファイルの一覧

種類	ファイル名	説明
翻訳ファイル	***.etf ***(txt).etf ***(docx).etf ***(xlsx).etf ***(pptx).etf ***(pdf).etf	翻訳結果など、翻訳情報を保存元のデータの形式が分かりやすいようにファイル名に(txt), (docx), (xlsx), (pptx), (pdf)が自動的に付与されます。(自由に消すこともできます)
対訳テキスト	***(対訳).txt	"--"記号、原文、訳文の順で対訳をテキストファイルに保存
訳文テキスト	***(訳文).txt	訳文エリアの訳文のみをテキストファイルに保存
原文テキスト	***(原文).txt	原文エリアの原文のみをテキストファイルに保存
オフィス文書	***_J.docx ***_J.xlsx ***_J.pptx	翻訳結果を読み込みファイルのレイアウトで保存
学習辞書	学習辞書.dir 学習辞書.key 学習辞書.ldc	優先される訳語
ユーザー辞書	***.dir	登録した訳語
専門語辞書	***.key ***.udc	分野別に専門用語を収録した辞書
翻訳メモリ	***.ty2 ***.ty2.en.idx ***.ty2.ja.idx	対訳文を登録したデータベース。対訳文は、文型を含むこともできる。

● ファイルを翻訳する

たとえばtestというテキストファイルを開いて翻訳し保存すると、test.etfファイルが作成されます。test.etfファイルを英→日で開くと、翻訳作業を再度実行できます。

● 訳語を学習する

翻訳作業中に[翻訳]—[現在の文書設定]—[EJ辞書]で「訳語を学習する」チェックボックスをオンにすると、訳語の学習情報がファイルに保存されます。学習情報は、学習辞書.dir、学習辞書.key、学習辞書.ldcの3つのファイルから構

成されています。保存場所は、以下のとおりです。

英→日の場合

ホームフォルダ:Library:Application Support:Cross Language
:MAC-TranSerV11(MED-TranSerV11):EJフォルダ



これら3つのファイルのうち、1つでも欠けると学習情報の参照ができなくなります。これらのファイルはまとめて管理し、削除しないでください。

学習情報を作り直す場合は、3つのファイルを削除して英→日を再起動します。新たにファイルが作成されます。

● ユーザー辞書を作成する

英→日では、独自にユーザー辞書を作成し、翻訳に使用することができます。ユーザー辞書は[翻訳]－[現在の文書設定]－[EJ辞書]で新規作成できます。詳細は、『3.5 ユーザー辞書の作成と選択』を参照してください。1つのユーザー辞書は、ここで作製されたファイル名に拡張子***.dir、***.key、***.udcを付加した3つのファイルで構成されます。保存場所は、以下のとおりです。

英→日の場合

ホームフォルダ:Library:Application Support:Cross Language
:MAC-TranSerV11(MAC-TranSerV11):EJフォルダ



これら3つのファイルのうち、1つでも欠けるとユーザー辞書の参照ができなくなります。これらのファイルはまとめて管理し、削除しないでください。

ユーザー辞書を削除する場合は、3つのファイルを削除します。

● ユーザー翻訳メモリを作成する

独自にユーザー翻訳メモリを作成し、翻訳に使用することができます。ユーザー翻訳メモリは[翻訳]－[現在の文書設定]－[翻訳メモリ]で新規作成できます。詳細は、『2.3 ユーザー翻訳メモリの作成と選択』を参照してください。1つのユーザー翻訳メモリは、ここで指定したファイル名に拡張子***.ty2、***.ty2.en.idx、***.ty2.ja.idxを付加した3つのファイルで構成されます。

英→日の場合

ホームフォルダ:Library:Application Support:Cross Language
:MAC-TranSerV11(MAC-TranSerV11):Commonフォルダ



これら3つのファイルのうち、どちらかでも欠けるとユーザー翻訳メモリの参照ができなくなります。これらのファイルはまとめて管理し、削除しないでください。

ユーザー翻訳メモリを削除する場合は、3つのファイルを削除します。

4.2.7 日→英が作成するファイル

Transterは、翻訳情報を保持した「翻訳ファイル」を作成したり、翻訳結果をテキストファイルに保存することができます。また、訳語の学習、ユーザー辞書の構築などにおいて辞書ファイルを作成します。

翻訳作業においてTransterが作成するファイルは以下のとおりです。

● ファイルの一覧

種類	ファイル名	説明
翻訳ファイル	***.jtf ***(txt).jtf ***(docx).jtf ***(xlsx).jtf ***(pptx).jtf ***(pdf).jtf	翻訳結果など、翻訳情報を保存
対訳テキスト	***(対訳).txt	"-"記号、原文、訳文の順で対訳をテキストファイルに保存
訳文テキスト	***(訳文).txt	訳文エリアの訳文のみをテキストファイルに保存
原文テキスト	***(原文).txt	原文エリアの原文のみをテキストファイルに保存
確認翻訳ファイル	***(確認翻訳).txt	確認翻訳モードで、確認翻訳エリアの和文のみをテキストファイルに保存
オフィス文書	***_E.docx ***_E.xlsx ***_E.pptx	翻訳結果を読み込みファイルのレイアウトで保存
学習辞書	学習辞書.jld	優先される訳語
ユーザー辞書	***.idx ***.jdc	登録した訳語
専門語辞書	***.idx ***.jdc ***.idp	分野別に専門用語を収録した辞書 ***.idpは専門語辞書のみ
翻訳メモリ	***.ty2 ***.ty2.en.idx ***.ty2.ja.idx	対訳文を登録したデータベース。 対訳文は、文型を含むこともできる。

● ファイルを翻訳する

たとえば「テスト」というテキストファイルを開いて翻訳し保存すると、「テスト.jtf」ファイルが作成されます。「テスト.jtf」ファイルを日→英で開くと、翻訳作業を再度実行できます。

● 訳語を学習する

「テスト」の翻訳作業中に[翻訳]－[現在の文書設定]－[JE辞書]で「訳語を学習する」チェックボックスをオンにすると、訳語の学習情報がファイルに保存されます。

学習情報は、「学習辞書.jld」ファイルに保存されています。

保存場所は、以下のとおりです。

日→英の場合

ホームフォルダ:Library:Application Support:Cross Language
:MAC-TranserV11(MAC-TranserV11):JEフォルダ

学習情報を作り直す場合は、「学習辞書」ファイルを削除して日→英を再起動します。新たにファイルが作成されます。

● ユーザー辞書を作成する

日→英では、独自にユーザー辞書を作成し、翻訳に使用することができます。ユーザー辞書は[翻訳]－[現在の文書設定]－[JE辞書]で新規作成できます。詳細は、『3.5 ユーザー辞書の作成と選択』を参照してください。1つのユーザー辞書は、ここで指定したファイル名に拡張子***.idx、***.jdcを付加した2つのファイルで構成されます。

保存場所は、以下のとおりです。

日→英の場合

ホームフォルダ:Library:Application Support:Cross Language
:MAC-TranserV11(MAC-TranserV11):JEフォルダ



これら2つのファイルのうち、どちらかでも欠けるとユーザー辞書の参照ができなくなります。これらのファイルはまとめて管理し、削除しないでください。

ユーザー辞書を削除する場合は、2つのファイルを削除します。

● ユーザー翻訳メモリを作成する

独自にユーザー翻訳メモリを作成し、翻訳に使用することができます。ユーザー翻訳メモリは[翻訳]－[現在の文書設定]－[翻訳メモリ]で新規作成できます。詳細は、『2.3 ユーザー翻訳メモリの作成と選択』を参照してください。1つのユーザー翻訳メモリは、ここで指定したファイル名に拡張子***.ty2、***.ty2.en.idx、***.ty2.ja.idxを付加した3つのファイルで構成されます。

日→英の場合

ホームフォルダ:Library:Application Support:Cross Language
:MAC-TranserV11(MAC-TranserV11)Commonフォルダ



これら3つのファイルのうち、どちらかでも欠けるとユーザー翻訳メモリの参照ができなくなります。これらのファイルはまとめて管理し、削除しないでください。

ユーザー翻訳メモリを削除する場合は、3つのファイルを削除します。

4.3 印刷

「プリント」は、原文、訳文、対訳文を印刷します。「印刷プレビュー」は、プリンタに印刷するイメージそのままを画面に表示する機能です。印刷する前に、印刷プレビューで改ページ位置などを確認することができます。

4.3.1 プリンタの設定

使用するプリンタの機種、用紙のサイズ、印刷の向きなどを設定します。この設定内容は保存されるので、変更がない限り再度設定する必要はありません。

手順

1. **【ファイル】－【ページ設定】**を選択します。

次のダイアログが表示されます。



2. 必要な項目を設定したら、**〈OK〉**をクリックします。

このダイアログは使用しているプリンタにより、内容が異なる場合があります。設定内容の詳細は、Mac OS XのMacヘルプ、または、プリンタのマニュアルの該当する項を参照してください。

4.3.2 プリント

Transerでは、原文、訳文、対訳文、また、選択範囲の印刷を行えます。

手順

1. 翻訳エディタを表示し[ファイル]メニューからプリント形式を選択します。

対訳…左に原文、右に訳文の対訳形式でプリントします。確認翻訳では左に原文、中央に訳文、右に確認翻訳文がプリントされます。

訳文…訳文エリアの文章がプリントされます。

原文…原文エリアの文章がプリントされます。

確認翻訳（確認翻訳モードで表示）

…確認翻訳エリアの和文がプリントされます。

プリント形式を選択すると、次のダイアログが表示されます。

2. 印刷する部数、開始ページ、終了ページなどを指定して、〈プリント〉をクリックします。

印刷が開始されます。

このダイアログは使用しているプリンタにより、内容が異なる場合があります。設定内容の詳細は、Mac OS XのMacヘルプの該当する項を参照してください。

第 5 章 環境の設定

この章の内容

Transerでは翻訳作業の環境を自由に設定することができます。環境を適切に設定することにより、翻訳時間を短縮し、翻訳精度を向上させることができます。

表示画面の設定も行えるので、必要に応じて見やすく使い慣れた画面を設計することもできます。

この章では、環境の設定について説明します。

5.1 翻訳に関する設定

Transerでは、翻訳する文書に合わせて翻訳方法、使用する辞書などの「翻訳設定」を行えます。また、翻訳設定を「スタイル」として保存することができます。翻訳する文書に合わせてスタイルを選択し、翻訳の基本的な設定を簡単に行うことができます。

メモ 「スタイル」機能は、MED-Transer エクスプレスには搭載されていません。

● スタイルの構成

スタイルには、Transerが提供している「システムスタイル」と、ユーザーが独自に作成する「ユーザースタイル」があります。

システムスタイルには、以下の種類があります。

MAC-Transerの場合

スタイル	対象とする文書
標準	MAC-Transerの初期設定
一般	ホームページなど大文字のタイトルが多く含まれる文。ポータルサイトでリンク項目が多いページ。
ニュース	新聞、ニュース系サイト
論文	学術論文、学術誌
マニュアル	取扱説明書、ユーザーズマニュアル
契約	仕様許諾、利用規約、契約書
ビジネスレター	ビジネスメール
スタイルなし	旧バージョンの設定

MED-Transerの場合

スタイル	対象とする文書
医学	MED-Transerの初期設定
歯学	歯学、口腔解剖学、歯科治療、歯科矯正に関する文書
論文	学術論文、学術誌
スタイルなし	旧バージョンの設定

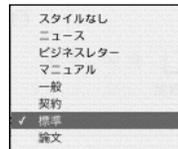
システムスタイルはサンプルであり、ユーザーが自由に変更することができます。たとえば、添付されている専門語辞書を設定して、スタイルを作り直すことができます。

- **スタイルの選択**

使用しているスタイルは、ツールバーのスタイル選択に表示されます。



スタイル選択の右にある◆をクリックすると、選択可能なスタイルが一覧表示されます。



使用するスタイルをクリックすると、設定されます。

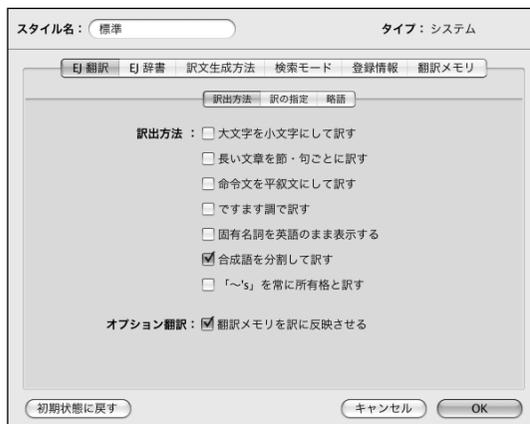
- **翻訳に関する設定**

翻訳の前に、翻訳する文書にあわせてスタイルを選択し、必要に応じて、選択したスタイルの翻訳設定を行います。翻訳設定の変更は、現在の文書設定ダイアログで行います。現在の文書設定ダイアログには、「EJ(JE)翻訳」タブ、「EJ(JE)辞書」タブ、「訳文生成方法」タブ、「検索モード」タブ、「登録情報」タブ、「翻訳メモリ」タブがあり、各タブで翻訳条件や使用する辞書、翻訳メモリの検索方法などを指定します。

5.1.1 現在の文書設定ダイアログ

[翻訳] – [現在の文書設定]を選択するか、ツールバーの〈現在の文書設定〉をクリックすると、翻訳条件や辞書、翻訳メモリの指定などの環境設定を行います。

現在の文書設定ダイアログには、設定内容を切り替えるためのタブがあります。



各タブをクリックして適切な環境設定を行います。

「スタイル名」には、選択しているスタイルの名称が表示されます。

〈OK〉をクリックすると、選択しているスタイルに設定内容が保存されます。システムスタイルの変更の場合、〈初期状態に戻す〉をクリックすると、当該タブの設定内容が、選択しているスタイルの初期状態に戻ります。

ユーザースタイルの変更の際〈初期状態に戻す〉をクリックすると、MAC-Transerの場合は「標準」スタイル、MED-Transerの場合は「医療」スタイルの設定になります。

〈キャンセル〉をクリックすると、設定を変更せずに翻訳エディタに戻ります。



「EJ(JE)辞書」タブに関する設定の詳細は『』、「訳文生成方法」タブ、「検索モード」タブ、「登録情報」タブ、「翻訳メモリ」タブに関する設定の詳細は『第 2 章 翻訳メモリ』を参照してください。

● スタイル名の変更

ユーザースタイルの場合、「スタイル名」に表示されている名称は変更することができます。適宜、「スタイル名」を修正してください。

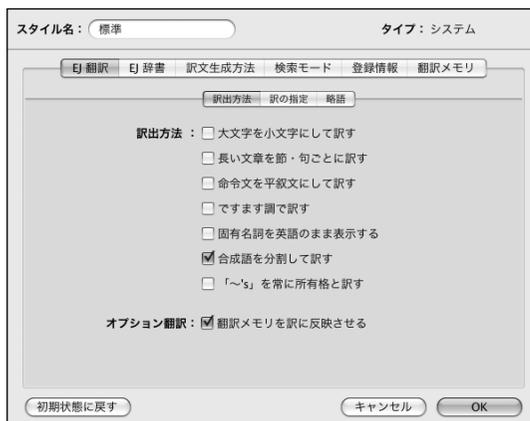
システムスタイルの名称を変更することはできません。

5.1.2 EJ翻訳

翻訳条件の設定を行います。ここで設定した内容に従って翻訳処理が行われます。「EJ翻訳」タブには、「訳出方法」タブ、「訳の指定」タブ、「略語」タブがあります。以降では各タブについて詳しく説明します。

5.1.2.1 訳出方法

「訳出方法」タブには、文章の翻訳方法に関する設定があります。「訳出方法」タブをクリックすると、次のダイアログが表示されます。



● 訳出方法

大文字を小文字にして訳す

大文字だけで書かれている文章の翻訳やいくつかの単語の頭文字が大文字になっている文を翻訳するような場合は、オンにしてください。

たとえばホームページには大文字だけで書いた文章が多いので、このチェックボックスをオンにします。

チェックボックスをオフにして以下の文章を訳すと、次のような結果になります。

I have a pen.	私は、ペンを持ちます。
I have a PEN.	私は、PENを持ちます。
I have A PeN.	私は、A PeNを持ちます。
I HAVE A PEN.	i HAVE A PEN。

チェックボックスをオンにすると、文中の大文字の単語を小文字にして訳すため、いずれも「私は、ペンを持ちます。」と訳されます。

システムが「タイトル文」と判断した文は、この項目の設定に従わずに大文字と小文字を区別しないで訳します。

長い文章を節・区ごとに訳す

和文の語順を普通の日本語の順序にするか、できるだけ元の英文の語順を保存するかを指定します。たとえば"I know that he is ill."という文は次のように訳出されます。

節・句ごとに区切らずに訳す……「私は、彼が病気であると知っている。」

節・句ごとに区切って訳す……「私は、知っている—彼は病気であると。」

特に長い文が多い場合は、節・句ごとに区切って訳した方が英文との対応が取りやすく理解もしやすくなります。

命令文を平叙文にして訳す

このチェックボックスがオフの場合、命令形の訳が「～しなさい。」(である調の場合)、あるいは「～してください。」(ですます調の場合)となります。オンの場合「～する。」、または「～します。」となります。マニュアルなどの翻訳で平叙文として訳す場合は、オンに設定します。

ですます調で訳す

このチェックボックスがオフの場合は「である調」で訳します。

文末を「である調」で訳すか、「ですます調」で訳すかを指定します。同じ文書の中ではどちらかに統一されます。

固有名詞を英語のまま表示する

ここで言う「固有名詞」とは、以下の特徴を持ちます。

冠詞がつかない

形容詞の修飾がつかない

名詞と複合語にすることができる

基本語辞書に「固有名詞」として、登録されている

たとえば、「Japan」は固有名詞で「日本」と登録されています。

このチェックボックスがオンの場合、固有名詞は翻訳されず、英語のままが表示されます。

合成語を分割して訳す

「合成語」とは、スペースやハイフンなしで結合された語を言います。

たとえば、"chlorohydroxooxophenylphosphorus"は、次の語が結合しています。

chloro, hydroxo, oxo, phenyl, phosphorus

このチェックボックスがオンの場合、chlorohydroxooxophenylphosphorusを分割したあと、各語の訳を結合して「クロロ・ヒドロキシ・オキシ・フェニル・リン」と訳されます。

オフの場合は、chlorohydroxooxophenylphosphorusが、1語として辞書に登録されていないと、英語のまま表示されます。

「～'s」を常に所有格と訳す

「～'s」を所有格として訳すかを指定します。

このチェックボックスがオンの場合、たとえば"Tom's hiking."という文は、「トムハイキング。」と訳されます。

オフの場合は、「トムはハイキングをしている。」と訳されます。

カタカナを「・」でつなぐ

カタカナの連結語の訳で中黒（・）を入れるかを指定します。

たとえば、"wireless headphone"を訳したときに「ワイヤレス・ヘッドホン」と中黒（・）を入れるか、または「ワイヤレスヘッドホン」と中黒（・）を入れないかを選択します。

- **オプション翻訳**

オプション翻訳の際、翻訳メモリを使用するかを指定します。オプション翻訳については、『1.8 英→日 オプション翻訳』を参照してください。

翻訳メモリを訳に反映させる

このチェックボックスがオンの場合、オプション翻訳の際に翻訳メモリを使用します。翻訳メモリの検索方法は、「訳文生成方法」の設定に従います。オフの場合、翻訳メモリを使用しません。

5.1.2.2 訳の指定

「訳の指定」タブでは、助動詞や接続詞、前置詞、冠詞・代名詞、その他をどのように訳すかを指定します。

各項目は初期状態で<<辞書の訳>>や<<自動変換>>となっていますが、学習された場合は、学習辞書の訳が優先されます。

「訳の指定」タブをクリックすると、次のダイアログが表示されます。

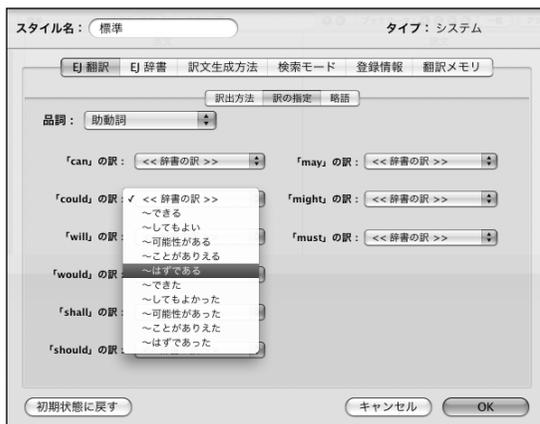


訳の指定方法

各項目の変更は次の手順で行います。

手順

1. 「品詞」の右にある◆をクリックして、変更する品詞を選択します。
 選択した品詞に対して、変更可能な項目が表示されます。
2. 各項目の「訳」の右にある◆をクリックします。
 変更可能な訳語の一覧が表示されます。



3. リストにある訳語をクリックして選択します。

選択した項目の「訳語」が変更されます。

【例】助動詞を例にして説明します。初期状態では、翻訳結果は次のようになります。

英文：She could go to the office.

結果：彼女は、オフィスに行くことができた。

ここで、"could"の訳を「~はずである」に設定します。

その結果、上記の例文の訳は次のようになります。
 結果：彼女は、オフィスに行くはずである。
 その他の訳も、同じように設定することができます。

助動詞の訳

can, will, mightなどは、助動詞以外にも他動詞、名詞などの訳語が登録されています。訳を「<<辞書の訳>>」とした場合は、構文によって、たとえばcanを「～を缶詰にする」と解釈することもあります。<<辞書の訳>>以外のものを指定した場合、指定した助動詞の訳だけで構文解析されます。

カタカナの長音

カタカナの訳で最後に長音「ー」をつけるかを指定します。

カタカナの連結文字

カタカナの連結語の訳で中黒（・）を入れるかを指定します。

たとえば、"wireless headphone"を訳したときに『ワイヤレス・ヘッドホン』と中黒（・）を入れるか、『ワイヤレス ヘッドホン』と半角スペースを入れるか、または『ワイヤレスヘッドホン』と中黒やスペースを入れないかを選択します。

数字（「その他」）

数字は"12345"、"1 2 3 4 5"、"一二三四五"、"一万二千三百四十五"、"1万2345"から指定できます。初期状態は「自動変換」です。自動変換では、"one hundred thirty"のような英語表現は「百三十」、"1,200"のような数字はそのまま数字に変換します。漢字表現は"千京"まで"きます。

英文字（「その他」）

英文字は、設定している辞書にあるものをそのまま使うのか、または、半角と全角のどちらかに統一するかを指定できます。

句読点（「その他」）

句点と読点は、全角文字を使うのか、半角文字を使うのかを指定できます。

記号（「その他」）

記号の訳に全角文字を使うのか、半角文字を使うのかを指定します。

ユーザー定義

接続詞、前置詞、冠詞・代名詞には、リストに新しい訳語を追加することができます。次の手順で行います。

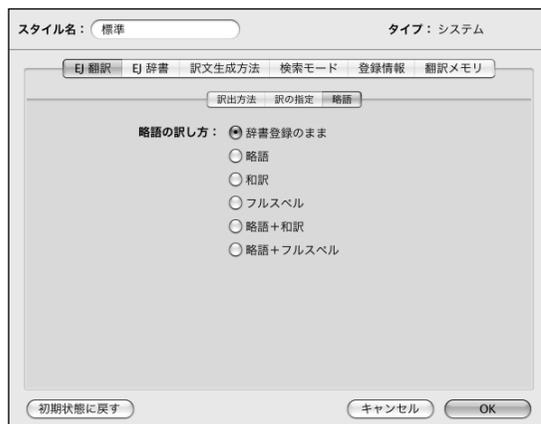
手順

1. 接続詞、前置詞、または、冠詞・代名詞の項目を選択して、ダイアログ下部にある「訳」の右にある◆をクリックします。
2. 一覧から「《ユーザー定義》」を選択します。
右側にテキストボックスが表示されます。

3. テキストボックスに新しい訳語を入力します。

5.1.2.3 略語

「略語」タブでは、略語の訳し方を指定します。
「略語」とは、「略語」意味素性で基本語辞書に登録されていて、英大文字、「-」、「&」、「/」、「.」、「数字」で構成されている語句を言います。また、訳語に見出し語と同じ文字列が（半角または全角で）登録されている必要があります。
「略語」タブをクリックすると、次のダイアログが表示されます。



訳し方では、「辞書登録のまま」、「略語」、「和訳」、「フルスペルのみ」、「略語+和訳」、「略語+フルスペル」を指定できます。ただし、フルスペルが登録されていない場合は、略語のまま表示されます。

たとえば、UNを訳すと、第一訳は以下のとおりになります。

訳し方	翻訳結果
辞書登録のまま	国連
略語	UN
和訳	国連
フルスペルのみ	United Nations
略語+和訳	UN（国連）
略語+フルスペル	UN（United Nations）

5.1.3 JE翻訳

翻訳条件の設定を行います。ここで設定した内容に従って翻訳処理が行われます。「JE翻訳」タブをクリックすると、次のダイアログが表示されます。

● 主語がないとき

日本語には、特に技術文書などで、前後の文との関係から主語が省略された文がよくあります。そのような文をどのような形式で翻訳するかを指定します。ここで設定した主語省略時の設定は、システム全体に反映されます。特定の文を、ここでの設定とは異なる形式で処理したい場合は、[オプション翻訳]を使用してください。

主語を補う

和文に主語がない場合、主語を補って翻訳します。補う主語は、「[S]、I、you、it、he、she、we、they」の8種類から選択できます。[S]はユーザ指定の主語を補います。ユーザ指定の主語は、[主語を補う]にある[S]を削除して、補う主語を直接入力します。何も指定しなければ、[S]が補われます。

原文：これを開発した。

they指定：They developed this.

ユーザ指定"Sam"：Sam developed this.

受け身にする

和文に主語がない場合、受動態の文として翻訳します。ただし、受動態になり得ない構文の場合は、「受け身にする」を指定しても、自動的に主語を補って翻訳されます。この場合の主語は、「主語を補う」で選択されたものです。

主語を省略する

和文に主語がない場合、主語を省略して翻訳します。訳出する動詞には、原形で訳す (Be/Take)、1人称単数形で訳す (Am/Take)、2人称単数及び複数形で訳す (Are/Take)、3人称単数形で訳す (Is/Takes) を指定できます。たとえば「昨日買い物に行きました。」という文を「Be/Take」を指定して訳すと「Went for shopping yesterday.」となります。

● 目的語がないとき

日本語には、英語のような他動詞（目的語を必要とする動詞）と自動詞（目的語を必要としない動詞）の区別がないため、「～を」という目的語がなくても文が成立しますが、英文では、意味が通りにくくなります。他動詞を含む英文で、原文に目的語がない場合の処理方法を設定します。

目的語を補う

このチェックボックスがオンの場合、目的語を補います。

補う目的語は、[O]、it、you、them、us、me、him、her、thatの9種類から選択できます。[O]はユーザー指定の目的語を補います。ユーザー指定の目的語は、[目的語を補う]の[O]を削除して、補う目的語を直接入力します。何も入力しなければ[O]が補われます。オフにすると、動詞が他動詞でも目的語を補いません。

原文：私が劇場へ連れて行った。

them指定：I took them to the theater with me.

ユーザー指定"Sam"：I took Sam to the theater with me.

● NOTの表記

否定を表すNOTを含む英文で、短縮形を使うかどうかを設定します。

「is not/cannot」をオンにすると原形で、「isn't/can't」をオンにすると省略形で翻訳します。

● 「～している」の訳

日本語で「～している」という文は、必ずしも現在進行形を表現しているとは限りません。英語ではむしろ現在形で訳した方が適当な場合が多くあります。このような文をどう訳すかを「現在形」、「現在進行形」、「完了形」から選択します。



和文が「～していた」のように過去形の場合はそれぞれ、「過去形」、「過去進行形」、「過去完了形」で翻訳されます。

● 未知語

未知語をどのように表示するかを指定します。未知語とは、辞書設定ダイアログで設定している辞書に登録されていない語句を言います。

未知語をローマ字にする

このチェックボックスがオンの場合、未知語をローマ字で表記し、文字色は「フォントと配色」タブの「翻訳しない」で指定した色になります。

オフの場合、未知語は日本語のまま訳文エリアに表示されます。

たとえば、以下のように訳出されます。

オフの場合の翻訳結果：this 閾値配列 is an arrangement of a value

オンの場合の翻訳結果：this iki value arrangement is an arrangement of a value

語句	ローマ字表記
関	iki
値	value
並び列	arrangement

この機能は、日本語の表示できないコンピュータに訳文を表示する、または訳文を読む対象者が漢字が読めない場合などに、利用できます。

しかし、翻訳結果がすべて英語で表示されるため、実際の未知語を一見して探し出すことは難しくなります。

● 冠詞推定

翻訳結果の英語に冠詞を付与するかを指定します。

自動

システムが自動的に推定します。

無冠詞優先

翻訳結果に冠詞を付与しません。ただし、最上級を表す場合や、定冠詞の付くべき名詞には、定冠詞が付きます。

● 数の訳

数字の翻訳方法を指定します。

「自動」を選択した場合、システムが自動的に推定します。

● オプション翻訳

オプション翻訳の際、翻訳メモリを使用するかを指定します。オプション翻訳については、『1.9 日→英オプション翻訳』を参照してください。

翻訳メモリを訳に反映させる

このチェックボックスがオンの場合、オプション翻訳の際に翻訳メモリを使用します。翻訳メモリの検索方法は、「訳文生成方法」の設定に従います。オフの場合、翻訳メモリを使用しません。

5.1.4 スタイルの作成と更新

Transerではシステムスタイルが提供されていますが、必要に応じて、ユーザーが独自のユーザースタイルを作成したり、システムスタイルの翻訳設定を変更することができます。

スタイルの作成と更新は、[翻訳]—[スタイル設定]で行います。
[翻訳]—[スタイル設定]を選択すると、次のダイアログが表示されます。



スタイルダイアログの項目は、以下のとおりです。

スタイル一覧

左側に、利用可能なスタイルの一覧が表示されます。

翻訳

翻訳方法が表示されます。

辞書

翻訳で使用する辞書が表示されます。

訳文生成方法

翻訳の際の翻訳メモリの検索方法が表示されます。

検索モード

翻訳メモリの検索方法や検索範囲が表示されます。

登録情報

翻訳メモリに対訳文を登録する際に付与する情報が表示されます。

翻訳メモリ

翻訳や検索で使用する翻訳メモリが表示されます。

- **設定内容の変更**

設定内容を変更する場合は、「スタイルの一覧」で変更するスタイルをダブルクリックするか、変更するスタイルを選択してから〈変更〉をクリックします。現在の文書設定ダイアログが表示されるので、設定を変更します。現在の文書設定ダイアログについては、『5.1.2 EJ翻訳』または『5.1.3 JE翻訳』を参照してください。

- **ユーザースタイルの新規作成**

ユーザースタイルを作成する場合は、〈新規〉をクリックします。スタイル一覧の最後に「新規」という名称のユーザースタイルが追加されます。適宜、設定内容を変更してください。

- **設定内容のコピーと削除**

スタイルをコピーしたり削除することができます。たとえば、ユーザースタイルを作成する際、システムスタイルのコピーを作成して、これを基にユーザースタイルを作成することもできます。

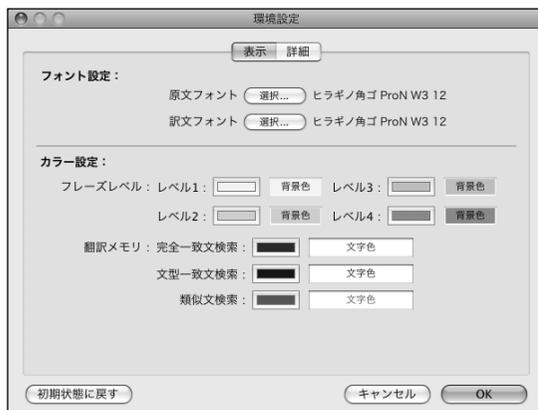
コピーは、「スタイルの一覧」でコピー元となるスタイルを選択してから、〈複製〉をクリックします。「スタイルの一覧」に、「コピー元のスタイル名+のコピー」という名前でスタイルが追加されます。

削除は、「スタイルの一覧」で削除するスタイルを選択してから、〈削除〉をクリックします。削除を確認するダイアログが表示されるので、〈OK〉をクリックします。

5.2 環境設定 表示

翻訳エディタに表示するフォント、フレーズ指定で使われる背景色、翻訳メモリで訳出された文の文字色を指定します。

[翻訳エディタ EJ(JE)]-[環境設定]-[表示]を選択すると、次のダイアログが表示されます。



● フォント指定

翻訳エディタで使用するフォントを指定します。

日→英の場合は、確認翻訳エリアで使用するフォントを指定することができません。

フォントを変更するには、各フォントの〈選択〉をクリックしてください。フォントパネルが表示されます。



ここで設定したフォントと配色は、翻訳エディタに反映されるものです。翻訳メモリ画面には、反映されません。

● カラー設定

フレーズレベル1~4

各フレーズの背景色を指定します。



ヒント

背景色によっては、文字が見えにくくなることがあるので、注意してください。

翻訳メモリ

翻訳メモリの検索結果から訳出された訳文の文字色を指定します。

各項目の色の変更

各項目の色を変更する場合は、矩形で表示されている色をクリックしてください。カラーパネルが表示されるので、色を指定します。このダイアログは使用しているシステムにより内容が異なります。設定内容の詳細は、Mac OS XのMacヘルプの該当する項を参照してください。

5.3 環境設定 詳細

翻訳実行時の進行状況や起動時のウィンドウ設定を行います。

[翻訳エディタ EJ(JE)]-[環境設定]-[詳細]を選択すると、次のダイアログが表示されます。



● 翻訳進行状況の表示設定

翻訳エディタでの翻訳実行状況の表示方法を指定します。

進行状況バーを表示する

この項目をオンにして翻訳を実行すると、翻訳エディタには翻訳の進捗を示すプログレスバーが表示され、翻訳が完了すると、翻訳結果が訳文エリアへ表示されます。

1文ごとに翻訳結果を表示する

この項目をオンにして翻訳を実行すると、翻訳エディタには、1文翻訳するごとにその結果が訳文エリアに表示されます。

また、この項目がオンの場合、「ページ切り替え」または「スクロール」を選択できます。

「ページ切り替え」を選択した場合は、翻訳結果がページ単位でスクロールしながら表示されます。

「スクロール」を選択した場合は、翻訳結果が、1文単位でスクロールしながら表示されます。

● エディタの表示設定

翻訳エディタに罫線を表示したり、色を指定したりできます。

水平罫線を表示する

このチェックボックスがオンの場合、翻訳エディタで1文ごとに罫線が挿入されます。

文の背景色を指定する

このチェックボックスがオンの場合、翻訳エディタで奇数番と偶数番の文ごとに背景色を指定できます。奇数番が背景色1、偶数番が背景色2です。

各背景色の矩形をクリックするとカラーパネルが表示されるので、色を指定します。このダイアログは使用しているシステムにより、内容が異なります。設定内容の詳細は、Mac OS XのMacヘルプの該当する項を参照してください。

編集モード切り替えエフェクト 日→英のみ

この項目をオンにすると、日→英で編集モードを変更する際に、ページをめくるような効果で切り替わります。

● 起動時の設定

Transerの起動時の動作を指定します。

スプラッシュウィンドウを表示する

このチェックボックスがオンの場合、Transerの起動時にスプラッシュウィンドウが表示されます。

新規ウィンドウを開く

このチェックボックスがオンの場合、Transerの起動時に新しい翻訳エディタが開きます。

● Web検索の設定

Web検索結果やWebページの翻訳結果の表示方法を指定します。

● 訳振りの設定

既に翻訳結果のある文において、翻訳結果を訳振りの訳出結果と置き換える場合、確認のメッセージを表示するかを指定します。

「訳文の採用時のメッセージを表示しない」チェックボックスがオンの場合、確認メッセージは表示されません。

オフの場合は、メッセージが表示されます。

- **翻訳メモリの設定**

翻訳メモリの準備と使用方法を指定します。

- **翻訳メモリの準備**

翻訳や検索に翻訳メモリを使用する場合、さまざまな準備が必要となり、この準備には多少の時間がかかります。ここでは、この準備作業をいつ行うかを指定します。

「アプリケーション起動時」を選択した場合、Transerの起動時に翻訳メモリの準備が実行されます。

「翻訳メモリ使用開始時」を選択した場合、翻訳や検索で翻訳メモリの初回使用時に準備が行われます。したがって、この場合、Transerの起動に要する時間が短縮されます。

Transerの操作において、翻訳メモリを一切使用しない場合は、「翻訳メモリ使用開始時」を選択して、さらに、現在の文書設定ダイアログの「訳文生成方法」タブにおいて「機械翻訳」チェックボックスのみをオンにします。

- **サービスメニューで翻訳メモリを使用する**

このチェックボックスがオンの場合、Mac OS Xのサービス機能から翻訳を実行する際、現在の文書設定ダイアログの「訳文生成方法」タブの設定に従って、翻訳メモリが使用されます。

- **確認翻訳の設定 日→英のみ**

このチェックボックスがオンの場合、日→英の確認翻訳モードで、確認翻訳エリアに表示される文書に英→日で設定した辞書の表示色が反映されます。

5.4 ツールバーカスタマイズ

ツールバーに表示するボタンの指定、ボタンの表示方法などを指定するには、**[表示]—[ツールバーをカスタマイズ]**を選択します。



ツールバーにボタンを追加する

一覧から任意のボタンを選択して、ツールバーにドラッグ&ドロップします。

ツールバーからボタンを削除する

使わないボタンをツールバーから一覧にドラッグ&ドロップします。

初期設定に戻す

一番下に表示されているデフォルトの設定を、翻訳エディタのツールバーにドラッグ&ドロップします。

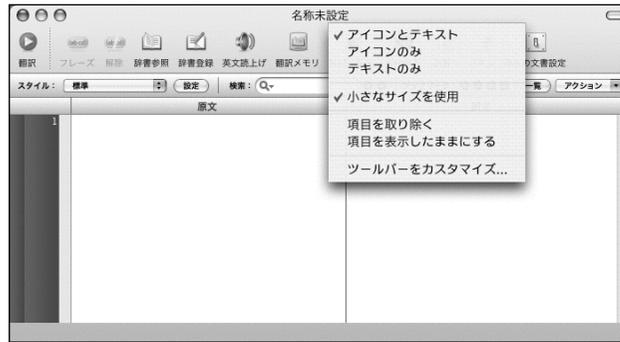
表示

ツールバーにアイコンとテキストをどのように組み合わせて表示するかを指定します。

〈完了〉をクリックすると、ツールバーのカスタマイズが完了します。

コンテキストメニューから選択

controlキーを押したままツールバーをクリックすると、ツールバーに関する次のコンテキストメニューが表示されます。



コンテキストメニュー内の項目をクリックすると機能が選択されます。機能を選択せずにメニューを消す場合は、メニューの外をクリックしてください。

5.5 表示メニューのコマンド

Transterでは、ツールバー、パネル、ペインの表示・非表示の切り替え、ペインのサイズ変更などを行えます。

- ツールバー

[表示]－[ツールバーを隠す（表示）]で、ツールバーの表示・非表示を切り替えます。

- パネル

[表示]－[パネルを開く（閉じる）]で、パネルの表示・非表示を切り替えます。または、ツールバーの  をクリックしても実行できます。

- ペイン

初期状態でパネルには、訳語ペインと辞書ペインが表示されています。
[表示]－[ペインの表示]－[訳語（辞書）]を選択してチェックマークをオン・オフすることによりペインの表示・非表示が切り替わります。
「ペインの順序を入れ替える」を選択すると、ペインの上下位置が入れ替わりま

第 6 章 その他の機能

この章の内容

Transerには、翻訳機能をサポートするいろいろな機能が組み込まれています。各種機能を活用することにより、翻訳作業を円滑に進めることができます。この章では、これらの機能について説明します。

6.1 翻訳パレット

「翻訳パレット」は、便利で手軽な翻訳コマンドの入ったツールバーです。翻訳パレットには、Webページの翻訳、翻訳エディタの起動、辞書検索機能などが登録されています。

ここでは、翻訳パレットの機能と操作方法について説明します。

6.1.1 翻訳パレットの起動と終了

● 翻訳パレットの起動

翻訳パレットを起動するには、以下のアイコンをダブルクリックします。

MAC-Transer

アプリケーション:MAC-Transer V11:翻訳メニュー 

MED-Transer

アプリケーション:MED-Transer V11:翻訳メニュー 

翻訳メニュー起動時の動作

翻訳パレットを起動すると、Transerをログイン項目に設定するかを確認するメッセージが表示される場合があります。ログイン項目に設定すると、ご使用のコンピュータにログインした時に自動的に翻訳メニューが起動します。

● 起動画面

翻訳メニューを起動すると、メニューバーの右端にアイコンが設定されます。また、翻訳パレットが起動して、次のツールバーが表示されます。



① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦

① ブラウザ翻訳

英文Webページを日本語にまたは日本語のWebページを英語に翻訳し、翻訳結果をブラウザに表示します。

ボタンを長押しして、翻訳モードを選択します。

② エディタEJ

英日翻訳エディタを起動します。

翻訳エディタでは、訳語の変更、ユーザー辞書の構築などを行えます。文章

の内容をより詳しく理解したい場合や、正確な翻訳を行いたい場合に使用します。

③ エディタJE

日英翻訳エディタを起動します。

翻訳エディタでは、訳語の変更、ユーザー辞書の構築などを行えます。文章の内容をより詳しく理解したい場合や、正確な翻訳を行いたい場合に使用します。

④ ワンポイント翻訳

Transerを起動せずに、英→日または日→英翻訳を実行できます。

⑤ 翻訳検索 英→日のみ

指定したキーワードをWebページで検索し、検索結果を翻訳してブラウザで表示します。

⑥ 辞書検索

超辞典 for Transerを起動します。

メモ このボタンは、超辞典 for Transerがインストールされている場合に表示されます。

⑦ 環境設定

ブラウザ翻訳で連携するブラウザの指定、翻訳パレットに表示するボタンの選択、翻訳で使用する辞書の指定など、翻訳パレットの環境設定を行います。

● 終了

翻訳パレットは翻訳パレットの左上にあるクローズボタンをクリックすると、閉じます。メニューバーの右端にあるアイコンをクリックして、「翻訳パレットを表示/非表示」を選択すると再度、表示されます。

翻訳メニューは、メニューバーの右端にあるアイコンをクリックして、「翻訳メニューを終了」を選択すると終了します。

翻訳メニューを終了すると、翻訳パレットも閉じて終了します。

● 翻訳メニュー

翻訳パレットの機能は、メニューバーの右端にあるアイコンから、起動することもできます。



各コマンドを選択すると機能が実行されます。

6.1.2 ブラウザ翻訳

「ブラウザ翻訳」機能は、ブラウザに表示した文章を、画像、表などのレイアウトを変えずに翻訳します。ブラウザ翻訳は、RSSに対応しているので、RSSで表示したページを翻訳することもできます。

英日翻訳を実行する場合は〈ブラウザEJ〉を、日英翻訳を実行する場合は〈ブラウザJE〉をクリックします。どちらの翻訳も手順は同じですが、ここでは、英日翻訳の例で説明します。



Transerと連携するブラウザを設定していない場合、〈ブラウザEJ(JE)〉をクリックすることはできません。ブラウザの設定は、〈設定〉をクリックすると表示される設定ダイアログの「ブラウザ翻訳」タブで行います。

手順は、以下のとおりです。



1. ブラウザで、翻訳するページを表示します。



2. 〈ブラウザEJ〉 をクリックします。

翻訳が開始され、翻訳状況のダイアログが表示されます。翻訳を中止するには、〈キャンセル〉をクリックしてください。

翻訳が終了すると、次の翻訳結果が表示されます。



ブラウザ翻訳は、環境設定ダイアログで設定する「翻訳」、「辞書」、「ブラウザ翻訳」の設定にしたがって実行されます。

● 翻訳しないタグ

いくつかのタグの間は、翻訳パレットの〈ブラウザ〉で翻訳を実行しても、翻訳されません。以下にあるタグの間を翻訳したい場合は、〈エディタ〉で翻訳を実行してください。

```
<MATH>.....</MATH>
<SELECT>....</SELECT>
<SCRIPT>....</SCRIPT>
```

<FRAME>タグ

<FRAME>タグを含むページの翻訳手順を説明します。以下の方法を順次行って、

翻訳を実行してください。

対処方1. 〈ブラウザ〉で翻訳する

翻訳するページを表示して、〈ブラウザEJ〉をクリックします。

この方法で正しく翻訳されない場合は、以下の手順を踏んでください。

対処方2. コマンドキー+Cでコピーして、〈エディタ〉で翻訳する

1. Webページの翻訳したい部分を選択して、コマンドキー+Cを押します。
2. 〈エディタEJ〉または〈エディタJE〉をクリックして、翻訳エディタを起動します。
3. 翻訳エディタの新規画面に、コマンドキー+Vでコピーしたテキストを貼り付け、[翻訳]—[全文翻訳]を実行します。
4. 貼り付けたテキストの全文が翻訳されます。

この方法で正しく翻訳されない場合は、以下の手順を踏んでください。

対処方3. 「フレーム」を新しいウィンドウで開いてから翻訳する

ブラウザによっては、「新しいウィンドウでフレームを開く」コマンドがありません。

1. 翻訳するフレームにマウスポインタを置いて、controlキーを押しながらクリックします。
2. 表示されたコンテキストメニューにある「新しいウィンドウでフレームを開く」を選択します。
新しいウィンドウが開きフレームの内容が表示されます。
3. をクリックします。
4. 翻訳が実行されます。

メモ コンテキストメニューに「新しいウィンドウでフレームを開く」コマンドがない場合でも、ダウンロードサービスなどで提供されていることがあります。各ブラウザのホームページを参照してください。

● 翻訳結果の日本語が正しく表示されない場合の対処法

翻訳結果の日本語が正しく表示されない場合、ブラウザを次のように設定してください。

対処1. 表示文字コードを「日本語（Shift-JIS）」と設定する。

ブラウザの表示文字コードを「日本語（Shift-JIS）」と設定してください。設定方法は各ブラウザによって異なります。

Safari Ver. 3では、[表示]—[テキストエンコーディング]—[日本語（Shift JIS）]を選択します。

対処2 「スタイルシートを使用しない」と設定する。

ブラウザで「スタイルシートを使用しない」と設定してください。設定方法は各ブラウザによって異なります。

Safari Ver. 3では、[Safari]－[環境設定]を選択して「詳細」項目にある「スタイルシート」を「選択されていません」と設定します。

● 翻訳結果を原文と同じページに表示

ひとつのWebページに一段落ごとに原文、訳文の順で表示できます。設定ダイアログの「ブラウザ翻訳」タブにある「原文と訳文を同じページに表示」チェックボックスをオンにして、「ブラウザ」をクリックしてください。

6.1.3 エディタEJ/JE

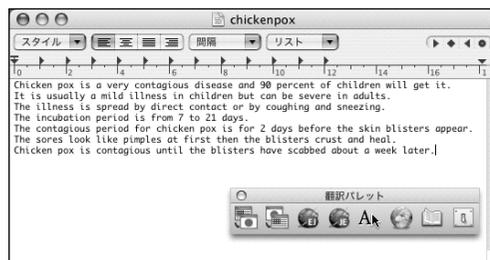
このボタンをクリックすると、翻訳エディタを起動します。Webページや他のアプリケーションにある文章を翻訳エディタに貼り付けて翻訳できます。翻訳エディタでは、訳語の変更、フレーズ翻訳、ユーザー辞書の更新などブラウザ翻訳ではできなかった翻訳結果の編集を行うことができます。また、翻訳結果を印刷したり、テキストファイルに保存することができます。英日翻訳を実行する場合は〈エディタEJ〉、日英翻訳を実行する場合は〈エディタJE〉をクリックします。どちらの翻訳も手順は同じですが、ここでは、英日翻訳の例で説明します。手順は、以下のとおりです。

手順

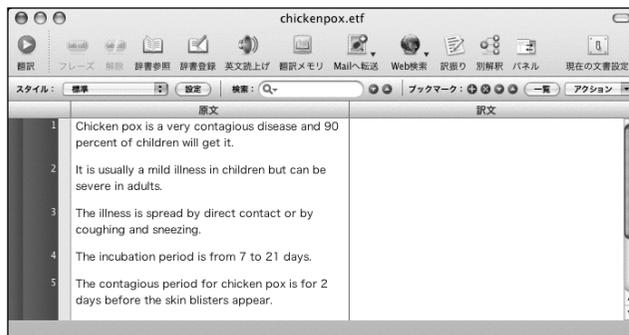
1. 〈エディタEJ〉をクリックします。

翻訳エディタが開いていない場合は、新規に翻訳エディタが開きます。既に翻訳エディタが開かれている場合は、直前にアクティブだった翻訳エディタがアクティブになります。必要に応じて、[ファイル]－[新規]を選択して新しい翻訳エディタを開いてください。

2. 任意のアプリケーションの翻訳する文章を選択して、コマンドキー+Cを押して、コピーします。



3. 翻訳エディタでコマンドキー+Vを押して、文章を貼り付けます。



4. 翻訳作業を行います。

6.1.4 ワンポイント翻訳

「ワンポイント翻訳」では、Transerを起動していない状態でも、英→日または日→英翻訳を実行できます。

ワンポイント翻訳の手順は以下のとおりです。

手順

1. 「ワンポイント翻訳」をクリックします。

ワンポイント翻訳ウィンドウが表示されます。



2. 翻訳言語を選択します。「英語→日本語」の横の◆をクリックし、プルダウンメニューから翻訳言語の組み合わせを選択します。
3. 「原文」に翻訳する文を入力し「翻訳」をクリックします。

「訳文」に訳文が表示されます。



翻訳設定や辞書設定は、翻訳パレットの〈設定〉で設定できます。

6.1.5 翻訳検索 英→日のみ

「翻訳検索」は、指定したキーワードをWebページで検索し、検索結果を翻訳してブラウザに表示します。

検索では、以下の検索エンジンを使用することができます。

- Google
- Wikipedia
- Yahoo

MED-Transerの場合

以下の検索エンジンを使用することができます。

- PubMed
- Google
- Wikipedia
- Yahoo

手順は以下のとおりです。

手順

1. 〈翻訳検索〉  をクリックします。

翻訳検索ダイアログが表示されます。



2. 「検索エンジン」の  をクリックすると表示される一覧から検索エンジンを指定します。
3. 入力ボックスに検索するキーワードを入力します。
4. 検索結果を翻訳する場合は、「検索結果を翻訳する」チェックボックスをオンにして〈検索〉をクリックします。

検索結果が翻訳されて、ブラウザに表示されます。



● キーワードの入力

検索で使用できるキーワードは英語のみですが、キーワードの入力は英語または日本語で行えます。ここでは、キーワードの入力方法について説明します。

キーワードを英語で入力

キーワードを英語で入力した場合、スペルチェックを行えます。「候補を表示する」チェックボックスをオンにして、キーワードを入力します。キーワードにミススペルの可能性がある場合、候補が表示されるので、適切な語句を選択して正しいスペルに修正できます。



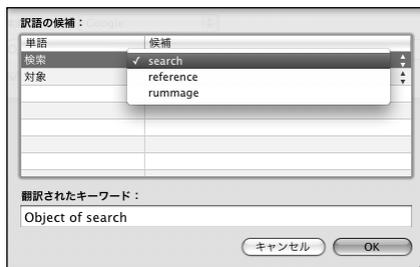
複数の候補がある場合は候補欄に◆が表示されます。◆をクリックすると候補が一覧表示されるので、クリックして選択します。

候補を選択して〈OK〉をクリックすると検索が実行されます。

キーワードを日本語で入力

キーワードを日本語で入力した場合、英語に翻訳できます。「候補を表示する」チェックボックスをオンにして、キーワードを日本語で入力すると、キーワードが英語に翻訳されます。キーワードが複合語の場合は各語の訳語が表示されます。たとえば、キーワードに「検索の対象」と入力すると「検索」と「対象」の訳語が表示されます。

複数の候補がある場合は候補欄に◆が表示されます。◆をクリックすると候補が一覧表示されるので、適切な語句を選択します。



候補を選択して〈OK〉をクリックすると検索が実行されます。

6.1.6 辞書検索

〈辞書検索〉は、「超辞典 for Transer」を起動します。辞書引きでは、超辞典ブラウザで「研究社 新英和/和英中辞典」を検索できます。

MAC-Transer プロフェッショナルは、「リーダーズ英和/和英」と「リーダーズプラス英和/和英」も検索することができます。リーダーズとリーダーズプラスを検索するためには、別途インストールが必要です。インストール手順については、『導入ガイド』を参照してください。

メモ このボタンは、超辞典 for Transerがインストールされている場合、表示されます。

MED-Transerの場合

「研究社 新英和/和英中辞典」、「ステッドマン医学大辞典」、「ステッドマン医学略語辞典」(英→日)、「南山堂医学英和辞典」(英→日)、「研究社医学英和辞典」(英→日)を一括で検索します。

辞書検索の手順は以下のとおりです。

手順

1. 〈辞書検索〉をクリックします。

超辞典 for Transerが起動し、次のダイアログが表示されます。



2. 「検索語」に文字列を入力しreturnを入力すると、検索結果が表示されます。



超辞典の機能については、『超辞典のヘルプ』を参照してください。

6.1.7 設定

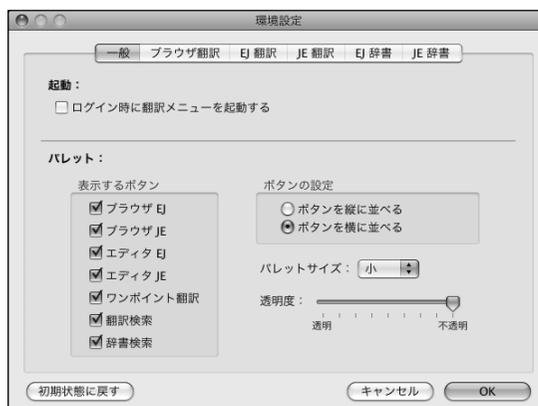
〈設定〉では、翻訳パレットの環境設定を行います。環境設定には、翻訳条件の設定、連携するブラウザの設定、翻訳パレットに表示するボタンの設定、翻訳の条件、翻訳に使用する辞書の設定などがあります。をクリックすると、環境設定ダイアログが表示されます。



各タブの〈初期状態に戻す〉をクリックすると、そのタブだけでなくすべてのタブの設定が、システムの初期状態に戻りますのでご注意ください。

6.1.7.1 一般

翻訳パレットのボタンの表示方法を設定します。



● ログイン時に翻訳メニューを起動する

このチェックボックスがオンの場合、ご使用のコンピュータにログインした時に自動的に翻訳メニューが起動します。
オフの場合は、ログイン後、翻訳メニューアイコンをクリックして起動します。

● パレット

表示するボタン

翻訳パレットに表示するボタンを設定します。
チェックボックスをオンにしたボタンが表示されます。

ボタンの設定

翻訳パレットを縦または横に並べます。

パレットサイズ

翻訳パレットに表示されるボタンの大・小を指定します。大きく表示した場合、

ボタン名が表示されます。

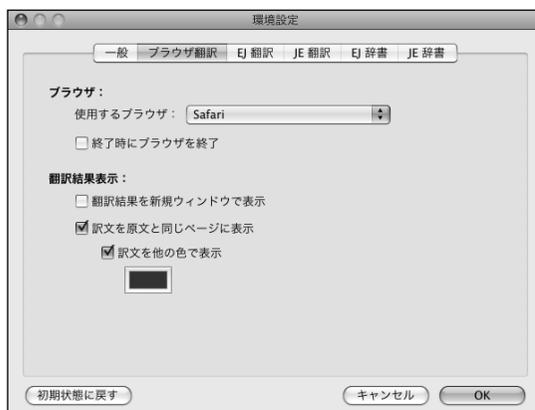
透明度

翻訳パレットを他のアプリケーションの上に配置する場合の透明度を指定します。

バーのつまみを「透明」に近づけると、翻訳パレットが透けて、下部に配置されているウィンドウが透けて見えます。

6.1.7.2 ブラウザ翻訳

翻訳パレットの〈ブラウザEJ(JE)〉で翻訳した結果の表示方法の設定などを行います。



● ブラウザ

使用するブラウザ

SafariまたはFirefoxに連携して翻訳することができます。「使用しない」を選択すると、ブラウザ翻訳を行いません。

終了時にブラウザを終了

このチェックボックスがオンの場合、翻訳メニューの終了時にブラウザも同時に終了します。

- **翻訳結果表示**

翻訳結果を新規ウィンドウで表示

翻訳結果のWebページを、新しくウィンドウを開いて表示するか、または同じウィンドウに上書きして表示するかを指定します。

訳文を原文と同じページに表示

このチェックボックスがオンの場合、翻訳結果を一段落ごとに原文、訳文の順で表示します。また、オンの場合、次の項目を設定できます。

訳文を他の色で表示

このチェックボックスがオンの場合、訳文を下部の矩形で指定した色で表示します。色を変更する場合は、矩形をクリックしてください。カラーパネルが表示されるので、色を指定します。このダイアログは使用しているシステムにより、内容が異なる場合があります。設定方法の詳細は、Mac OS XのMacヘルプの該当する項を参照してください。このチェックボックスがオフの場合、訳文の文字色は原文と同じ文字色で表示されます。

6.1.7.3 EJ翻訳

〈ブラウザEJ〉で英語のホームページを日本語に翻訳する際の、翻訳方法を設定します。詳細については、『5.1.2 EJ翻訳』を参照してください。

6.1.7.4 JE翻訳

〈ブラウザJE〉で日本語のホームページを英語に翻訳する際の、翻訳方法を設定します。詳細については、『5.1.3 JE翻訳』を参照してください。

6.1.7.5 EJ辞書

〈ブラウザEJ〉で英語のホームページを日本語に翻訳する際に使用する辞書を設定します。詳細については、『3.5 ユーザー辞書の作成と選択』を参照してください。

6.1.7.6 JE辞書

〈ブラウザJE〉で日本語のホームページを英語に翻訳する際に使用する辞書を設定します。詳細については、『3.5 ユーザー辞書の作成と選択』を参照してください。

6.2 訳振り

訳振りはキャラット位置の文を構文解析し、「訳振り」ペインに各語句の訳語ルビを表示する機能です。単語や語句の意味を調べたり、文を斜め読みして大まかな内容を把握するのに便利です。

訳振りペインで訳語を変更し、訳文として翻訳エディタに貼り付けることもできます。

手順は以下のとおりです。

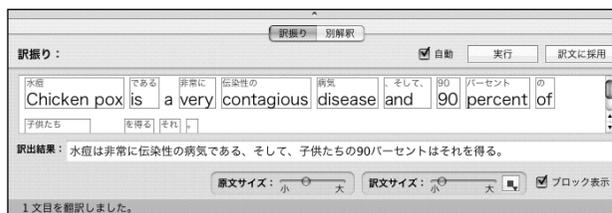
手順

1. 翻訳エディタで訳振りを実行する文にキャラットを置きます。

2. [翻訳]－[訳振り]を選択します。

訳振りペインにキャラット位置の文が表示され、各語句の上部には訳語が表示されます。

ここでは、設定している辞書に登録されている訳語の中で、翻訳時に使用される訳語が表示されます。



● 訳文に採用

「訳出結果」には、訳語ルビを訳語として採用した翻訳結果が表示されます。

〈訳文に採用〉をクリックすると、「訳出結果」にある訳文が翻訳エディタのキャラット位置の訳文と置き換わり、ロックがかかります。

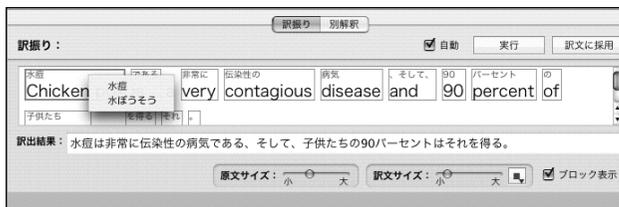
既に翻訳結果がある場合、上書きするか確認するメッセージが表示されます。

上書きを指定した場合、ロックがかかっている文も上書きされます。

確認メッセージの表示・非表示は、確認メッセージの「次回からこのメッセージを表示しない」チェックボックスのオン・オフで切り替えます。また、環境設定ダイアログの「詳細」タブでも行えます。

● 訳語変更

訳振りペインで任意の語句をクリックすると、訳語の一覧が表示されます。表示された訳語の中から適切なものをクリックすると、訳語が置き換わります。



訳振りで実行した訳語変更は、学習されません。

● 訳振りの自動実行

訳振りは、翻訳エディタでキャレット位置にある文に訳語ルビを振ります。訳振りペインの「自動」チェックボックスがオンの場合、翻訳エディタでキャレットを移動すると、キャレット位置の文を訳振りペインに表示して、訳振りを実行します。

キャレットの移動に合わせて訳振りを行わない場合は、「自動」チェックボックスをオフにして、訳振りを実行する文にキャレットを置いて訳振りペインの〈実行〉をクリックします。

● 表示方法の変更

文字のサイズを変更したり、語句ごとに矩形で囲んだ「ブロック」の表示・非表示を指定することができます。

文字サイズの指定

原文サイズまたは訳文サイズにあるつまみを「大」または「小」へ移動する文字のサイズが変更されます。

文字色の指定

訳語ルビの文字色を指定することができます。「訳文サイズ」の横にある矩形をクリックすると色の一覧が表示されます。一覧にある色をクリックすると指定した色で訳語ルビが表示されます。

ブロックの表示

訳語ルビごとに語句を区切り、矩形で囲むことができます。「ブロック表示」がオンの場合、ブロックは表示されます。オフの場合、ブロックは表示されません。

● 閉じる

ツールバーの〈訳振り〉をクリックすると、訳振りペインの開く／閉じるが切り替わります。また、[表示]－[訳振りを表示（閉じる）]を選択しても切り替わります。

6.3 読み上げ

Mac OS Xのスピーチ機能を使って、英文を読み上げることができます。

手順は以下のとおりです。

手順

1. 読み上げを実行する文にカーレットを置きます。英→日では原文エリア、日→英では訳文エリアの文にカーレットを置きます。
カーレットのある文の先頭から、読み上げが実行されます。
2. <読み上げ>  をクリックするか、[ツール]—[スピーチ]—[読み上げを開始]を選択します。

読み上げが開始され、カーレットのある文以下を次々に読み上げます。中止するには<読み上げ停止>  をクリックするか、[ツール]—[スピーチ]—[読み上げを停止]を選択します。

6.4 Mailへ転送

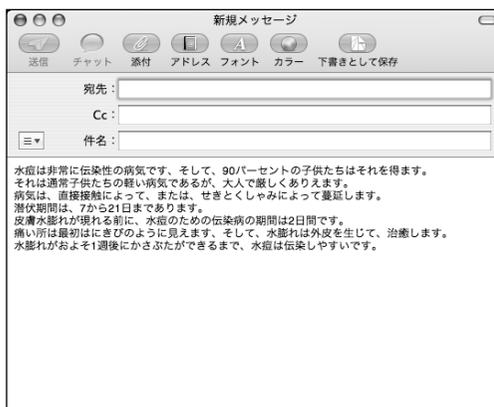
翻訳エディタの翻訳結果を、Mac OS XのMailに転送することができます。

手順は以下のとおりです。

手順

1. 翻訳エディタで翻訳を行います。
2. <Mailへ転送>  をクリックするか、[ファイル]—[Mailへ転送]—[訳文テキスト形式]を選択します。

訳文がMailの新規メッセージの本文に転送されます。



Mailへの転送は、「訳文テキスト形式」、「原文テキスト形式」、「対訳テーブル形式」で行えます。[ファイル]－[Mailへ転送]のサブメニューから選択するか、〈Mailへ転送〉を長押しすると表示されるプルダウンメニューから選択してください。

6.5 スペルチェック

Mac OS Xのスペルチェック機能を使って、英文のスペルチェックを行います。手順は以下のとおりです。

手順

1. スペルチェックを行うエリアにカーレットを置きます。英→日では原文エリア、日→英では訳文エリアにカーレットを置きます。
カーレットのあるエリアの先頭から、チェックが実行されます。
2. [ツール]－[スペルチェック]を選択します。
スペルミスが見つかったと、次のダイアログが表示されます。



OSのバージョンによっては、スペルチェックのみで文法チェックを行わない場合があります。

3. 〈次を検索〉をクリックすると、スペルチェックが開始されます。
スペルミスと判断された単語が見つからない場合は、ステータスバーにスペルチェックが終了したというメッセージが表示されます。
4. 候補リストの単語に置き換える場合は、候補リストから単語を選択して〈追加〉を、置換せずにチェックを続ける場合は〈無視〉をクリックします。
5. 文法チェックを行う場合は、「文法をチェック」チェックボックスをオンにして、このコマンドを実行します。
6. チェックを中止するには、クローズボタンをクリックします。

スペルチェックはMac OS Xの機能を使用しているため、スペルチェック用の辞書はTranserの基本語辞書や専門語辞書とは異なります。このため、Transerの辞書にある語でもスペルミスとして指摘されることがあります。

6.6 ロックとロック解除

「ロック」は再翻訳を行いたくない文章に🔒マークを付け、その文章の翻訳結果を保存するものです。

翻訳結果の訳文を直接編集したり、別解釈コマンドや学習機能を使わずに訳語変更を行って訳文を修正しても、その文を再翻訳すると、元の翻訳結果に戻ってしまいます。このように一文翻訳や全文翻訳で再翻訳したくない文を保護するのが、「ロック」機能です。



日→英の確認翻訳モードの場合、ロックした文であっても、訳文エリアの英文は翻訳されて確認翻訳エリアに結果が表示されます。

ヒント

● マウス操作で実行する

ロックする文の属性エリアにマウスポインタを移動し、マウスポインタが矢印から鍵の形🔑に変わったところでクリックすると🔒が付き、文がロックされます。
🔒を直接クリックするとマークが消えて文のロックが解除されます。

● メニューから実行する

ロック/ロック解除は、以下の手順で実行します。

手順▶

1. ロック（ロック解除）する文にキャレットを置きます。

連続する文章を処理したい場合は、文章を選択してください。

2. [翻訳]－[ロック（ロック解除）]を選択します。

指定した文または選択した文章がロック（ロック解除）されます。

● 複数文のロック/ロック解除

属性エリアにマウスポインタを移動し、マウスポインタが矢印から鍵の形🔑に変わったところでそのままドラッグすると、複数文のロック/ロック解除が実行されます。

6.7 Spotlightで検索

Mac OS XのSpotlight機能を使って、翻訳ファイルや原文、訳文、対訳ファイルを迅速に検索できます。検索は、ファイル名からまたはファイルに含まれる語句から実行できます。

手順は以下のとおりです。

手順

1. メニューバーの右端にある🔍アイコンをクリックします。
2. 「Spotlight」に検索する語句を入力すると、瞬時に検索結果が表示されます。



Spotlightに関する詳細は、Mac OS XのMacヘルプの該当する項を参照してください。

6.8 アップデートを確認

クロスランゲージでは、製品ごとにアップデートプログラムをリリースする場合があります。「アップデートの確認」機能は、ご使用のソフトウェアにアップデートプログラムの適用が必要なのかチェックします。ご使用の製品のバージョンより新しいバージョンのプログラムがある場合は、ダウンロードサイトからアップデートプログラムをダウンロードしてください。

前回Transerを起動した時から24時間以上経過している場合、Transerの起動時に自動的にダウンロードサイトをチェックします。

また、[翻訳エディタ EJ(JE)]-[アップデートを確認]を選択しても、ダウンロードサイトをチェックします。

● アップデートプログラムの適用が必要な場合

アップデートプログラムの適用が必要な場合、次のダイアログが表示されます。



〈ダウンロードページへ〉をクリックすると、ブラウザが起動して、アップデートプログラムのダウンロードサイトが表示されますので、ダウンロードを行ってください。

● アップデートプログラムの適用が不要な場合

アップデートプログラムの適用が不要な場合、次のダイアログが表示されます。



〈確認〉をクリックすると、ダイアログを閉じます。

6.9 編集メニューのコマンド

翻訳エディタでは、ワープロと同じように英文や訳文を編集したり、文字列を検索、置換することができます。ここでは、翻訳エディタでの編集機能について説明します。

6.9.1 取り消し

カット、ペーストで行った文の編集を元の状態に戻します。複数文に対してもカット、ペーストの「取り消し」を実行できます。



文番号を変更して新しい処理を行うと、その直前に処理した文番号の「取り消し」は行われません。「取り消し」は、同一の文番号内での処理に限られます。

6.9.2 カット・コピー・ペースト・削除

カットは、選択した範囲を切り取って、その内容をクリップボードに保管します。

コピーは、選択した範囲の内容をクリップボードに保管します。

ペーストは、クリップボードの内容をキャレット位置に挿入（ペースト）します。カット、コピーなどのコマンドにより、クリップボードにデータが保管されている場合のみ実行することができます。

削除は、選択した範囲を切り取って、その内容はクリップボードに保管しません。

カット、コピー、ペースト、削除は、以下の手順で行います。

手順

1. 編集する文字列を選択します。

編集の対象として指定された文字列が反転表示されます。

2. [編集]－[カット]、[コピー]、[ペースト]、または[削除]を選択します。



誤ってカット、削除した場合は、取り消しを選択すると直前の文に戻ります。

ヒント

6.9.3 文書の選択

● エリアの選択

キャレットのある原文エリアまたは訳文エリアを選択します。

手順

1. 選択したい原文、または訳文エリアの任意の位置にキャレットを置きます。

2. [編集]－[すべてを選択]を選択します。

キャレットのあるエリアが選択状態になります。

選択をキャンセルする場合は、任意の位置でクリックします。

これで、原文エリアまたは訳文エリアの文全体が選択範囲に設定されました。

● 文書全体の選択

[編集]－[対訳文のすべてを選択]を選択すると、文書全体が選択されます。

または、原文エリアと訳文エリアが同時に選択状態のときに[編集]－[すべてを選択]を選択すると、全文書が選択されます。原文エリアと訳文エリアを同時に選択状態にするには、原文の任意の位置から中央ラインを超えて訳文の任意の位置までドラッグして選択してください。

6.9.4 検索と置換

「検索」コマンドは、指定した文字列を検索または置換する機能です。このコマンドは、キャレットがある位置から、キャレットのあるエリアだけで実行されます。



検索／置換の手順は以下のとおりです。

手順

1. 検索を実行したいエリアの開始する位置にカーレットを置いて、[編集]－[検索]－[検索]を選択します。



このコマンドはカーレットのあるエリア（原文または訳文のどちらか一方）で実行されます

2. 「検索文字列」に捜したい文字列を入力します。置換したい場合は、「置換文字列」に置換する文字列を入力します。

既に置換や検索が行われていた場合は、直前に指定した文字列が「検索文字列」に代入されます。また、翻訳エディタで、捜したい文字列を選択して[編集]－[検索]－[選択部分を検索に適用]を選択してから、検索コマンドを選択すると、選択した文字列が「検索文字列」に代入されます。

3. 英語の大文字と小文字を区別せずに検索する場合は、「大／小文字を無視」チェックボックスをオンにします。

4. すべての項目を正しく入力したら、検索を実行します。カーレット位置から下方向へ検索を実行する場合は〈次へ〉を、上方向へ検索を実行する場合は〈前へ〉をクリックします。

検索文字列が見つかると検索結果が反転表示されます。見つからない場合は、検索ダイアログに「見つかりません」と表示されます。

5. 文字列を置換する場合は〈置き換え〉を、置換して再検索を行う場合は〈置き換えて検索〉をクリックします。

確認なしで一斉にすべての文字列を置換するには、〈すべて置き換え〉をクリックします。

● 次を検索、前を検索

検索で指定した文字列を再度検索します。このコマンドは、「検索」コマンドで「検索文字列」を指定したあとに実行できます。

● 選択部分の置換

翻訳エディタの任意の部分を選択して、検索ダイアログの「選択部分」をオンにして、〈すべて置き換え〉をクリックすると、選択した部分のみの一斉置換を行えます。

- 簡易検索機能

語句の検索は、翻訳エディタにある \mathcal{A} に語句を入力して「▼」をクリックすると、キャレットのあるエリアで下方方向に検索が実行されます。上方方向に検索を実行する場合は、語句を入力して「▲」をクリックします。

6.9.5 マルチファイル検索

「マルチファイル検索」は、Transerが翻訳可能な、翻訳ファイル、テキストファイルや対訳ファイルを検索する機能です。検索は、検索対象とする場所、ファイル名またはファイル自体に含まれる語句などから実行できます。

[編集]ー[検索]ー[マルチファイル検索]を選択すると、マルチファイル検索ダイアログが表示されます。



検索条件を設定して、〈検索〉をクリックすると、ファイルの検索を実行します。

マルチファイル検索ダイアログでは、以下のオプションを設定できます。

- 検索文字列

検索する文字列を指定します。「検索条件」により、ファイル名、ファイルに含まれる語句などの指定となります。

- 検索パス

「対象」から、検索対象とする場所を指定します。

ハードディスク全体

ハードディスク全体を検索します。

検索ディレクトリを指定する

検索対象とするフォルダを指定します。

「+」をクリックして表示されるダイアログから、フォルダを指定すると、検索対象の一覧に追加されます。

検索対象の一覧から外す場合は、パスを選択してから「-」をクリックします。

検索対象の一覧を空欄にする場合は、〈検索パスをクリア〉をクリックします。

● 検索ファイル

検索対象とするファイルの種類を指定します。

チェックボックスがオンの場合、検索対象となります。

● 検索条件

「検索条件」から検索対象とする条件を指定します。

「検索文字列」で指定した文字列が、ファイル名に含まれるのか、または、ファイルの内容に含まれるのかを指定できます。

● 検索の実行

〈検索〉をクリックすると、ファイルの検索が開始されます。

検索結果はダイアログ下部の「検索結果」に表示されます。



● 検索結果の表示

検索結果のファイルを開いたり、Finderで表示することができます。

ファイルを開く

検索結果で、開きたいファイルを選択してから〈ファイルを開く〉をクリックすると、Transerが起動して、当該ファイルが読み込まれます。

Finderに表示

ファイルを選択してから〈Finderに表示〉をクリックすると、Finderに当該ファイルの位置が表示されます。

検索結果をクリア

検索結果の一覧を空欄にする場合は、〈検索結果をクリア〉をクリックします。

6.9.6 ジャンプ

[編集]－[ジャンプ]は、指定の文番号にキャレットを移動する機能です。長い文書の場合には、的確に素早く移動できるので便利です。



「ジャンプ」の手順は以下のとおりです。

手順

1. テキストボックスに移動先の文番号を入力します。
2. 〈実行〉をクリックします。

画面がスクロールして、指定の文番号にジャンプします。

〈キャンセル〉をクリックすると翻訳エディタに戻ります。

テキストボックスにその文書の最後の文番号より大きい番号を入力すると、最後の文に移動します。スクロールをするには、画面右側のスクロールバーを利用する方法があります。最上段と最下段の矢印をクリックすると、一文ごとに前進後退します。また、スクロールボックスをドラッグしてスクロールバーの相対位置に対応した文番号を表示できます。



スクロールしただけでは、キャレットは移動しません。

6.9.7 ブックマーク

Transerでは、再校正、再確認、再翻訳などが必要な文に、ブックマーク（付箋）を設定することができます。ブックマークの設定されている文へ移動することができるので長文を翻訳する場合に便利な機能です。また、ブックマークの追加されている文章を翻訳したり、翻訳メモリに登録したりすることもできます。

● ブックマークの追加と削除

ブックマークの追加と削除の方法を説明します。

マウス操作で実行する

ブックマークを追加する文のブックマークエリアにマウスポインタを移動し、マウスポインタが虫ピンの形に変わったところでクリックすると  が付き、ブックマークが追加されます。 を直接クリックするとマークが消えてブックマークが外されます。

ツールバーから実行する

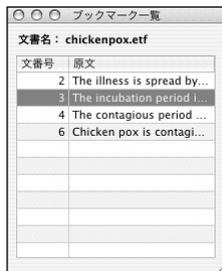
ブックマークを追加する文にキャレットを置いて、ツールバーの「ブックマーク」にある「+」をクリックすると、 が付き、ブックマークが追加されます。「×」をクリックするとマークが消えてブックマークが外されます。

● ブックマークへ移動

ブックマークの付加されている文に次々と移動することができます。ツールバーの「ブックマーク」にある「▼」をクリックすると、後方のブックマークへ移動します。「▲」をクリックすると、前方のブックマークへ移動します。

● ブックマークの一覧表示

ブックマークの付加されている文章を一覧表示することができます。ツールバーの「ブックマーク」にある「一覧」をクリックすると、ブックマーク一覧ダイアログが表示されます。



ブックマーク一覧にある文をダブルクリックすると、該当文に移動します。再度ツールバーの「一覧」をクリックするか、ブックマーク一覧のクローズボタンをクリックすると、ブックマーク一覧は閉じます。

● アクション

ブックマークの付加されている文章に対して、いくつかの機能を実行することができます。ツールバーの「ブックマーク」にある「アクション」から機能を選択すると、ブックマークの付加されている文章に対して、当該機能が実行されます。

第 7 章 翻訳文の作りかた

この章の内容

この章では、Transterを使って翻訳文を作る際に役立つ法則について説明しています。

これらの法則に従って翻訳前にコードを入力しておくこと、翻訳の際により正確な訳文を得ることができます。

7.1 原文編集と制御コード

原文編集とは、翻訳する文書ファイルを読み込む前に、エディタやワープロを使ってTranserが翻訳しやすいように制御コードを入力することです。原文編集を行うことにより、翻訳精度を向上させることができます。ここでは、英→日を例にして説明していますが、日→英でも同じ制御コードを使用できます。



制御コードはすべて半角の英字で入力してください。

7.1.1 ファイルを読み込むときに使われる制御コード

次の制御コードは、テキストファイルを読み込む際に動作します。まずエディタやワープロなどで制御コードを入力し、[ファイル]―[開く]を選択してファイルを読み込んでください。

● 文の強制的分割…………… ¥|

箇条書きなどで、1.、(1)、(a)などが先頭にあって、明確にわかる場合は自動的に文（翻訳の単位）を分けます。しかし、次の例のような場合では、明確な目印がないので、¥記号を使って文を分割してください。この記号を入れると、この記号までを1つの文として判定します。

前編集なし：

```
r the file is readable;  
w the file is writable;  
x the file is executable;  
- the indicated permission is not granted.
```

結果：

```
rファイルが、読める；  
wファイルが、書くことができる；  
ファイルが実行可能であることを×印を付ける；  
- 計器に表示された許可は、与えられない。
```

前編集後：

```
r ¥| the file is readable;  
w ¥| the file is writable;  
x ¥| the file is executable;  
- ¥| the indicated permission is not granted.
```

結果：

- r ファイルは、読める；
- w ファイルは、書くことができる；
- x ファイルは、実行可能である；
- 計器に表示された許可は、与えられない。

7.1.2 翻訳エディタで使用できる制御コード

次の制御コードは、ファイルを読み込む前の前編集でも入力できますが、ファイルを読み込んだ後、原文を編集して使用することもできます。また、フレーズ指定でも同じことができます。



フレーズ指定では品詞句を明確に指定することができるので、この処理はフレーズ指定で行うことをお勧めします。

● 翻訳しない（訳さない）…………… ¥[¥]

1つの文の中で、¥[¥]で囲まれた部分を名詞として、そのまま出力します。製品名、地名などの固有名詞の表現などを囲んでおくとの確な翻訳が行えます。また、英語のままにしておきたい場合にも使用してください。

原文：Our address is ¥[1-29-11 Takadanobaba, shinjuku-ku¥].

結果：我々の住所は、1-29-11 Takadanobaba, shinjuku-kuである。

● 構文マーク…………… ¥{ ¥}

英→日は文単位で翻訳するので、文の構造を正確に把握することは翻訳の質を決める大きな要素になります。構文を明確にするために、¥{ ¥}を使ってグループとなっている名詞句、動詞句などを指定してください。

次のものが指定できます。

英→日 名詞にかかる前置詞の範囲

原文 (1) : I bought ¥{two books on the computer technology¥}.

結果 (1) : 私は、コンピュータ・テクノロジーの2冊の本を買った。

原文 (2) : I put ¥{two books¥} on the desk.

結果 (2) : 私は、2冊の本を机に置いた。

(1) の例では、"two books"以下が1つのまとまりなので、"on the computer technology"という前置詞句が"bought"にかかる解釈を捨てる役目をします。(2) の例では、"put"に"on the desk"をかけるために"two books"と"on the desk"の間を¥{ ¥}によって分けています。

ただし、現在、"on the desk"が"put"にかかることを100%保証することはできません。

英→日 動詞にかかる前置詞の範囲

原文 (1) : I cooked food and warmed myself with the fire.

結果 (1) : 私は、食物を料理して、火で暖を取った。

原文 (2) : I ¥{cooked food and warmed myself¥} with the fire.

結果 (2) : 私は、火で食物を料理して、体を暖めた。

(2) の例では "with the fire" が "cooked" にも "warmed" にもかかることを指定します。 (1) の例では、"with the fire" は "warmed" だけにかかります。

英→日 並列の範囲

原文 (1) : I will read books and water flowers.

結果 (1) : 私は、本と水花を読む。

原文 (2) : I will ¥{read books¥} and water flowers.

結果 (2) : 私は、本を読んで、花に給水する。

(1) の例では、"water flowers." までを含めて "read" の目的語として取っています。

(2) の例のように "books" で切れることを指示すると、構文的に正しい解釈がなされます。

7.2 文の解析と括弧の処理について

7.2.1 一般規則

Transer では、一文ごとに文法規則に従って文の構造を製品えた上で翻訳を行います。そのため、文法的に誤っている英文であったり、ある単語の所定の品詞が辞書に登録されていないと解析に失敗することがあります。そういう場合、句の切れ目を境にして翻訳結果をバラバラに出力し、その目印として段点に英→日では「//」を、日→英では「; (セミコロン)」を付加します。このような記号が出力されている場合は、原文を修正して、解析に失敗する原因を除去してから再翻訳してください。

7.2.2 括弧書きの処理

本文中に () などで囲まれたフレーズが登場したとき、括弧中は本文と無関係として別個に翻訳し、括弧の直前に登場した語の訳語の後に括弧フレーズの翻訳結果を埋込みます。

索引

C		い	
CSVフォーマット.....	164	医学用専門語辞書.....	118
F		一文翻訳.....	34
FRAMEタグ.....	217	一括検出.....	127
M		一括登録.....	165
Mailへ転送.....	230	一括フレーズ指定.....	52
MED-Transer	13, 19, 20, 64, 68, 81, 82, 86, 100, 118, 121, 129, 192, 221, 223	一致率.....	104
N		意味索性.....	141
NOTの表記.....	202	印刷.....	17, 188
ntm形式ファイル.....	108, 113	インポート.....	107
P		手順.....	108
PDFファイルを開く.....	177	翻訳メモリのマージ.....	110
S		インポートできるファイルの種類.....	107
Spotlightで検索.....	233	う	
T		受け身にする.....	58, 201
Transerの起動.....	5	え	
Transerの機能.....	4	英語のまま.....	243
Transerの終了.....	8	英→日が作成するファイル.....	183
TSV形式.....	107, 114	〈英日→日英〉変換	
TSVフォーマット.....	164	変換の制限.....	170
W		英→日の終了.....	8
Web検索と翻訳.....	59	英→日用ユーザー辞書.....	136
Wordファイルを開く.....	176	英文字.....	199
あ		エクスポート.....	114
アイコンをダブルクリックして起動.....	5	手順.....	115
アップデートを確認.....	233	エクスポートできるファイルの種類.....	114
い		エディタ.....	219
お		エディタEJ.....	219
大文字・小文字を区別する.....	102	エディタJE.....	219
大文字を小文字にして訳す.....	195	エディタの表示設定.....	208
		エリア選択.....	235
		エンコーディング.....	175

オプション翻訳 55, 57, 197, 203

か

外部辞書 118, 125
 書き込み可能なユーザー辞書 132
 書き込み用ユーザー翻訳メモリ 84
 学習解除 40, 45
 学習機能 39, 41
 学習辞書の表示色 42
 学習辞書の保存場所 41
 学習辞書を使わない 43
 格助詞の簡易登録 160
 格助詞の登録 160
 確認翻訳 37
 確認翻訳テキスト 181
 確認翻訳の設定 209
 確認翻訳ファイルを開く 177
 箇条書き翻訳 56
 数の訳 203
 カタカナの訳
 長音 199
 連結文字 199
 カタカナを「・」でつなぐ 197
 括弧書きの処理 244
 カット 235
 簡易検索機能 237
 簡易登録 136, 149
 環境設定
 詳細 207
 表示 206
 環境の設定 191
 冠詞の訳指定 197
 冠詞推定 203
 完全一致文の登録 89
 完全一致文検索 65

き

キーボード 33
 キーボード入力 34
 キーワード検索 65, 75
 機械翻訳 69
 機械訳 106
 記号 199

起動 214
 起動画面 214
 起動時の設定 208
 機能の実行 31
 基本語辞書の語数 118
 基本操作 30
 キャレットの移動 31
 強制的に機械翻訳を実行 69

<

空行 177
 空白 178
 句読点の訳指定 199

け

形容詞の簡易登録 143
 形容詞の詳細登録 144, 158
 形容詞の登録 143, 158
 簡易登録 158
 形容詞をタグにした文の登録 96
 形容動詞の登録 158
 現在の文書設定ダイアログ 194
 EJ翻訳 195
 JE翻訳 201
 検索モード 102
 登録情報 105
 翻訳メモリ 81
 訳文生成方法 100
 検索 235
 検索エンジンの指定 60
 検索結果の表示件数 104
 検索結果表示 104
 登録情報 104
 訳文 104
 検索モード 102
 限定詞 44
 原文エリア 11
 原文テキスト 181
 原文編集 242

こ

合成語を分割して訳す 194
 構文マーク 243

候補を表示する.....	222
コピー.....	235
コメント.....	105
固有名詞を英語のまま表示する.....	196
コロソ.....	178
コンテキストメニュー.....	33, 211

さ

サービス機能を使った翻訳.....	61
サービスメニューで翻訳メモリの使用.....	209
最近使った書類.....	175
再翻訳.....	34, 54
削除.....	235
削除したユーザー辞書の復元.....	132
作成者.....	105

し

辞書検索.....	223
辞書参照.....	122
辞書ツール	
参照する辞書.....	163
辞書設定ダイアログから指定する.....	135
辞書ソースの記述形式.....	164
辞書ソースファイルの形式.....	163
文字コード.....	163
辞書ツール.....	161
ソース出力.....	167
ソース変換.....	169
ユーザー辞書ブラウザ.....	162
一括辞書.....	165
辞書参照.....	162
辞書登録.....	16, 40, 60, 136, 149
辞書登録ダイアログ.....	136, 149
クローズボタン.....	139, 152
意味素性.....	151
活用形.....	138, 151
見出し語.....	137, 150
削除.....	138, 152
参照.....	138, 152
詳細登録.....	139, 152
詳細登録モード.....	140, 154
先頭に追加.....	139, 152
登録.....	138, 152

登録内容.....	140, 154
品詞.....	137, 150
訳語.....	137, 150
訳削除.....	140, 153
訳置換.....	139, 153
辞書の一覧.....	124
辞書の構成.....	118
辞書の表示色.....	134
辞書の見かた.....	123
辞書の優先順位.....	133
「～している」の訳.....	202
自動判別.....	51, 106
ジャンプ.....	239
従属接続詞.....	138
従属接続詞の簡易登録.....	146
従属接続詞の登録.....	146
終了.....	8, 182, 214
終了時にブラウザを終了.....	226
主語がないとき.....	201
主語を補う.....	57, 201
主語を省略する.....	58, 201
詳細.....	207
詳細登録.....	136, 149
詳細登録モード.....	140, 154
助動詞の訳指定.....	197
助動詞の訳.....	199
書類の形式.....	174
新規.....	177
新規文書の作成.....	177

す

数字.....	199
数字と日付を自動的に置きかえる.....	103
スタイルの構成.....	192
スタイルの選択.....	193
スタイル名の変更.....	194
ステータス.....	49
ステッドマン辞書.....	118
ステップ検索.....	126
スピーチ.....	230
スペースや句点などの違いを無視する.....	103
すべて選択.....	80
スペルチェック.....	222, 231

せ

制御コード	242
制限	
翻訳メモリのタグ	93
生成情報	90, 91
生成情報を含む文型の登録	99
生成ファイル	48
接続詞の訳指定	197
設定	225
EJ辞書	227
EJ翻訳	227
JE辞書	227
JE翻訳	227
ブラウザ翻訳	226
一般	225
節や文をタグにした文の登録	98
セミコロン	178
全角	103, 197
全角カタカナ	34
選択状態	31
選択部分の置換	236
前置詞の訳指定	197
前置詞の簡易登録	147
前置詞の詳細登録	147
前置詞の登録	147
先頭に追加	139, 152
全文翻訳	36
専門語辞書	118
専門語辞書の設定	134
専門語辞書の優先順位	136
全リスト	40

そ

ソース出力	167
ソース変換	169
その他の訳指定	197

た

タイトル翻訳	55
代名詞の訳指定	197
対訳テキスト	181
対訳ファイルを開く	176
対訳文の削除	88

対訳文の登録方法	86
対訳文を登録する	86
タグ	20, 90
タグ解除	92
タグの指定	92
タグの対応	91
タグ名	90
単位の簡易登録	148
単位の登録	148
単語の対応	12
単語の登録	16

ち

置換	235
超辞典	223

つ

通常翻訳	56, 58
ツールバー	32
ツールバーカスタマイズ	210
次を検索	236
常に所有格と訳す	197

て

テキスト出力	18, 181
テキストファイルの翻訳	11
ですます調で訳す	196

と

動詞にかかる前置詞	244
動詞の簡易登録	142
動詞の詳細登録	142, 157
動詞の登録	142, 156
簡易登録	157
代表的な構文パターン	156
動詞をタグにした文の登録	95
透明度	226
登録確認画面を表示しない	106
登録情報	104, 105
文書を閉じる時にロックされている文	
を登録する	112
登録内容	140, 154

へ

並列の範囲	244
ページ設定	188
ページの表示	60
ペースト	235
別解釈	45
別解釈の自動実行	46
別名で保存	18, 180
編集メニュー	234

ほ

ホームページの翻訳	25, 216
保存	180
翻訳	34, 36, 59
翻訳エディタ	6
翻訳エディタにある文章を一括で登録する	111
翻訳結果	227
翻訳結果の日本語が正しく表示されない場合	218
翻訳結果の保存	18
翻訳検索	221
翻訳辞書の参照	122
翻訳しない	51, 243
翻訳しないタグ	217
翻訳進行状況の表示設定	207
翻訳に関する設定	192
翻訳の中止	36
翻訳の流れ	10
翻訳パレット	214
翻訳パレットの起動	214
翻訳パレットの起動画面	214
翻訳パレットの機能	7
翻訳パレットの終了	8
翻訳ファイル	18
翻訳ファイルの保存	18
翻訳フラグ	74, 88, 106
機械訳	106
自動判別	106
人間訳	106
翻訳文の作りかた	241
翻訳メニュー	216
翻訳メニューの終了	8

翻訳メモリ

インポート	107
インポートできるファイルの種類	107
エクスポート	114
エクスポートできるファイルの種類	114
キーワード検索	75
コメント	105
スペースや句点などの違いを無視する	103
すべて選択	80
タグ	90
タグの制限	93
タグの対応	91
タグを外す	75
タグ解除	92
タグ指定	92
タグ名	90
ユーザー翻訳メモリの作成	81, 83
ユーザー翻訳メモリの選択	81
ユーザー翻訳メモリの対訳文を一覧表示する場合	79
リストから外す	83
一致文検索	76
一致率	104
画面操作	80
完全一致文の登録	89
環境設定	100
基本操作	66
起動	66
強制的に機械翻訳を実行	69
形容詞をタグにした文の登録	96
結果表示エリアから貼り付け	79
検索モード	102
検索結果の貼り付け	78
検索結果表示	104
検索結果表示エリア	78
作成者	105
使用する翻訳メモリを選択する	83
終了	67
書き込み用ユーザー翻訳メモリ	84
色指定	101
数字と日付を自動的に置きかえる	103
制限	78
生成情報	90, 91

訳振り	228
訳振りの自動実行	229
訳文	104
訳文生成方法	100
訳文テキスト	181
訳文に採用	46
訳文の保存	18
訳文ファイル	18
訳文を原文と同じページに表示	227
訳文を他の色で表示	227
訳文に採用	228

ゆ

ユーザー辞書	
簡易登録	136, 149
語数	118
削除	132
辞書の表示色	134
書き込み可能なユーザー辞書	132
詳細登録	136, 149
新規に作成する	131
単語を登録する	16, 136, 149
登録ダイアログ	136, 149
登録用ユーザー辞書	132
優先順位	133
ユーザー辞書の更新	172
ユーザー辞書の復元	132
ユーザー辞書ブラウザ	162
ユーザー定義	199
ユーザー翻訳メモリ	81
新規に作成する	83
登録用ユーザー翻訳メモリ	84
翻訳メモリの名前を変更する	85

よ

読み上げ	125, 230
読み上げを停止	230

り

略語	200
----	-----

る

類似文検索	65, 76
-------	--------

れ

例文	90
連語の扱い	127
連続する文章の翻訳	36
連続ファイル翻訳	47
ステータス	49
生成ファイル	48
中止	48
翻訳結果の表示	48
連体助詞の簡易登録	161
連体助詞の登録	161

ろ

ロック	46, 232
ロック解除	232

わ

ワンポイント翻訳	220
ワンポイント翻訳ウィジェット	62

MAC-Transer V11.5
MED-Transer V11.5
ユーザーズ・ガイド

〈ユーザーサポート〉

株式会社クロスランゲージ ユーザーサポート

TEL 03-5215-7635 FAX 03-5215-7636

E-mail : support@crosslanguage.co.jp

祝祭日を除く月曜日～金曜日10:00-12:00 13:00-17:00

発行日	2018年 1月（初版）
編集／発行	株式会社クロスランゲージ 〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3番6号 紀尾井町パークビル2F
ホームページ	http://www.crosslanguage.co.jp/
サポートページ	http://www.crosslanguage.co.jp/support/